

## 5. 「男女共同参画社会」に関する調査結果の総括

男女が、社会の対等な構成員として、社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、政治的、経済的、社会的及び文化的利益を均等に享受し、共に責任を担う男女共同参画社会の実現は、福岡市に限らず、国全体で取り組むべき重要課題であり、これまでも関連するさまざまな法律や制度が実施されてきた。

福岡市においても、男女共同参画を推進する条例（平成 16 年施行・平成 17 年改正）や男女共同参画基本計画の策定（第 4 次・令和 3～7 年度）など、幅広くその実現に向けた取組みを進めている。

こうした中、市民の男女平等の現状や意識、「男女共同参画社会」に対するニーズ等を把握し、今後の施策を検討するための参考として、調査結果を確認したい。

### （1）さまざまな分野における男女の地位の平等感（問 20）

さまざまな分野における男女の地位の平等感（問 20）は、『男性が優遇されている』（＝「男性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」）と思うものは、「政治の場」（77.6%）、「社会全体で見た場合」（72.2%）、「社会通念・慣習・しきたりなど」（72.0%）などの割合が高く、「平等」は、「学校教育の場」（46.9%）の割合が高い。

さまざまな分野で、女性の『男性が優遇されている』と、男性の「平等」がより高い傾向は共通するが、「職場」で女性の 18～29 歳の「平等」（38.1%）が同年代の男性より高いものや、「法律や制度上」で男性は年代が低いほど『女性が優遇されている』の割合が高いものなど、分野によっては、異なる意識がみえるものもある。

平成 25 年度調査及び平成 30 年度調査と比較すると、男女ともに「政治の場」、「法律や制度上」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「社会全体で見た場合」は、「どちらかといえば」を含む『男性が優遇されている』は大きく増加していないものの、より明確に「男性の方が優遇されている」とする回答は男女とも増加している。一方で、「職場」の『男性が優遇されている』の割合が減少しており、職場内における均等な機会の提供が進んでいること等が考えられる。

### （2）仕事と性別に関する意識（問 21～27）

「女性が職業を持つ」ことに対する考え（問 21）は、「ずっと職業を持っている方がよい」（52.9%）、「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」（33.5%）が主流で、基本的には職業を続ける前提となっており、持たない方がよいとする回答は少数派である。女性は「ずっと職業を持っている方がよい」（56.7%）の割合が男性に比べて 8.4 ポイント高く、特に 30 代～60 代は「ずっと職業を持っている方がよい」が 6 割台で、男性も 30 代・40 代では「ずっと職業を持っている方がよい」が 6 割弱など、30 代・40 代の子育ての中心となる年代は、男女とも女性が職業を持ち続けることを望んでいる。

過去の調査結果と比較すると、男女とも「ずっと職業を持っている方がよい」の割合が「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」を上回り、性別に関係なく、確実に意識の変化が進んでいる。

女性が職業を持っている方がよい理由（問 22）は、「自分や家族の生活のため」（57.1%）、「経

済的に自立するため」(45.2%)が多く、経済的な安定を得るための理由が上位となっており、こうした背景から、女性もずっと職業を持っている方がよいと考える人が増えた(問21)と考えられる。女性では「経済的に自立するため」(49.0%)が男性に比べて9.4ポイント高く、女性18～29歳・30代では6割近くなど、特に低い年代の自立志向が強い。

現在、職業を持っているか(問23)は、「持っている」(58.3%)に対し「持っていない」(39.6%)で、女性30代～50代は8割近くが「持っている」ものの、女性60代(40.4%)は男性60代に比べて19.6ポイント低く、男女の差が大きく開いている。

現在の職場における男女差別(問24)は、「不当に差別されているとは思わない」(46.5%)が多いものの、「昇進、昇格に差別がある」(17.9%)、「賃金に差別がある」(15.2%)、「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」(14.0%)なども見受けられる。女性60代の「賃金に差別がある」(30.5%)、「能力を正当に評価しない」(28.8%)、女性50代の「昇進、昇格に差別がある」(24.3%)など、高い年代の女性では不当に差別されていると感じている人の割合が高い。過去の調査結果と比較すると、男女ともに「不当に差別されているとは思わない」が増加し、確実に改善に向かっているが、引き続き法令等の遵守を働きかけていくことが重要である。

男性が育児休業や子の看護休暇を取得すること(問25)は、「男性も育児休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」(51.0%)、「男性も育児休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」(36.0%)で、男女ともにほとんどの人は、その必要性を認めているが、実際に取ることの難しさを感じている人は多い。男女ともに18～29歳では「男性も育児休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」が過半数となるなど、概ね年代が低いほど積極派の割合が高い。平成30年度調査結果と比較しても、すべての年代で積極派の割合が高くなっており、男女とも概ね年代が低いほど上昇幅が大きく、子育て世代を含む低い年代は、その意義や主旨の理解が進んでいると考えられる。女性が職業を持つことに対する考え方(問21)で、「ずっと職業を持っている方がよい」と考える人は、積極派の割合が高く、女性の就業継続と男性の育児参加は、どちらも重要で切り離せない関係があり、男女ともに、その必要性を認識していることがわかる。

男性が介護休業を取得すること(問26)は、「男性も介護休業を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」(45.9%)、「男性も介護休業を積極的に取るべきである」(45.0%)で、男女ともに18～29歳では「男性も介護休業を積極的に取るべきである」の積極派が過半数となっている。平成30年度調査と比較すると、ほぼすべての年代で積極派の割合が高くなり、意義や必要性への理解が進んでいることがわかる。女性が職業を持つことに対する考え方(問21)で、「ずっと職業を持っている方がよい」と考える人は、男女ともに積極派の割合が高く、育児休業同様、女性が仕事を続けるためにも、男性の積極的な介護休業取得を望む声は多い。

男性が女性とともに家事や子育てなどを担っていくために必要なこと(問27)は、「男性が家事・子育てなどを担うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(65.5%)、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」(65.3%)の2つが重要ととらえられ、「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(47.9%)を上回っており、制度等の普及の前に、男性の意識改革や家族との話し合い等の必要性を感じている

人が多い。また、女性では「年長者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」(46.4%)が男性に比べて15.2ポイント高くなっており、夫婦だけでなく、その親、祖父母、会社の上司など周囲の理解も重要ととらえられている。そうした当事者や家族など周囲の理解が深まることで、育児や介護など家族との時間を尊重する各種制度も、より有意義なものとなり、積極的な活用が進むと考えられる。

### (3) 男女間の役割分担(問28~30)

現在の配偶関係(問28)は、「配偶者(パートナー)がいて、共働きでない」(31.3%)、「配偶者(パートナー)がいて、共働きである」(30.1%)、「未婚」(20.7%)となっている。男女ともに18~29歳は「未婚」の割合が高いが、30代以上では配偶者がいる割合が高くなり、30代~50代は「共働きである」が「共働きでない」を大きく上回り、配偶者(パートナー)がいる人の多くは、共働き世帯となっている。

配偶者(パートナー)がいる家庭の役割分担(問29)は、女性の「主に自分」の割合が高いものは、「炊事、掃除、洗濯などの家事」(81.2%)、「家計支出の管理」(57.2%)、「育児や子どものしつけ」(50.6%)、「町内会、自治会、PTAなどの会合への参加」(44.7%)、などで、これらは男性も「主に配偶者(パートナー)」とする回答が相対的に多い。男性の「主に自分」の割合が高いものはないが、「自分と配偶者(パートナー)が同じくらい」の割合が高いものは、「子どもの教育方針や進学目標を決める」(女性40.0%・男性37.9%)、「高額な商品や土地、家屋の購入」(女性44.9%・男性47.9%)、「将来の生活設計を立てる」(女性57.7%・男性58.9%)となっており、2人で決めるものという意識が強い。

共働き状況別には、共働き世帯は、「子どもの教育方針や進学目標を決める」は女性の「主に自分」の割合が共働きでない世帯より7.5ポイント、男性の「主に配偶者(パートナー)」の割合が同5.4ポイント高く、「育児や子どものしつけ」は女性の「主に自分」の割合が共働きでない世帯より5ポイント高い。これに対し、共働きでない世帯は、「炊事、掃除、洗濯などの家事」は女性の「主に自分」の割合が共働き世帯より7.2ポイント、男性の「主に配偶者(パートナー)」の割合が同14.5ポイント高く、「親や家族の介護」も女性の「主に自分」の割合が共働き世帯より7.1ポイント、男性の「主に配偶者(パートナー)」の割合が同8.5ポイント高い。

このように、家事や子育て、地域行事への参加など、家庭内や日常的に取り組むものは女性が主に役割を担っている。これに対し、子どもの進学方針、将来設計などある程度長期的に取り組むものや、不動産など高額な商品購入は、共同でという人が多い。依然として場面による役割意識がうかがえ、子どもに対する「しつけ」は女性が担うケースが多いが、「教育や進学」は2人で考える人が多く、どちらも教育ではあるものの、子どもが小さい頃の、配偶者(パートナー)間の認識の違いが顕著である。

子どものしつけや教育(問30)は、『賛成』(=「賛成」+「どちらかといえば賛成」)の割合は、「女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい」(92.9%)、「男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」(92.8%)、「進路は、理系、文系を性別にとらわれることなく選択する方がよい」(88.9%)、「男女の区別なく、個性(自分らしさ)を尊重して育てる方がよい」(91.9%)で、ほとんどの人は、子どもは、性別による役割分担など

関係なく、自立して、能力や個性を大事にしながら育ててほしいと考えている。いずれも、女性がより『賛成』が多いものの、その差は小さく、また年代による差も小さいことから、これからを担う子どもに対しては、男女共同参画社会が当たり前の世の中で育っていくことを望んでいる。

#### (4) 恋人、配偶者、パートナーからの暴力について (問 31~34)

恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験 (問 31) は、いずれも「全くない」が主流であるものの、『受けた経験がある』(=「何度もされた」+「1・2度された」)の割合が高いものは、精神的に追い詰めることとして、「大声で怒鳴る」(28.6%)、「話しかけても長い間無視する」(25.4%) などが高い。

これに対し、「身体への直接の攻撃など」は、『受けた経験がある』は1割未満と少数だが、女性の方が割合は高く、年代が高いほど経験者の割合も高い傾向にある。

「性に関すること」は、「あなたの意に反して性行為を強要する」、「避妊に協力しない」のいずれも『受けた経験がある』は1割未満と少数だが、女性の方が割合は高い。

「その他、行動の束縛など」は、「あなたが社会活動や仕事をするのをいやがる(させない)」は『受けた経験がある』は1割未満と少数だが、女性の割合が高く、概ね年代が高いほど高い。また、「あなたの外出先や携帯電話、メール、郵便物などを細かくチェックする」は、男性18~29歳・30代で『受けた経験がある』の割合が1割を超え、女性より高い。

精神的に追い詰められる暴力以外は、いずれも経験者は少数であるものの、当事者にとっては大きな傷となることから、経験者の数に関係なく、アフターケアの充実や根絶に向けた取組みを続けていくことが重要となる。

「身体への直接の攻撃など」は、『受けた経験がある』人が、暴力を受けて、どう行動したいと思ったか (問 32) は、「がまんするしかないと思った」(39.3%)、「離婚や別居、交際を解消したいと思った」(27.5%)、「相手と話し合いたいと思った」(26.9%) などが主な回答である。女性は、概ね年代が高いほど「がまんするしかないと思った」の割合が高いが、女性の「離婚や別居、交際を解消したいと思った」(35.5%) が男性に比べて21.3ポイント高く、「経済的に困らないように仕事を働きたいと思った」(22.5%) が同じく17.5ポイント高いなど、相手から離れて自立することを考える人も多かった。

同じく、暴力を受けて、実際はどう行動したか (問 33) は、「がまんした」(48.9%)、「相手と話し合った」(28.9%) などが多く、どう行動したいかで上位だった別居や交際の解消 (問 32) を、実際に行動に移した人は少ない。女性は「身近な人に相談した」(21.7%) の割合が男性に比べて17.1ポイント高く、周りに相談しながら耐えている状況がうかがえる。

女性は暴力を受けた際、相手から離れて自立したいと考えるものの、身近な人にだけ相談しながら我慢を続ける人は多く、こうした女性のために深刻な事態になる前の相談体制の充実や次のステップへ行く多様な選択肢を尊重した支援など、個々の事情に合わせた幅広い支援を拡充していくことが求められる。

一方、男性は「何もしなかった」(26.2%) の割合が女性に比べて12.2ポイント高く、暴力を受けても我慢し、誰にも相談しない人も少なくないと考えられ、男性も、気軽に相談できる体制を充実することが求められる。

恋人、配偶者、パートナーからの暴力について知っている相談窓口（問 34）は、「警察」（68.8%）、「区役所（保健福祉センター）」（30.1%）などが多いが、警察は、より緊急性をとまなうケースが想定され、警察に相談するまでに既に深刻な事態となっている可能性があり、より未然に被害を防ぐためには、身近な公的機関窓口の認知を広げることが重要となる。また、女性は身近な人に相談する人が多い（問 33）ことから、そうした相談を受けた第 3 者が、我慢、躊躇する本人に代わって相談できるような、柔軟な対応も求められる。

#### （5）地域活動について（問 35～36）

過去 5 年間における地域諸団体の活動への参加経験（問 35）は、「参加していない」（60.6%）に対し、「団体に所属し、活動に参加した」（27.9%）と、参加経験者は少ない。女性では「団体に所属し、活動に参加した」（32.0%）の割合が男性に比べて 9.4 ポイント高く、前述の男女の役割分担（問 29）でみたように、地域行事等への参加は女性の役割という慣習が根強い。男女ともに 18～29 歳の低い年代は、9 割以上は「参加していない」が、女性 40 代では「団体に所属し、活動に参加した」（48.2%）が半数近くに達し、女性がその役割を担うケースが多い状況である。

地域活動において女性のリーダーが少ない理由（問 36）は、「これまでの慣習で、リーダーには、男性が就任してきたから」（36.2%）、「女性は家事や仕事で忙しいから」（34.6%）、「男性中心の組織運営になっているから（役職や仕事分担、活動時間帯など）」（27.3%）など、慣習に関する理由が上位にある。過去の調査結果と比較すると、女性では「女性は家事や仕事で忙しいから」の割合が増加しており、女性にこれ以上の余裕がないことも大きな要因といえるが、地域行事等へは、女性の参加が多い（問 29）にも関わらず、地域のリーダーは依然として男性中心であり、特に低い年代の女性にとっては、地域活動への参加意欲にも影響することが考えられる。慣習を改め、男女関係なく、適材適所で活動、活躍できる体制が求められる。

#### （6）災害時対応について（問 37）

大規模災害時における女性や子育て家庭ならではの問題や困難に備えるために必要なこと（問 37）は、「避難所で女性や子どもが安全に過ごすことができるようにすること」（54.1%）、「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性が男性とともに参加できるようにすること」（39.1%）、「日頃から、家族や地域とのコミュニケーションを大切にすること」（29.3%）などが多く、避難所での女性や子育て家庭に対する特別な配慮により、安全・安心を確保することが重要視されている。

#### （7）誰もが尊重される男女共同参画社会の実現に向けて（問 38～43）

男女共同参画に関する言葉や施策の認知度（問 38）は、「内容を知っている」の割合は、「ジェンダー平等」（56.4%）、「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）」（39.4%）、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」（33.9%）などが高い。「デートDV」では「内容を知っている」の割合は、女性（31.2%）が男性に比べて 11.1 ポイント高いが、そのほかの男女差は大きくない。

男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと（問 39）は、「女性を取り巻くさまざまな

まな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(34.3%)が多く、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(18.0%)、「法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」(12.3%)などとなっており、女性の自立や制度改正等よりも偏見や固定観念を改めることが重要と感じている人が多い。過去の調査結果と比較すると、女性では「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合が増加している。これまでも、性別による差別を解消し、男女平等を実現するための取組みにより、古い慣習などは改められ、一定の成果はみえてきているものの、依然として固定的な社会通念、慣習は残っており、今後もなお改善の余地は大きいといえる。子どものしつけや教育(問30)で多くの人が、子どもたちには、男女、年代関係なく、性別による違いのない社会を望んでおり、社会全体で、慣習を改めることへの抵抗感は薄れてきていると考えられる。次代を担う低い年代だけでなく、全ての年代の男女が、社会のあらゆる分野で平等であることが重要である。男女の固定的な役割分担意識が年代によって差があるため、引き続き意識改革に向けた啓発が重要となる。

「男女共同参画社会」実現のために、市が力を入れていくべきこと(問40)は、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(53.6%)、「保育の施設・サービスを充実し、子育て中でも働き続けられるよう支援する」(52.0%)、「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」(51.6%)などが多い。女性では「介護の施設・サービスを充実し、介護をしながらでも働き続けられるよう支援する」(54.3%)の割合が男性に比べて13.4ポイント高い。子育てする人が多い女性30代では「保育の施設・サービスを充実し、子育て中でも働き続けられるよう支援する」の割合が64.4%と高い。女性の仕事と子育てや介護の両立への支援が求められている。配偶者(パートナー)がいる女性の多くは仕事を持ち(問28)、経済的理由も含め子どもが生まれてもずっと仕事を続ける方がよいと考える人が増加しており(問21)、女性が安心して仕事を続けられる環境づくりは、これまで以上に重要度が増しているといえる。

女性が生きづらさを感じる理由(問41)は、「仕事と育児・家事・介護を両立する負担が大きい」(71.4%)、「家族の世話をすること(育児・家事・介護)を当然と思われる」(64.5%)、「結婚や子育てなどで仕事や生き方を自由に選べないことがある」(49.7%)などが多い。特に、仕事、結婚、子育てなどが複雑に関わる年代である女性30代では「結婚や子育てなどで仕事や生き方を自由に選べないことがある」の割合が74.1%となっている。

男性が生きづらさを感じる理由(問42)は、「家族を養う経済力を求められる」(68.6%)、「仕事の責任が重い、仕事を優先することを当然と思われる」(61.8%)などが主なもので、男性としての責任感が重荷となっている状況がうかがえる。このほか、男性の「仕事と育児・家事・介護を両立する負担が大きい」(22.1%)は、女性に比べて7.9ポイント高く、女性同様、仕事と育児・家事等の両立を負担に感じる人は、女性が考えるよりも多い。

このほか、男女ともに18~29歳では『なにかにつけ「女だから(男だから)」「女のくせに(男のくせに)」と言われる』の割合の高さが顕著である(問41・42)。男女ともに18~29歳は、さまざまな分野における男女の地位の平等感(問20)や、男性が育児休業や子の看護休暇を取得することなどの肯定派が他の年代と比較して多い(問25)など、男女平等に対する意識が比較的高い。この年代は、以前より行われてきた学校での男女平等に関する教育の効果や、関連法律等の施行

によって、男女平等に対する意識が高まっている年代であるものの、現実には依然として残る慣習や固定的な価値観で、「女のくせに」「男のくせに」などと言われる機会が少なくない状況が、こうした生きづらさを感じることに繋がっていると考えられる。

男女の生きづらさを解消するための有効な取組み（問43）は、「男女ともに働きやすい職場環境づくりを推進する」（55.4%）、「人の意識（考え方）を変える」（42.9%）、「子どもの頃からの男女平等教育を推進する」（32.9%）などが多く、職場での取組みが重視されている。日常の主活動として、仕事の場合は大きなウエイトを占め、職場の生きづらさは私生活にも影響を及ぼすことから、性別や年代を問わず、個々が尊重される働きやすい職場環境づくりを支援していくことが求められる。「人の意識（考え方）を変える」は、慣習や固定概念に関する部分で、職場等の環境改善とともに、一人ひとりの意識を高めることが、生きづらさを解消するとともに、男女平等の社会づくりのさらなる進展にもつながる。

古い慣習を改め、男女共同参画社会を実現するためのさまざまな法律や制度も拡充し、男女とも言葉や施策の認知も一定の浸透を見せているが、旧来の慣習は今もなお根強く残っており、法律等が整備されてきた分、より問題として浮き彫りになってきている面もある。なぜ改められないかも含め、再度社会を見直し、一つひとつ改善を実行に移すための取組みを後押ししていくことが重要である。

本調査結果をみても、男女共同参画社会の実現は、性差とともに、年代ごとの意識の差による問題も含んでおり、そこに慣習が残っているものと考えられる。慣習として今なお残る部分で、暗黙の了解のように受け継がれる行動、意識が、真の男女共同参画社会の実現を阻む要因となっている状況がうかがえる。

法律や制度等のさらなる充実は必要であり、国がその責を負うことになるが、そこから漏れ続けてきた今も残る慣習や過去の価値観を、福岡市としていかに改善していくかについて、その取組みを促し、支援するための方策を検討していくことが求められる。

性差はもちろん、年代ごとの意識の差により平等が妨げられることのないよう、男女が対等に、相互が尊重し合える社会づくりを進めることが重要といえる。

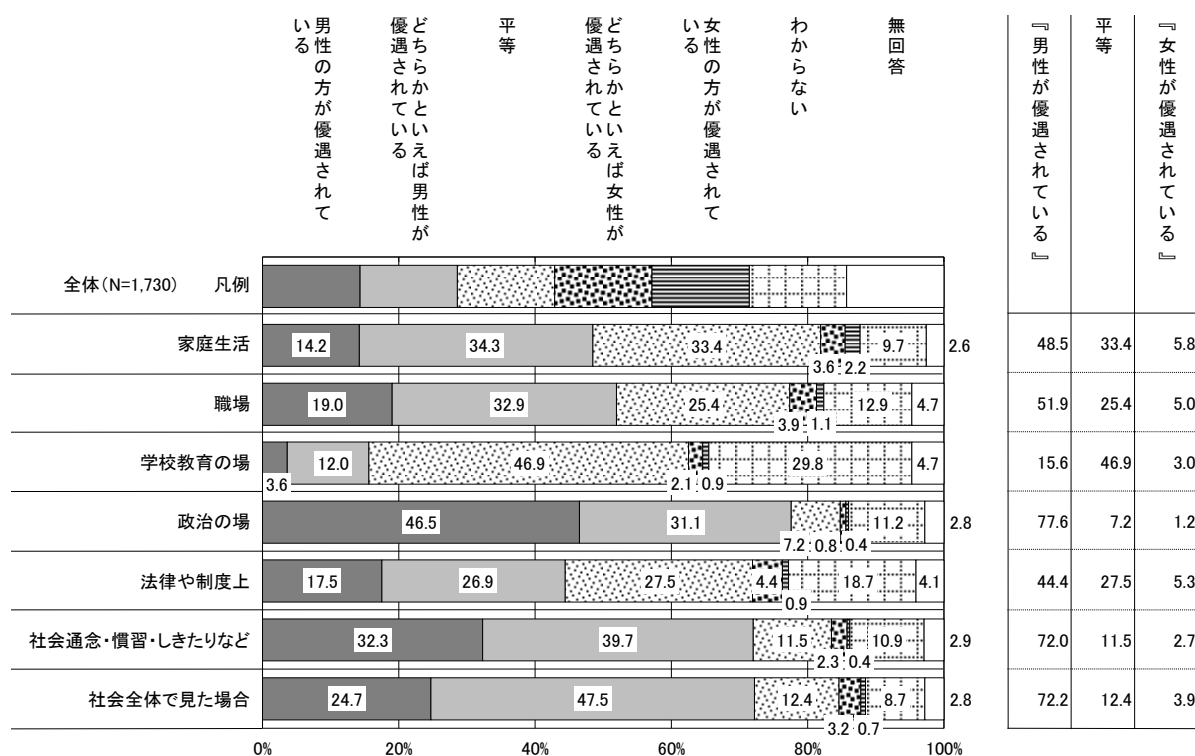
## 6. 「男女共同参画社会」に関する調査結果

### (1) さまざまな分野における男女の地位の平等感

**問 20** あなたは、下表の(1)～(7)の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
 (1)～(7)のそれぞれの項目について、あなたの考えに最も近いものを**1つずつ**選んでください。

さまざまな分野における男女の地位の平等感について聞いたところ、『男性が優遇されている』(=「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」)の割合は、「政治の場」が77.6%と最も高く、次いで「社会全体で見た場合」(72.2%)、「社会通念・慣習・しきたりなど」(72.0%)となっている。また、「学校教育の場」では「平等」の割合が46.9%となっており、他の項目に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感【全体】





① 家庭生活

性別にみると、女性では『男性が優遇されている』(57.3%)の割合が男性(36.0%)に比べて21.3ポイント高くなっている。また、男性では「平等」(45.9%)の割合が女性(24.9%)に比べて21.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性50代・60代では『男性が優遇されている』の割合が6割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 (1) 家庭生活【性・年代別】

		単位: %										
		調査数	男性の方が優遇されている	優どちらかといえらば男性が	平等	優どちらかといえらば女性が	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	『男性が優遇されている』	平等	『女性が優遇されている』
全体		1,730	14.2	34.3	33.4	3.6	2.2	9.7	2.6	48.5	33.4	5.8
性・年代別	女性計	1,004	18.2	39.1	24.9	2.6	1.2	10.7	3.3	57.3	24.9	3.8
	18～29歳	105	8.6	30.5	35.2	3.8	1.9	20.0	-	39.1	35.2	5.7
	30代	135	18.5	34.1	28.1	3.7	2.2	12.6	0.7	52.6	28.1	5.9
	40代	166	24.1	34.9	26.5	2.4	1.2	10.8	-	59.0	26.5	3.6
	50代	178	26.4	40.4	23.0	1.7	1.1	6.7	0.6	66.8	23.0	2.8
	60代	146	19.2	47.3	19.9	2.7	-	8.9	2.1	66.5	19.9	2.7
	70歳以上	268	12.7	42.9	22.0	2.2	1.1	8.6	10.4	55.6	22.0	3.3
	男性計	702	8.1	27.9	45.9	5.0	3.6	8.1	1.4	36.0	45.9	8.6
	18～29歳	58	1.7	12.1	56.9	-	8.6	19.0	1.7	13.8	56.9	8.6
	30代	71	11.3	19.7	47.9	7.0	4.2	9.9	-	31.0	47.9	11.2
	40代	103	6.8	27.2	42.7	8.7	5.8	8.7	-	34.0	42.7	14.5
	50代	140	8.6	31.4	42.1	7.9	2.9	7.1	-	40.0	42.1	10.8
60代	135	10.4	28.1	45.2	3.7	2.2	7.4	3.0	38.5	45.2	5.9	
70歳以上	186	8.1	33.9	46.2	2.7	1.6	4.8	2.7	42.0	46.2	4.3	

② 職場

性別にみると、男性では「平等」(31.2%)の割合が女性(21.2%)に比べて10.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性50代では『男性が優遇されている』の割合が63.4%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、女性では概ね年代が低いほど「平等」の割合が高くなっており、18～29歳では38.1%となっている。さらに、男性18～29歳・30代・50代では『女性が優遇されている』の割合が1割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 (2) 職場【性・年代別】

単位: %

	調査数	男性の方が優遇されている	優どちらかといえれば男性が	平等	優どちらかといえれば女性が	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	『男性が優遇されている』			
									平等	『女性が優遇されている』		
全体	1,730	19.0	32.9	25.4	3.9	1.1	12.9	4.7	51.9	25.4	5.0	
性・年代別	女性計	1,004	24.0	31.4	21.2	2.7	0.6	15.0	5.1	55.4	21.2	3.3
	18～29歳	105	13.3	24.8	38.1	5.7	2.9	15.2	-	38.1	38.1	8.6
	30代	135	25.2	33.3	26.7	3.7	1.5	9.6	-	58.5	26.7	5.2
	40代	166	29.5	28.9	27.1	3.6	0.6	9.6	0.6	58.4	27.1	4.2
	50代	178	30.3	33.1	24.2	3.4	-	9.0	-	63.4	24.2	3.4
	60代	146	25.3	30.8	19.2	1.4	-	19.2	4.1	56.1	19.2	1.4
	70歳以上	268	19.8	34.0	6.7	0.4	-	22.8	16.4	53.8	6.7	0.4
	男性計	702	12.3	35.5	31.2	5.8	1.9	9.7	3.7	47.8	31.2	7.7
	18～29歳	58	6.9	29.3	32.8	3.4	6.9	19.0	1.7	36.2	32.8	10.3
	30代	71	14.1	33.8	33.8	9.9	4.2	4.2	-	47.9	33.8	14.1
	40代	103	12.6	34.0	39.8	8.7	1.0	3.9	-	46.6	39.8	9.7
	50代	140	14.3	31.4	36.4	10.0	2.1	5.7	-	45.7	36.4	12.1
	60代	135	12.6	36.3	31.9	5.2	-	8.9	5.2	48.9	31.9	5.2
	70歳以上	186	11.8	41.9	20.4	-	0.5	15.6	9.7	53.7	20.4	0.5

### ③ 学校教育の場

性別にみると、男性では「平等」(52.7%)の割合が女性(43.1%)に比べて9.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性18～29歳・30代では『女性が優遇されている』の割合が1割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 (3) 学校教育の場【性・年代別】

		単位: %										
		調査数	男性の方が優遇されている	優どちらかといえ ば男性が 優遇されてい る	平等	優どちらかといえ ば女性が 優遇されてい る	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	『男性が優遇されている』	平等	『女性が優遇されている』
全体		1,730	3.6	12.0	46.9	2.1	0.9	29.8	4.7	15.6	46.9	3.0
性・年代別	女性計	1,004	4.6	13.3	43.1	1.5	0.2	31.8	5.5	17.9	43.1	1.7
	18～29歳	105	4.8	10.5	47.6	1.9	1.9	33.3	-	15.3	47.6	3.8
	30代	135	4.4	10.4	50.4	1.5	-	33.3	-	14.8	50.4	1.5
	40代	166	2.4	12.0	53.0	2.4	-	29.5	0.6	14.4	53.0	2.4
	50代	178	6.2	15.2	46.6	2.8	-	29.2	-	21.4	46.6	2.8
	60代	146	4.8	15.1	39.7	0.7	-	36.3	3.4	19.9	39.7	0.7
	70歳以上	268	4.9	14.6	31.0	0.4	-	31.0	18.3	19.5	31.0	0.4
	男性計	702	2.3	10.1	52.7	2.7	1.9	27.1	3.3	12.4	52.7	4.6
	18～29歳	58	-	5.2	58.6	6.9	3.4	24.1	1.7	5.2	58.6	10.3
	30代	71	4.2	7.0	59.2	8.5	5.6	15.5	-	11.2	59.2	14.1
	40代	103	2.9	9.7	47.6	2.9	1.0	35.9	-	12.6	47.6	3.9
	50代	140	1.4	12.1	55.0	2.9	0.7	27.9	-	13.5	55.0	3.6
60代	135	3.0	8.1	55.6	-	2.2	27.4	3.7	11.1	55.6	2.2	
70歳以上	186	2.2	13.4	48.4	1.1	1.1	24.7	9.1	15.6	48.4	2.2	

④ 政治の場

性別にみると、女性では『男性が優遇されている』（82.1%）の割合が男性（72.2%）に比べて9.9ポイント高くなっている。また、男性では「平等」（12.0%）の割合が女性（3.7%）に比べて8.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性30代では『男性が優遇されている』の割合が92.6%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性18～29歳では「平等」の割合が22.4%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 （4）政治の場【性・年代別】

		単位：%								『男性が優遇されている』	平等	『女性が優遇されている』
	調査数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答				
全体	1,730	46.5	31.1	7.2	0.8	0.4	11.2	2.8	77.6	7.2	1.2	
性・年代別	女性計	1,004	53.2	28.9	3.7	0.4	10.2	3.5	82.1	3.7	0.6	
	18～29歳	105	44.8	31.4	6.7	-	-	17.1	-	76.2	6.7	-
	30代	135	60.0	32.6	0.7	-	-	6.7	-	92.6	0.7	-
	40代	166	62.0	23.5	3.6	1.2	-	9.6	-	85.5	3.6	1.2
	50代	178	62.4	24.7	2.2	1.1	1.1	8.4	-	87.1	2.2	2.2
	60代	146	52.7	34.2	1.4	-	-	9.6	2.1	86.9	1.4	-
	70歳以上	268	42.2	29.1	6.0	-	-	10.8	11.9	71.3	6.0	-
	男性計	702	37.9	34.3	12.0	1.3	0.6	12.5	1.4	72.2	12.0	1.9
	18～29歳	58	22.4	22.4	22.4	1.7	1.7	27.6	1.7	44.8	22.4	3.4
	30代	71	46.5	18.3	14.1	-	1.4	19.7	-	64.8	14.1	1.4
	40代	103	39.8	24.3	15.5	1.9	1.0	17.5	-	64.1	15.5	2.9
	50代	140	40.7	35.7	14.3	0.7	-	8.6	-	76.4	14.3	0.7
	60代	135	43.7	35.6	7.4	0.7	0.7	8.9	3.0	79.3	7.4	1.4
70歳以上	186	33.9	47.8	7.5	1.6	-	6.5	2.7	81.7	7.5	1.6	

⑤ 法律や制度上

性別にみると、女性では『男性が優遇されている』(50.7%)の割合が男性(35.6%)に比べて15.1ポイント高くなっている。また、男性では「平等」(38.7%)の割合が女性(20.0%)に比べて18.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性30代では『男性が優遇されている』の割合が60.0%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性では概ね年代が低いほど『女性が優遇されている』の割合が高くなっており、18歳～50代では1割を超えている。さらに、男性70歳以上では「平等」の割合が43.5%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 (5) 法律や制度上【性・年代別】

		単位:%										
		調査数	男性の方が優遇されている	優どちらかといえる 優遇されている 男性が	平等	優どちらかといえる 優遇されている 女性が	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	『男性が優遇されている』	平等	『女性が優遇されている』
全体		1,730	17.5	26.9	27.5	4.4	0.9	18.7	4.1	44.4	27.5	5.3
性・年代別	女性計	1,004	22.6	28.1	20.0	2.6	0.3	21.4	5.0	50.7	20.0	2.9
	18～29歳	105	19.0	25.7	18.1	4.8	1.0	29.5	1.9	44.7	18.1	5.8
	30代	135	26.7	33.3	14.1	4.4	-	21.5	-	60.0	14.1	4.4
	40代	166	28.3	26.5	17.5	3.0	0.6	22.9	1.2	54.8	17.5	3.6
	50代	178	27.5	29.2	24.2	2.8	0.6	15.2	0.6	56.7	24.2	3.4
	60代	146	21.2	31.5	17.1	2.1	-	24.0	4.1	52.7	17.1	2.1
	70歳以上	268	16.4	24.6	23.9	0.7	-	19.8	14.6	41.0	23.9	0.7
	男性計	702	10.1	25.5	38.7	6.8	1.7	14.8	2.3	35.6	38.7	8.5
	18～29歳	58	6.9	6.9	34.5	12.1	5.2	32.8	1.7	13.8	34.5	17.3
	30代	71	11.3	18.3	39.4	8.5	5.6	15.5	1.4	29.6	39.4	14.1
	40代	103	11.7	20.4	37.9	7.8	2.9	19.4	-	32.1	37.9	10.7
	50代	140	10.0	31.4	37.1	11.4	-	9.3	0.7	41.4	37.1	11.4
60代	135	11.9	32.6	37.0	3.7	1.5	11.1	2.2	44.5	37.0	5.2	
70歳以上	186	8.6	28.0	43.5	2.7	-	11.8	5.4	36.6	43.5	2.7	

⑥ 社会通念・慣習・しきたりなど

性別にみると、女性では『男性が優遇されている』（76.9%）の割合が男性（65.8%）に比べて11.1ポイント高くなっている。また、男性では「平等」（17.8%）の割合が女性（7.0%）に比べて10.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性30代～60代では『男性が優遇されている』の割合が8割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性30代では『女性が優遇されている』の割合が11.3%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感

(6) 社会通念・慣習・しきたりなど【性・年代別】

単位：%

	調査数	性・年代別							性・年代別			
		男性の方が優遇されている	優どちらかといえ ば男性が 優遇されてい る	平等	優どちらかといえ ば女性が 優遇されてい る	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	『男性が優遇されている』	平等	『女性が優遇されている』	
全体	1,730	32.3	39.7	11.5	2.3	0.4	10.9	2.9	72.0	11.5	2.7	
性・年代別	女性計	1,004	39.6	37.3	7.0	1.2	0.4	10.8	3.8	76.9	7.0	1.6
	18～29歳	105	24.8	41.9	7.6	1.9	1.0	21.9	1.0	66.7	7.6	2.9
	30代	135	44.4	36.3	4.4	0.7	0.7	13.3	-	80.7	4.4	1.4
	40代	166	46.4	38.0	5.4	0.6	0.6	9.0	-	84.4	5.4	1.2
	50代	178	51.1	36.5	5.6	1.7	-	5.1	-	87.6	5.6	1.7
	60代	146	43.2	39.0	4.8	0.7	-	9.6	2.7	82.2	4.8	0.7
	70歳以上	268	29.9	34.7	10.8	1.5	0.4	10.4	12.3	64.6	10.8	1.9
	男性計	702	22.2	43.6	17.8	3.8	0.4	10.7	1.4	65.8	17.8	4.2
	18～29歳	58	12.1	27.6	29.3	8.6	-	20.7	1.7	39.7	29.3	8.6
	30代	71	22.5	28.2	28.2	8.5	2.8	9.9	-	50.7	28.2	11.3
	40代	103	24.3	40.8	12.6	4.9	1.0	16.5	-	65.1	12.6	5.9
	50代	140	28.6	43.6	18.6	4.3	-	5.0	-	72.2	18.6	4.3
	60代	135	23.7	48.9	12.6	1.5	-	10.4	3.0	72.6	12.6	1.5
70歳以上	186	18.3	53.8	16.7	1.1	-	7.5	2.7	72.1	16.7	1.1	

⑦ 社会全体で見た場合

性別にみると、女性では『男性が優遇されている』(77.9%)の割合が男性(64.8%)に比べて13.1ポイント高くなっている。また、男性では「平等」(18.8%)の割合が女性(8.0%)に比べて10.8ポイント高くなっている。

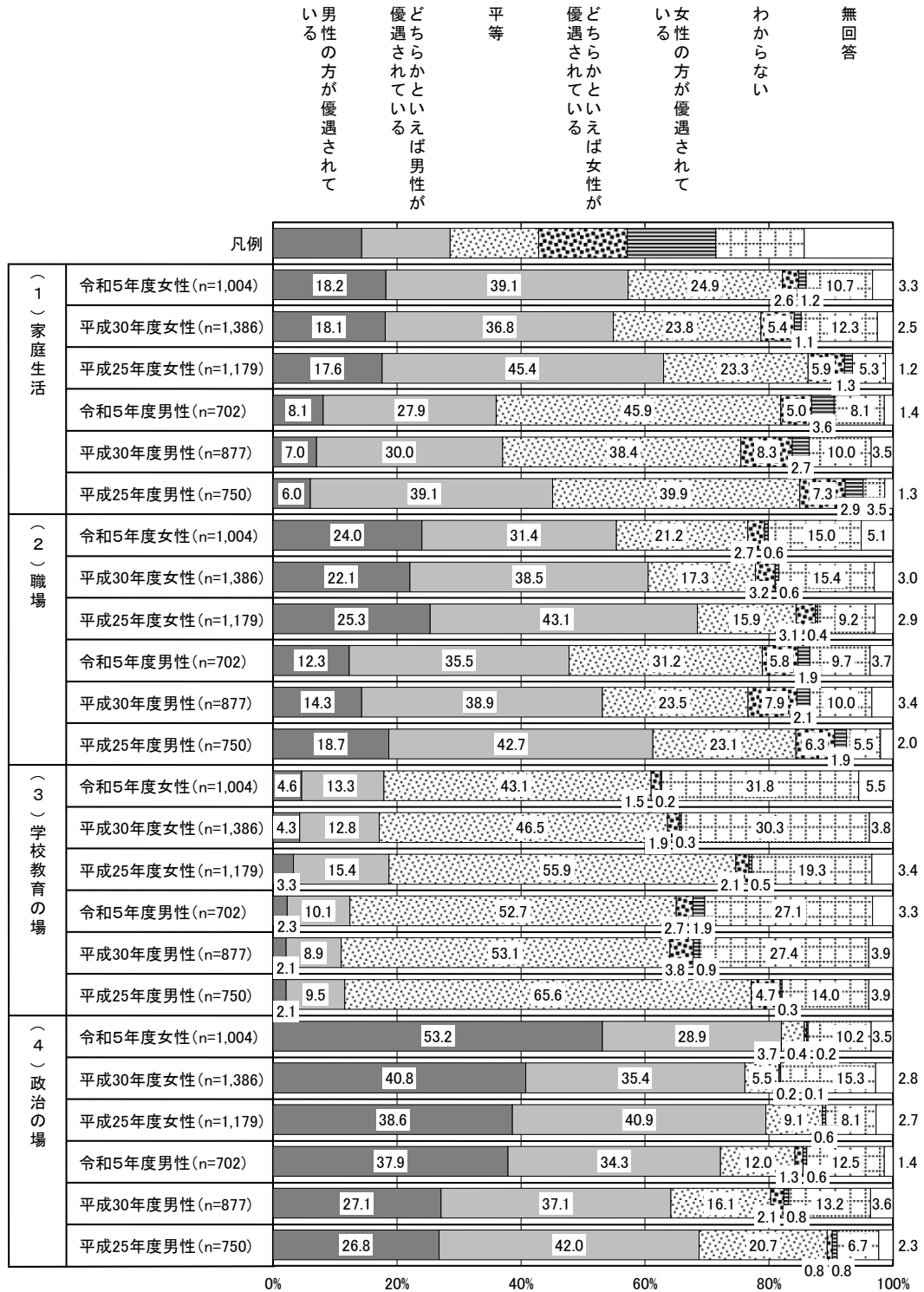
性・年代別にみると、女性30代～60代では『男性が優遇されている』の割合が8割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性18～29歳・30代では『女性が優遇されている』の割合が1割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。さらに、男性では概ね年代が低いほど「平等」の割合が高くなっており、18～29歳では31.0%となっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 (7) 社会全体で見た場合【性・年代別】

		単位:%										
		調査数	男性の方が優遇されている	優どちらかといえば男性が	平等	優どちらかといえば女性が	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	『男性が優遇されている』	平等	『女性が優遇されている』
全体		1,730	24.7	47.5	12.4	3.2	0.7	8.7	2.8	72.2	12.4	3.9
性・年代別	女性計	1,004	31.0	46.9	8.0	1.7	0.3	8.7	3.5	77.9	8.0	2.0
	18～29歳	105	24.8	45.7	10.5	2.9	1.0	15.2	-	70.5	10.5	3.9
	30代	135	37.0	45.9	5.9	0.7	-	10.4	-	82.9	5.9	0.7
	40代	166	36.7	43.4	7.8	4.2	0.6	7.2	-	80.1	7.8	4.8
	50代	178	36.0	50.6	6.7	1.7	-	5.1	-	86.6	6.7	1.7
	60代	146	31.5	50.7	4.8	0.7	0.7	8.9	2.7	82.2	4.8	1.4
	70歳以上	268	23.5	45.1	10.4	0.7	-	8.6	11.6	68.6	10.4	0.7
	男性計	702	16.1	48.7	18.8	5.3	1.3	8.5	1.3	64.8	18.8	6.6
	18～29歳	58	6.9	29.3	31.0	3.4	6.9	20.7	1.7	36.2	31.0	10.3
	30代	71	11.3	38.0	25.4	12.7	4.2	8.5	-	49.3	25.4	16.9
	40代	103	17.5	46.6	17.5	7.8	1.0	8.7	1.0	64.1	17.5	8.8
	50代	140	20.0	51.4	19.3	5.0	-	4.3	-	71.4	19.3	5.0
	60代	135	20.7	50.4	16.3	3.0	0.7	6.7	2.2	71.1	16.3	3.7
70歳以上	186	14.0	58.1	15.1	2.7	-	8.1	2.2	72.1	15.1	2.7	

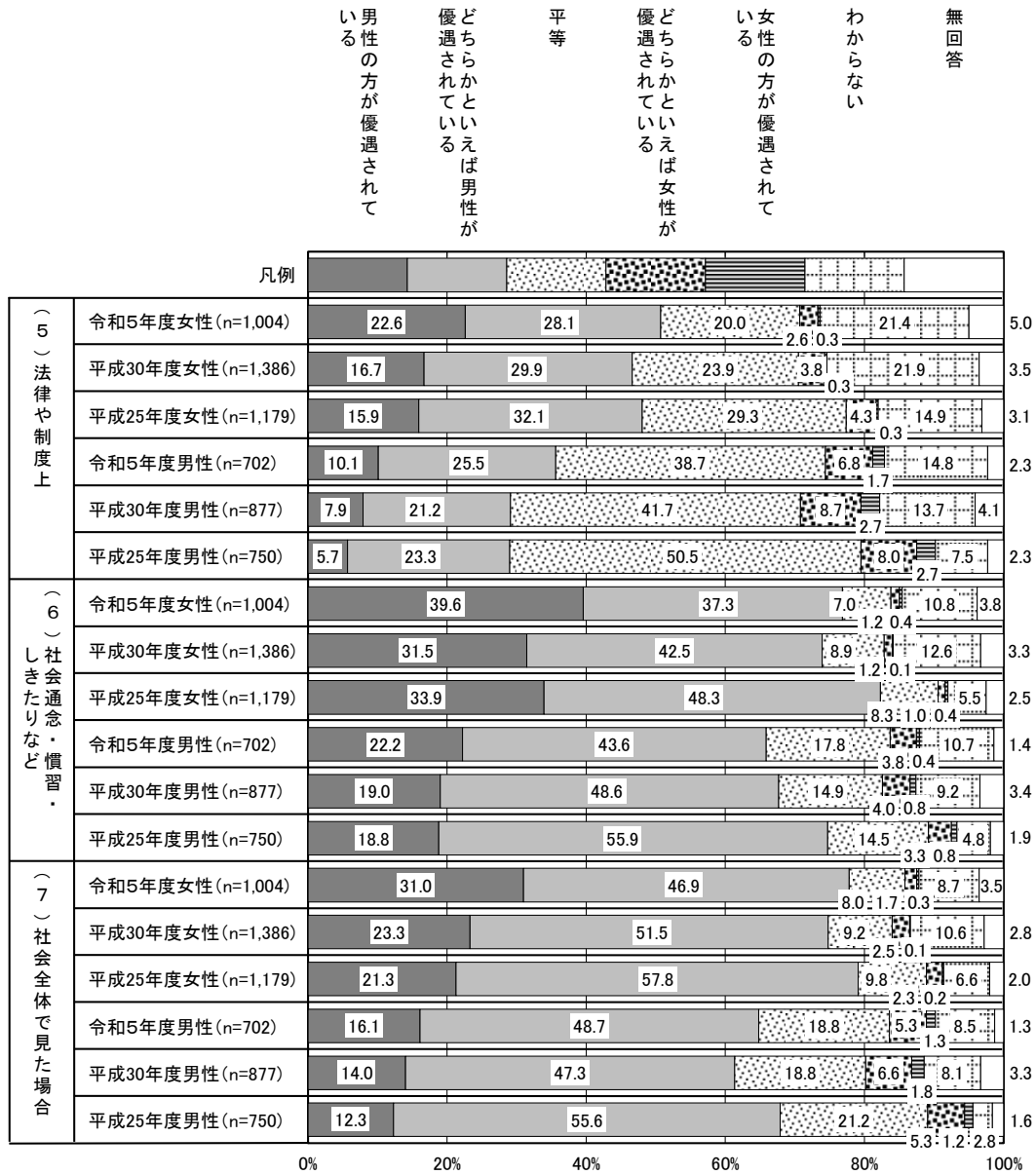
平成 25 年度福岡市男女共同参画社会に関する意識調査（以下、平成 25 年度調査という）及び平成 30 年度市政に関する意識調査（以下、平成 30 年度調査という）の結果と比較すると、男女ともに「職場」では『男性が優遇されている』の割合が減少している。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 【過去の調査との比較】





図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 【過去の調査との比較】



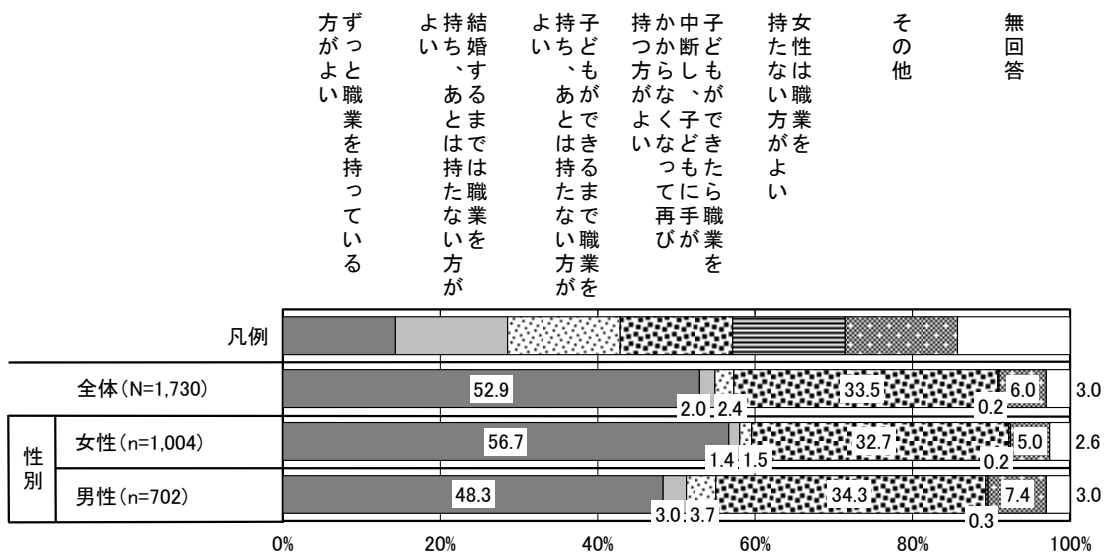
(2) 「女性が職業を持つ」ことに対する考え

**問 21** 一般的に「女性が職業を持つ」ことについて、あなたはどのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを**1つだけ**選んでください。

「女性が職業を持つ」ことに対する考えについて聞いたところ、「ずっと職業を持っている方がよい」が52.9%と最も多く、次いで「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がからなくなつて再び持つ方がよい」(33.5%)となっている。

性別にみると、女性では「ずっと職業を持っている方がよい」(56.7%)の割合が男性(48.3%)に比べて8.4ポイント高くなっている。

図表 「女性が職業を持つ」ことに対する考え【性別】



性・年代別にみると、女性30代～60代では「ずっと職業を持っている方がよい」の割合が6割台となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男女ともに70歳以上では「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」の割合が4割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 「女性が職業を持つ」ことに対する考え【性・年代別】

単位：%

	調査数	ずっと職業を持っている方がよい	結婚するまでは職業をやめたい	子どもができては持たない方がよい	子どもができては持たない方がよい	子どもができては持たない方がよい	女性には職業をよ	その他	無回答
全体	1,730	52.9	2.0	2.4	33.5	0.2	6.0	3.0	
性・年代別	女性計	1,004	56.7	1.4	1.5	32.7	0.2	5.0	2.6
	18～29歳	105	51.4	1.9	4.8	33.3	-	8.6	-
	30代	135	60.0	0.7	0.7	27.4	-	10.4	0.7
	40代	166	61.4	3.0	0.6	28.3	-	4.8	1.8
	50代	178	64.0	0.6	0.6	28.7	-	3.4	2.8
	60代	146	65.1	0.7	1.4	28.8	-	2.7	1.4
	70歳以上	268	45.1	1.5	1.9	42.5	0.7	3.4	4.9
	男性計	702	48.3	3.0	3.7	34.3	0.3	7.4	3.0
	18～29歳	58	46.6	-	5.2	31.0	-	10.3	6.9
	30代	71	59.2	2.8	2.8	26.8	-	7.0	1.4
	40代	103	58.3	1.0	3.9	20.4	-	15.5	1.0
	50代	140	52.9	-	3.6	36.4	-	6.4	0.7
60代	135	48.9	3.7	3.0	33.3	0.7	7.4	3.0	
70歳以上	186	37.1	6.5	4.3	44.1	0.5	2.7	4.8	

性・配偶関係（問 28 118 頁参照）別にみると、女性の「配偶者（パートナー）と死別した」、男性の「配偶者（パートナー）がいて、共働きでない」「配偶者（パートナー）と離婚した」では「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」の割合が最も高くなっている。

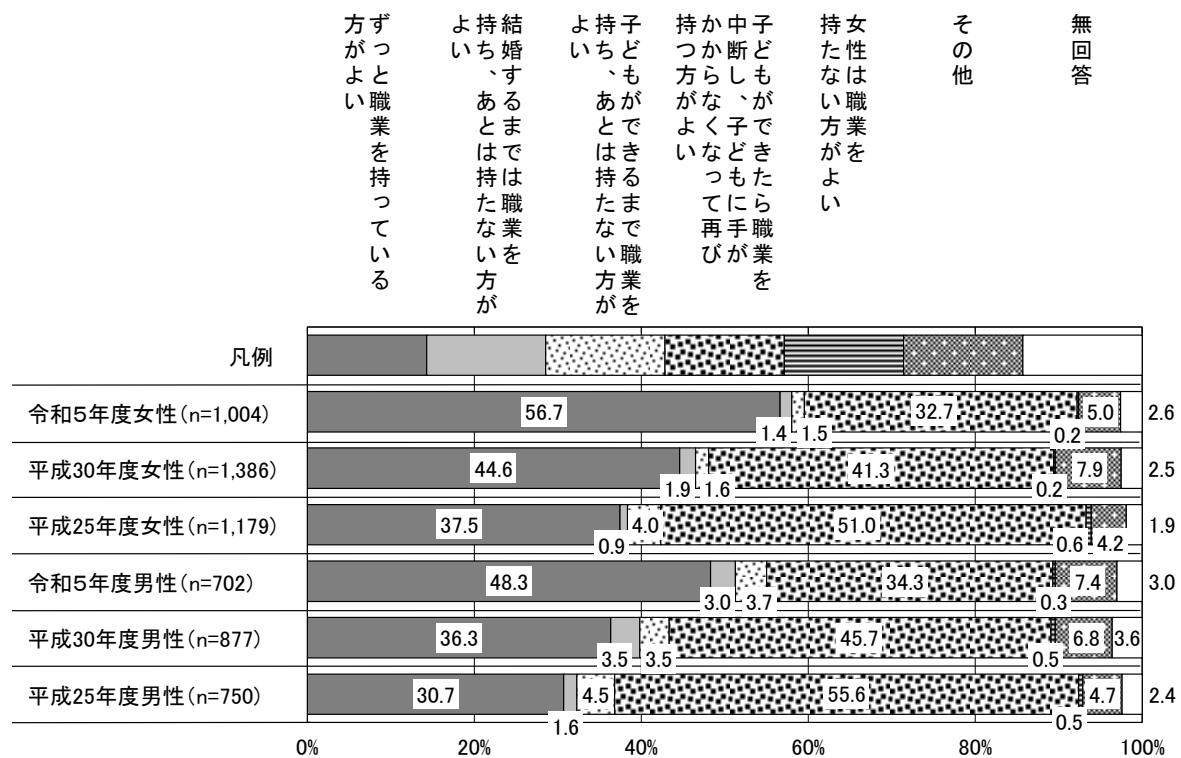
図表 「女性が職業を持つ」ことに対する考え【性・配偶関係別】

単位: %

	調査数	方 が よ い	結 婚 、 あ と は 持 た な い 方 が よ い	子 ど も が あ る ま で は 持 た な い 方 が よ い	中 断 し 、 子 ど も に 手 が か ら な く な っ て 再 び 持 つ 方 が よ い	持 た な い 方 が よ い	そ の 他	無 回 答
全体	1,730	52.9	2.0	2.4	33.5	0.2	6.0	3.0
女性計	1,004	56.7	1.4	1.5	32.7	0.2	5.0	2.6
未婚	203	62.1	1.0	2.0	27.6	-	6.4	1.0
配偶者（パートナー）がいて、共働きである	296	66.6	1.4	1.0	24.0	-	6.8	0.3
配偶者（パートナー）がいて、共働きでない	279	48.0	1.8	1.8	41.6	-	5.0	1.8
配偶者（パートナー）と離婚した	80	61.3	1.3	1.3	33.8	-	1.3	1.3
配偶者（パートナー）と死別した	110	42.7	1.8	1.8	45.5	1.8	0.9	5.5
男性計	702	48.3	3.0	3.7	34.3	0.3	7.4	3.0
未婚	151	45.0	2.0	4.0	32.5	-	10.6	6.0
配偶者（パートナー）がいて、共働きである	217	68.2	0.5	2.8	22.1	-	6.5	-
配偶者（パートナー）がいて、共働きでない	255	37.3	6.3	3.5	43.9	0.4	7.1	1.6
配偶者（パートナー）と離婚した	31	32.3	-	6.5	48.4	-	9.7	3.2
配偶者（パートナー）と死別した	24	50.0	-	8.3	25.0	4.2	4.2	8.3

過去の調査結果と比較すると、「ずっと職業を持っている方がよい」の割合は男女ともに増加しており、今回の調査では女性 56.7%、男性 48.3%と最も高くなっている。また、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」の割合は、男女ともに減少しており、平成 25 年度調査に比べて 20 ポイント程度低くなっている。

図表 「女性が職業を持つ」ことに対する考え【過去の調査との比較】



(3) 女性が職業を持っている方が良い理由

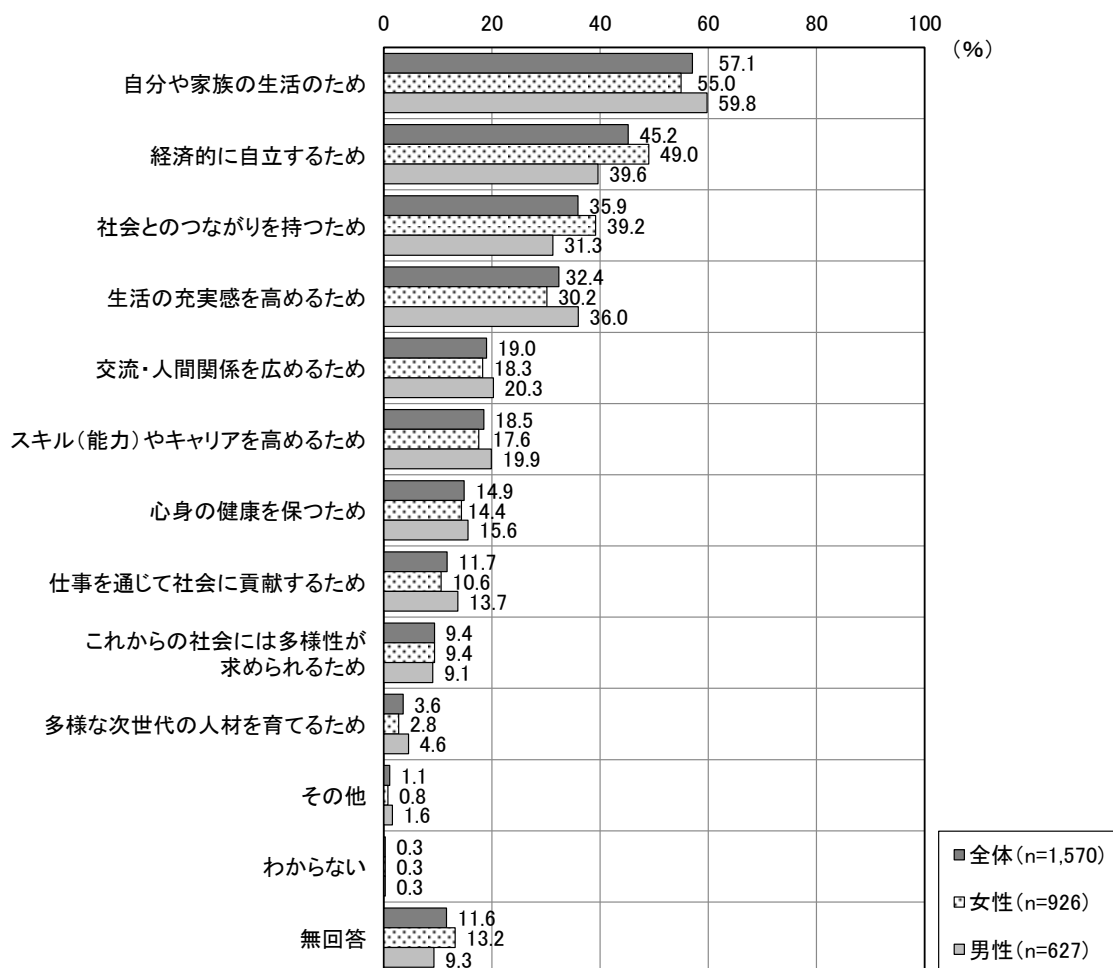
問 22 《 問 21 で「1～4」と回答した方におたずねします。 》

女性が職業を持っている方が良い理由は何だと思えますか。特にあてはまるものを**3つまで**選んでください。

女性が職業を持っている方が良い理由について聞いたところ、「自分や家族の生活のため」が57.1%と最も多く、次いで「経済的に自立するため」(45.2%)、「社会とのつながりを持つため」(35.9%)となっている。

性別にみると、女性では「経済的に自立するため」(49.0%)の割合が男性(39.6%)に比べて9.4ポイント高くなっている。

図表 女性が職業を持っている方が良い理由【性別】※複数回答(3つまで)



性・年代別にみると、女性18～29歳・30代では「経済的に自立するため」の割合が5割半ばから6割弱となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性18～29歳では「スキル（能力）やキャリアを高めるため」の割合が33.3%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 女性が職業を持っている方が良い理由【性・年代別】※複数回答（3つまで）

単位：%

	調査数	自分や家族の生活のため	経済的に自立するため	スキル（能力）やキャリアを高めるため	生活の充実感を高めるため	交流・人間関係を広めるため	社会とのつながりを持つため	心身の健康を保つため	仕事を通じて社会に貢献するため	多様な次世代の人材を育てるため	これからの社会には求められるため	
全体	1,570	57.1	45.2	18.5	32.4	19.0	35.9	14.9	11.7	3.6	9.4	
性・年代別	女性計	926	55.0	49.0	17.6	30.2	18.3	39.2	14.4	10.6	2.8	9.4
	18～29歳	96	67.7	57.3	13.5	34.4	13.5	29.2	13.5	5.2	1.0	9.4
	30代	120	60.0	56.7	20.0	20.8	15.8	45.8	13.3	3.3	1.7	3.3
	40代	155	61.3	48.4	14.2	34.8	21.3	36.1	12.9	4.5	3.9	7.1
	50代	167	53.3	50.9	19.8	31.7	14.4	43.7	19.2	12.6	3.0	8.4
	60代	140	47.9	47.9	22.1	30.7	21.4	40.7	9.3	19.3	3.6	12.9
	70歳以上	244	48.8	41.8	15.6	29.5	20.1	38.1	16.0	13.9	2.9	12.3
	男性計	627	59.8	39.6	19.9	36.0	20.3	31.3	15.6	13.7	4.6	9.1
	18～29歳	48	70.8	43.8	33.3	33.3	22.9	18.8	14.6	8.3	4.2	6.3
	30代	65	58.5	46.2	12.3	40.0	26.2	32.3	18.5	6.2	3.1	7.7
	40代	86	61.6	38.4	12.8	36.0	19.8	36.0	15.1	10.5	2.3	4.7
	50代	130	57.7	39.2	22.3	35.4	20.0	33.8	16.9	12.3	6.2	10.0
	60代	120	65.8	40.0	19.2	37.5	16.7	27.5	19.2	16.7	5.0	10.8
	70歳以上	171	53.8	37.4	22.2	35.1	19.9	32.7	11.7	19.3	5.3	11.1

単位：%

	調査数	その他	わからない	無回答	
全体	1,570	1.1	0.3	11.6	
性・年代別	女性計	926	0.8	0.3	13.2
	18～29歳	96	-	-	14.6
	30代	120	0.8	0.8	15.8
	40代	155	1.3	-	14.2
	50代	167	0.6	0.6	9.0
	60代	140	-	-	10.7
	70歳以上	244	1.2	0.4	14.8
	男性計	627	1.6	0.3	9.3
	18～29歳	48	2.1	-	4.2
	30代	65	1.5	-	10.8
	40代	86	1.2	-	10.5
	50代	130	-	-	8.5
	60代	120	2.5	-	8.3
	70歳以上	171	2.3	0.6	10.5

(4) 現在、職業を持っているか

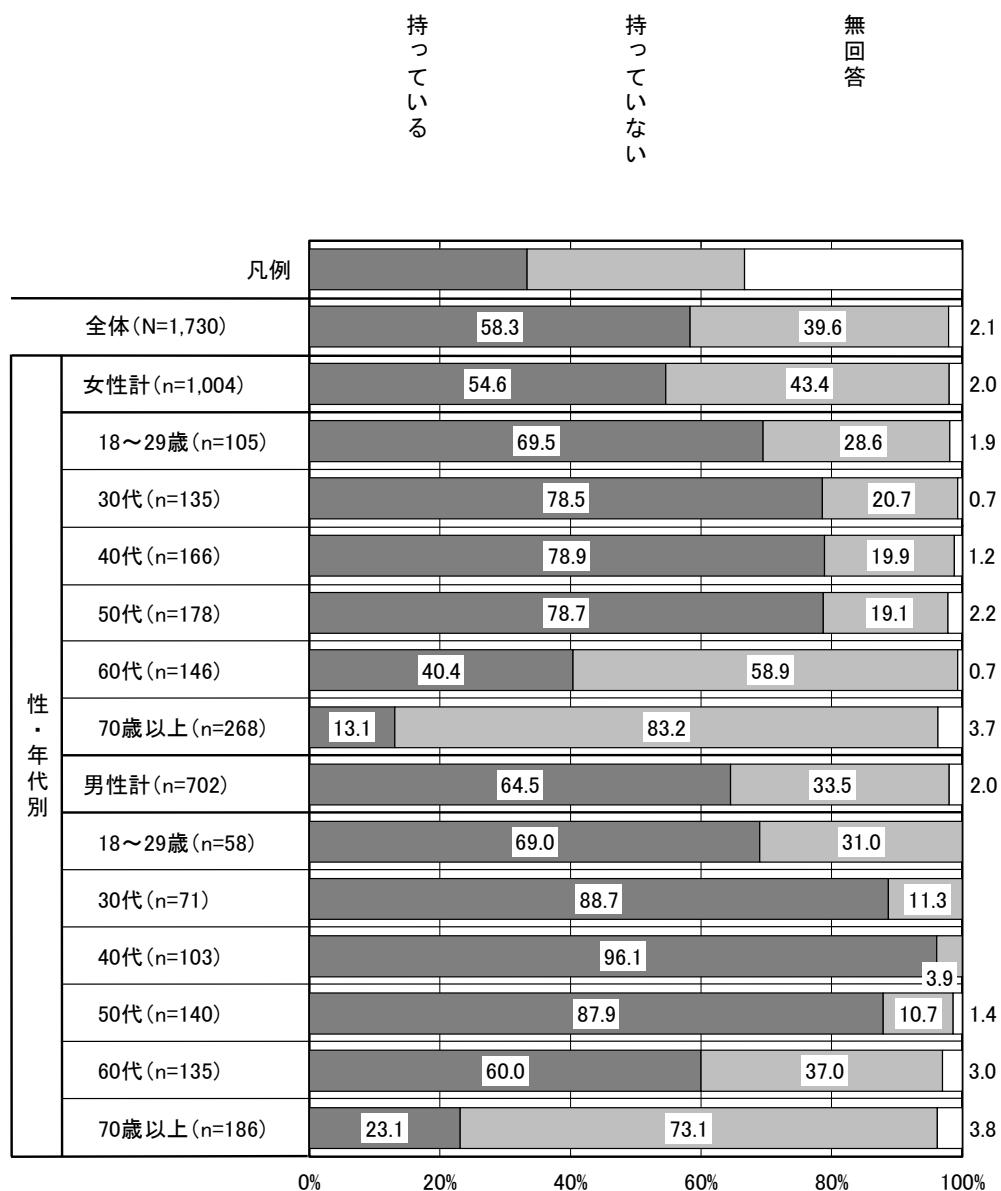
**問 23** あなたは現在、職業を持っていますか。あてはまるものを**1つだけ**選んでください。

現在、職業を持っているかについて聞いたところ、「持っている」は 58.3%、「持っていない」が 39.6%となっている。

性別にみると、女性では職業を「持っていない」(43.4%)の割合が男性(33.5%)に比べて9.9ポイント高くなっている。また、男性では職業を「持っている」(64.5%)の割合が女性(54.6%)に比べて9.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性18歳～50代、男性18歳～60代では職業を「持っている」の割合が高くなっており、その割合は18～29歳を除き、男性に比べて女性が低くなっている。また、男性60代では職業を「持っている」(60.0%)の割合が女性60代(40.4%)に比べて19.6ポイント高くなっている。

図表 現在、職業を持っているか【性・年代別】





(5) 現在の職場における男女差別

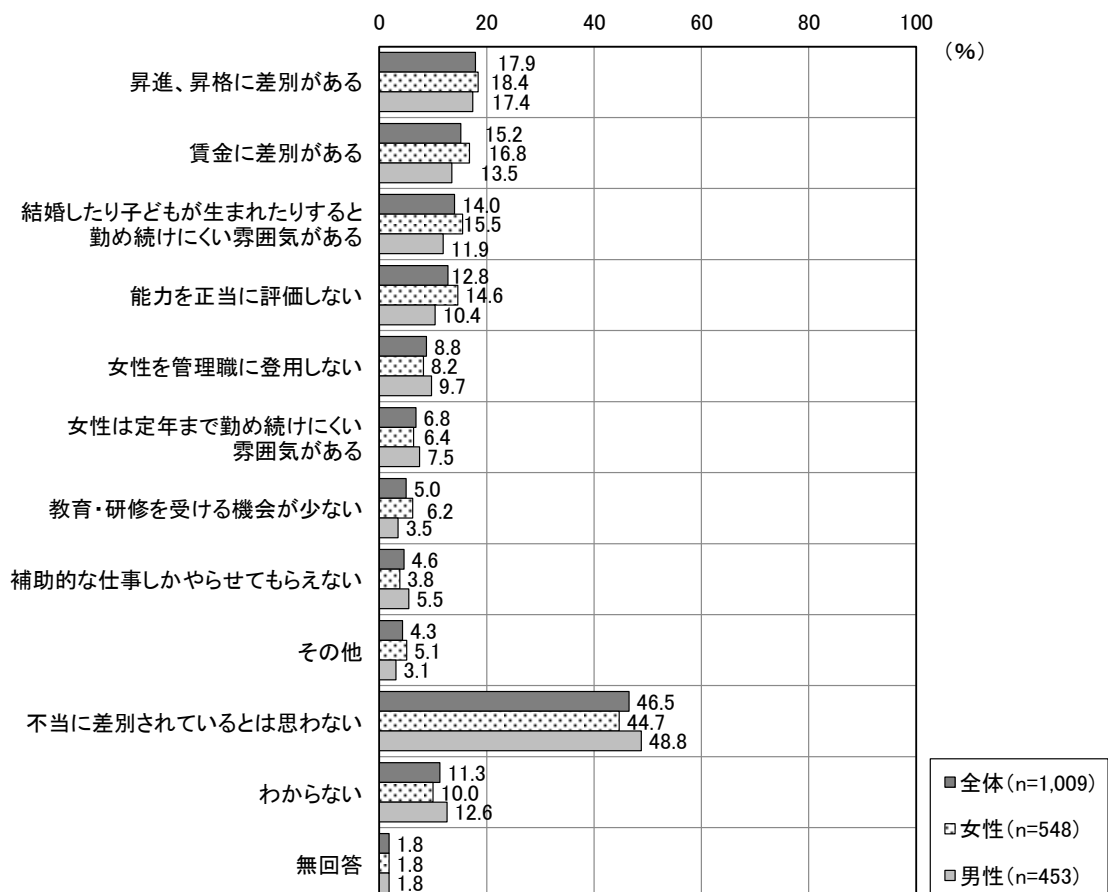
問 24 《 問 23 で「1」と回答した方におたずねします。 》

あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ不当に差別されていると思うことがありますか。あてはまるものを**すべて**選んでください。

現在の職場における男女差別について聞いたところ、「不当に差別されているとは思わない」が46.5%と最も多い。不当に差別されていることについては、「昇進、昇格に差別がある」が17.9%と最も多く、次いで「賃金に差別がある」(15.2%)、「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」(14.0%)、となっている。

性別にみると、大きな違いはみられない。

図表 現在の職場における男女差別【性別】※複数回答(すべて)



性・年代別にみると、女性60代では「賃金に差別がある」の割合が30.5%、「能力を正当に評価しない」の割合が28.8%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、女性50代では「昇進、昇格に差別がある」の割合が24.3%となっており、女性の他の年代に比べて高くなっている。

図表 現在の職場における男女差別【性・年代別】※複数回答（すべて）

単位：%

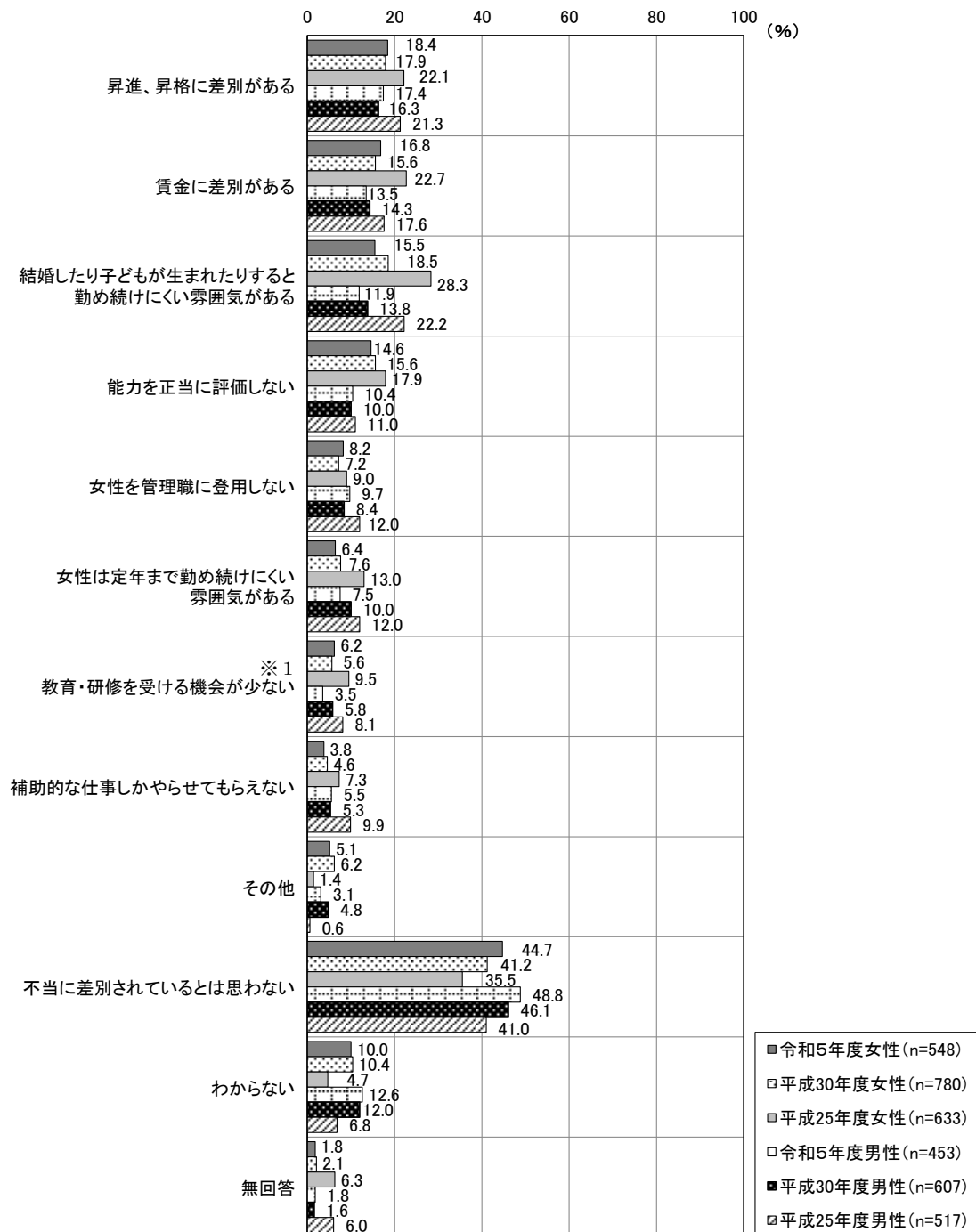
		調査数	賃金に差別がある	昇進、昇格に差別がある	能力を正当に評価しない	補助的な仕事しかやらせてもらえない	女性を管理職に登用しない	結婚したり子どもが生まれると勤め続けにくく、霧気がある	女性に定年まで勤め続けにくい霧気がある	少教育・研修を受ける機会が少ない	その他	思わぬに差別されているとは
全体		1,009	15.2	17.9	12.8	4.6	8.8	14.0	6.8	5.0	4.3	46.5
性・年代別	女性計	548	16.8	18.4	14.6	3.8	8.2	15.5	6.4	6.2	5.1	44.7
	18～29歳	73	12.3	19.2	5.5	4.1	6.8	20.5	5.5	8.2	8.2	42.5
	30代	106	12.3	16.0	8.5	3.8	8.5	22.6	6.6	2.8	3.8	50.0
	40代	131	16.0	18.3	15.3	3.8	9.9	19.8	8.4	6.9	6.9	42.0
	50代	140	18.6	24.3	19.3	5.0	10.0	11.4	6.4	9.3	2.9	47.1
	60代	59	30.5	16.9	28.8	1.7	5.1	5.1	5.1	3.4	-	37.3
	70歳以上	35	14.3	5.7	8.6	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	14.3	40.0
	男性計	453	13.5	17.4	10.4	5.5	9.7	11.9	7.5	3.5	3.1	48.8
	18～29歳	40	10.0	10.0	7.5	-	-	5.0	2.5	5.0	2.5	60.0
	30代	63	15.9	20.6	14.3	9.5	17.5	14.3	9.5	3.2	4.8	49.2
	40代	99	11.1	17.2	10.1	5.1	11.1	15.2	4.0	1.0	3.0	51.5
	50代	123	11.4	16.3	10.6	4.9	5.7	9.8	9.8	3.3	3.3	53.7
	60代	81	17.3	25.9	8.6	7.4	11.1	13.6	7.4	6.2	2.5	37.0
	70歳以上	43	16.3	7.0	11.6	4.7	11.6	9.3	11.6	4.7	2.3	41.9

単位：%

		調査数	わからない	無回答
全体		1,009	11.3	1.8
性・年代別	女性計	548	10.0	1.8
	18～29歳	73	11.0	-
	30代	106	4.7	0.9
	40代	131	8.4	3.1
	50代	140	7.9	2.1
	60代	59	20.3	1.7
	70歳以上	35	22.9	2.9
	男性計	453	12.6	1.8
	18～29歳	40	20.0	-
	30代	63	9.5	3.2
	40代	99	11.1	1.0
	50代	123	8.9	2.4
	60代	81	16.0	-
	70歳以上	43	14.0	4.7

過去の調査結果と比較すると、男女ともに「不当に差別されているとは思わない」の割合が増加している。

図表 現在の職場における男女差別【過去の調査との比較】※複数回答（すべて）



※1 平成25年度の選択肢は「教育・訓練を受ける機会が少ない」

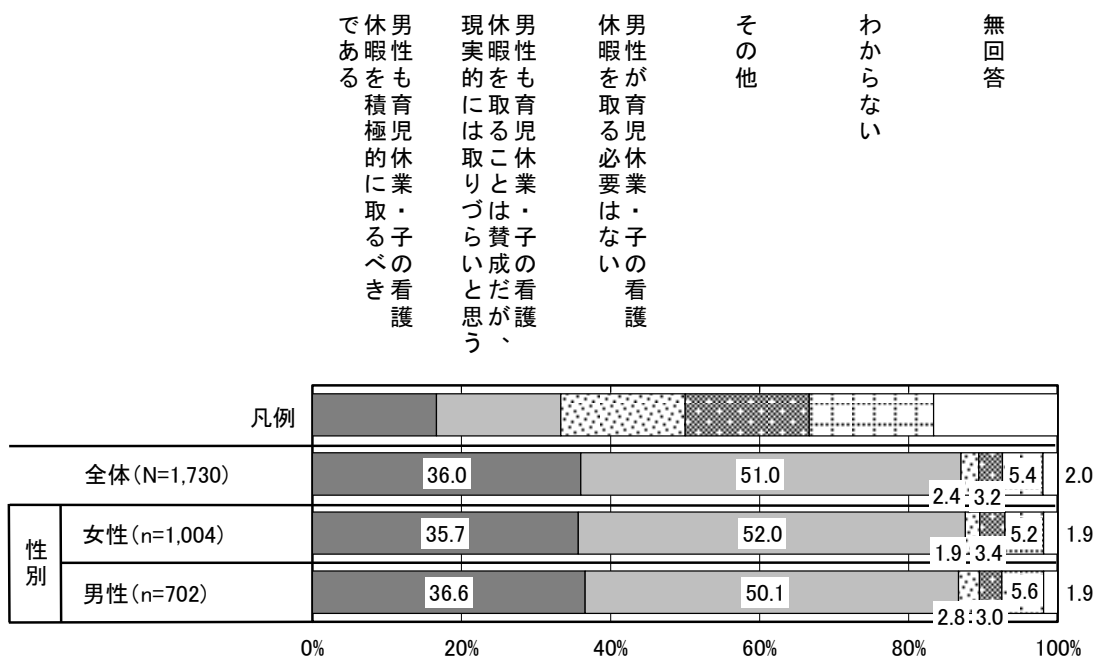
(6) 男性が育児休業や子の看護休暇を取得することについて

**問 25** 育児を行うために、法律に基づき育児休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性が、この制度を活用することについてどう思いますか。あてはまるものを**1つだけ**選んでください。

男性が育児休業や子の看護休暇を取得することについて聞いたところ、「男性も育児休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」が51.0%と最も多く、次いで「男性も育児休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」(36.0%)となっている。

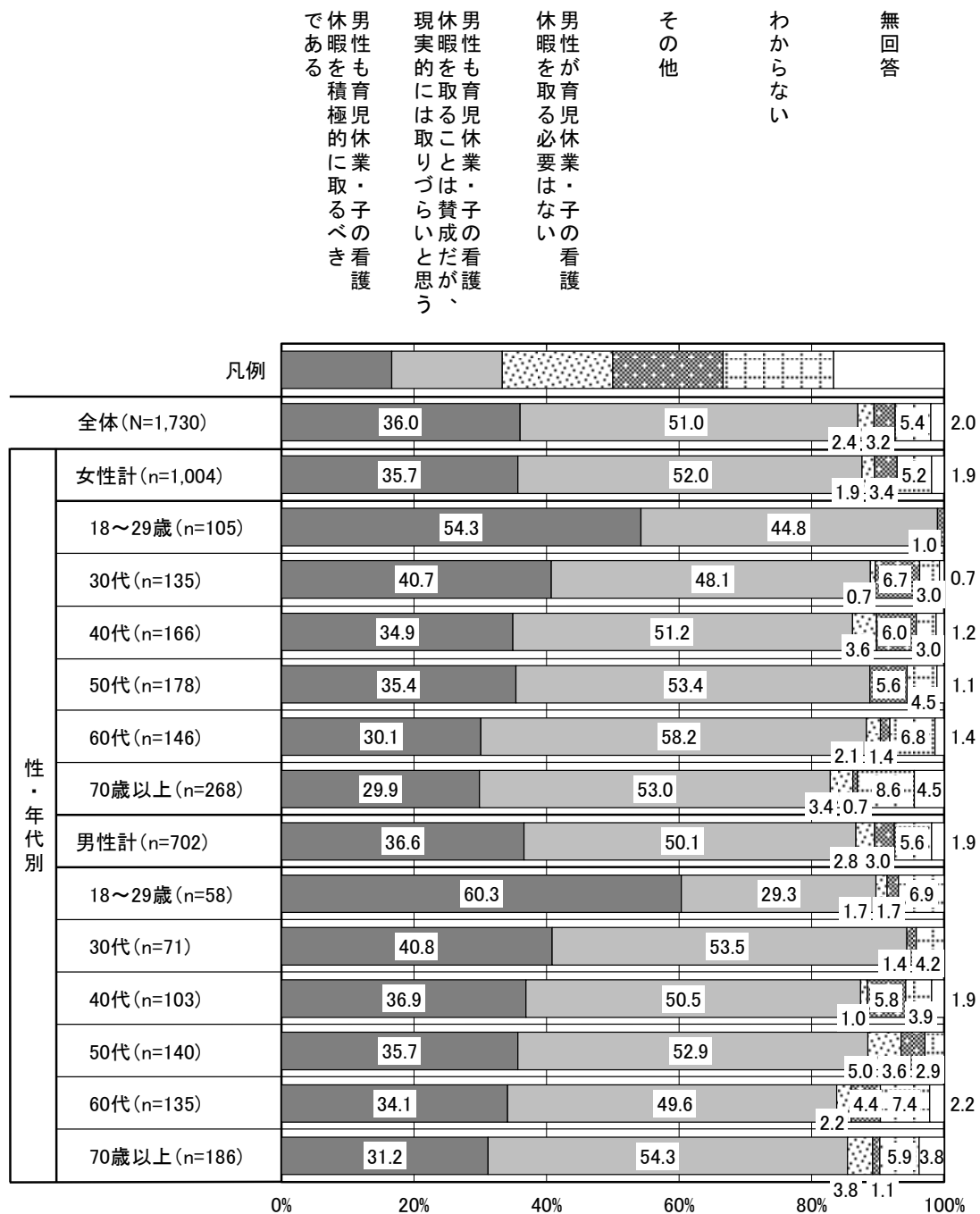
性別にみると、大きな違いはみられない。

図表 男性が育児休業や子の看護休暇を取得することについて【性別】



性・年代別にみると、男女ともに18～29歳では「男性も育児休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」の割合が半数を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

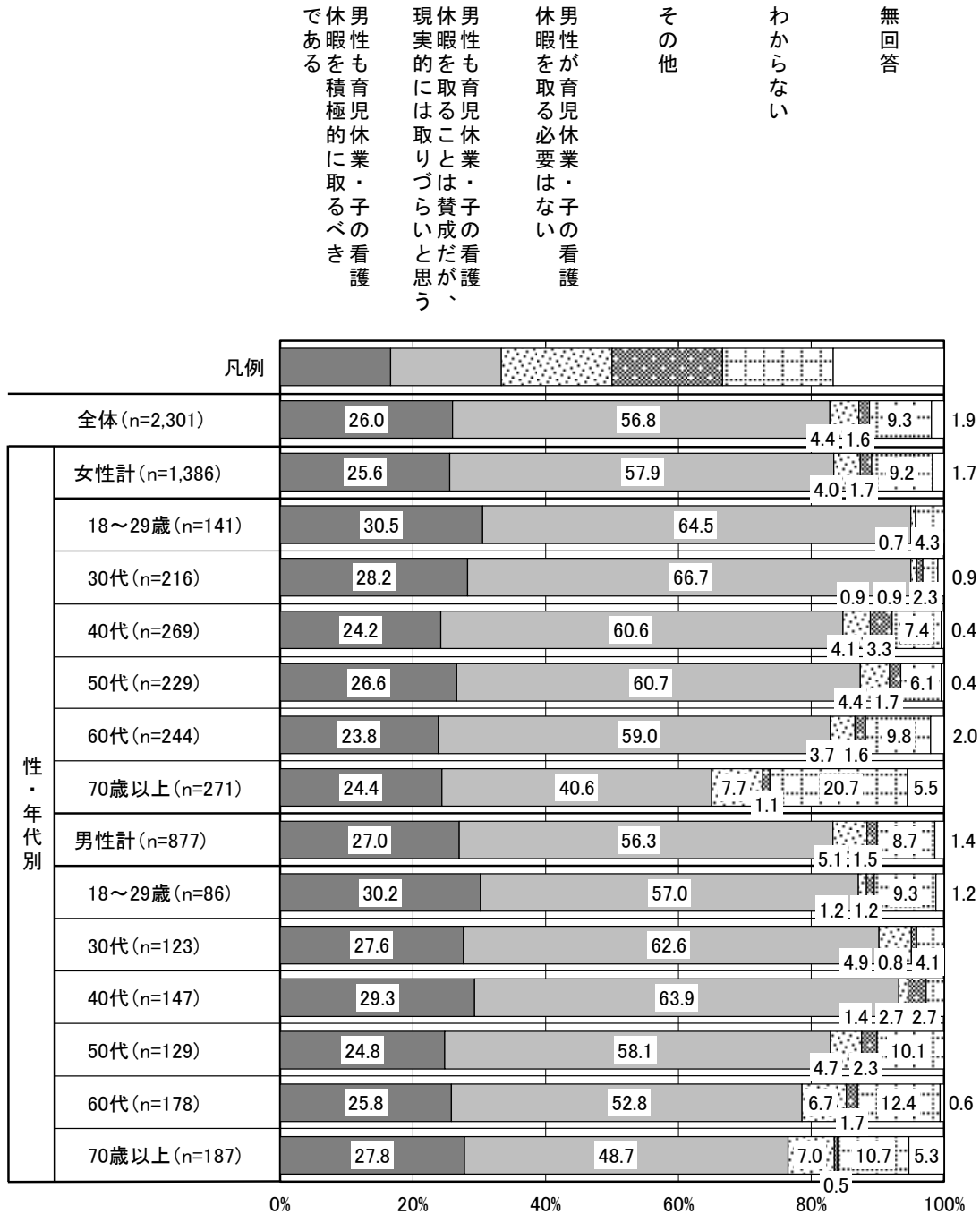
図表 男性が育児休業や子の看護休暇を取得することについて【性・年代別】



過去の調査結果と比較すると、男女ともにすべての年代で「男性も育児休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」の割合が平成 30 年度調査よりも高くなっている。男女ともに 18～29 歳の増加率が高く、女性では 23.8 ポイント、男性では 30.1 ポイント増加している。

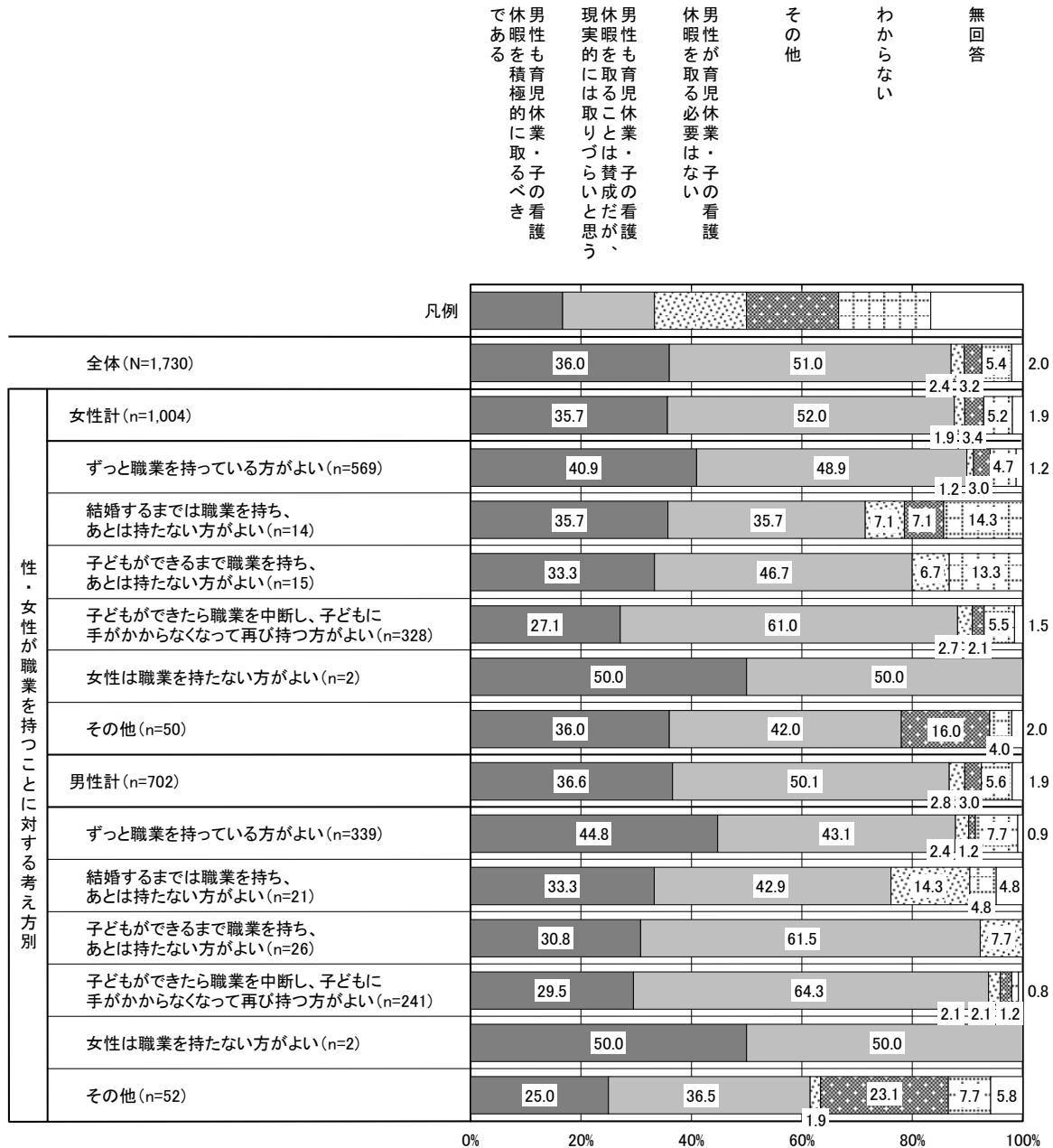
図表 男性が育児休業や子の看護休暇を取得することについて【過去の調査との比較】

【平成 30 年度調査】



性・女性が職業を持つことに対する考え方（問 21 98 頁参照）別にみると、男女ともに「ずっと職業を持っている方がよい」では、「男性も育児休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」の割合が他に比べて高く、4割を超えている。

図表 男性が育児休業や子の看護休暇を取得することについて  
【性・女性が職業を持つことに対する考え方別】



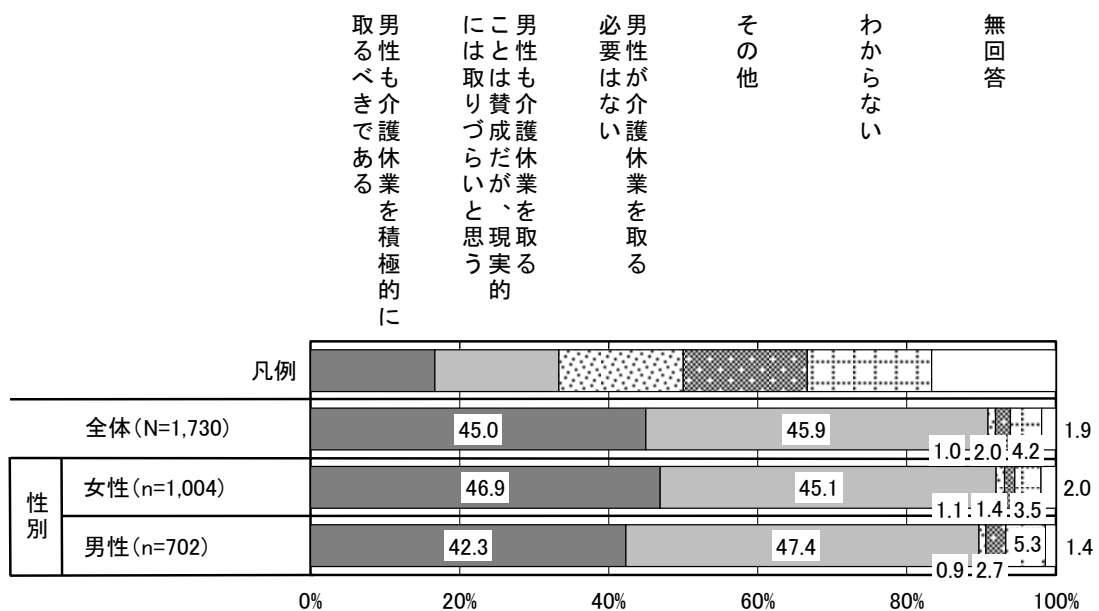
(7) 男性が介護休業を取得することについて

**問 26** 家族の介護を行うために、法律に基づき介護休業を取得できる制度があります。あなたは、男性が、この制度を活用することについてどう思いますか。あてはまるものを**1つだけ**選んでください。

男性が介護休業を取得することについて聞いたところ、「男性も介護休業を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」の割合が45.9%と最も多く、次いで「男性も介護休業を積極的に取るべきである」(45.0%)となっている。

性別にみると、大きな違いはみられない。

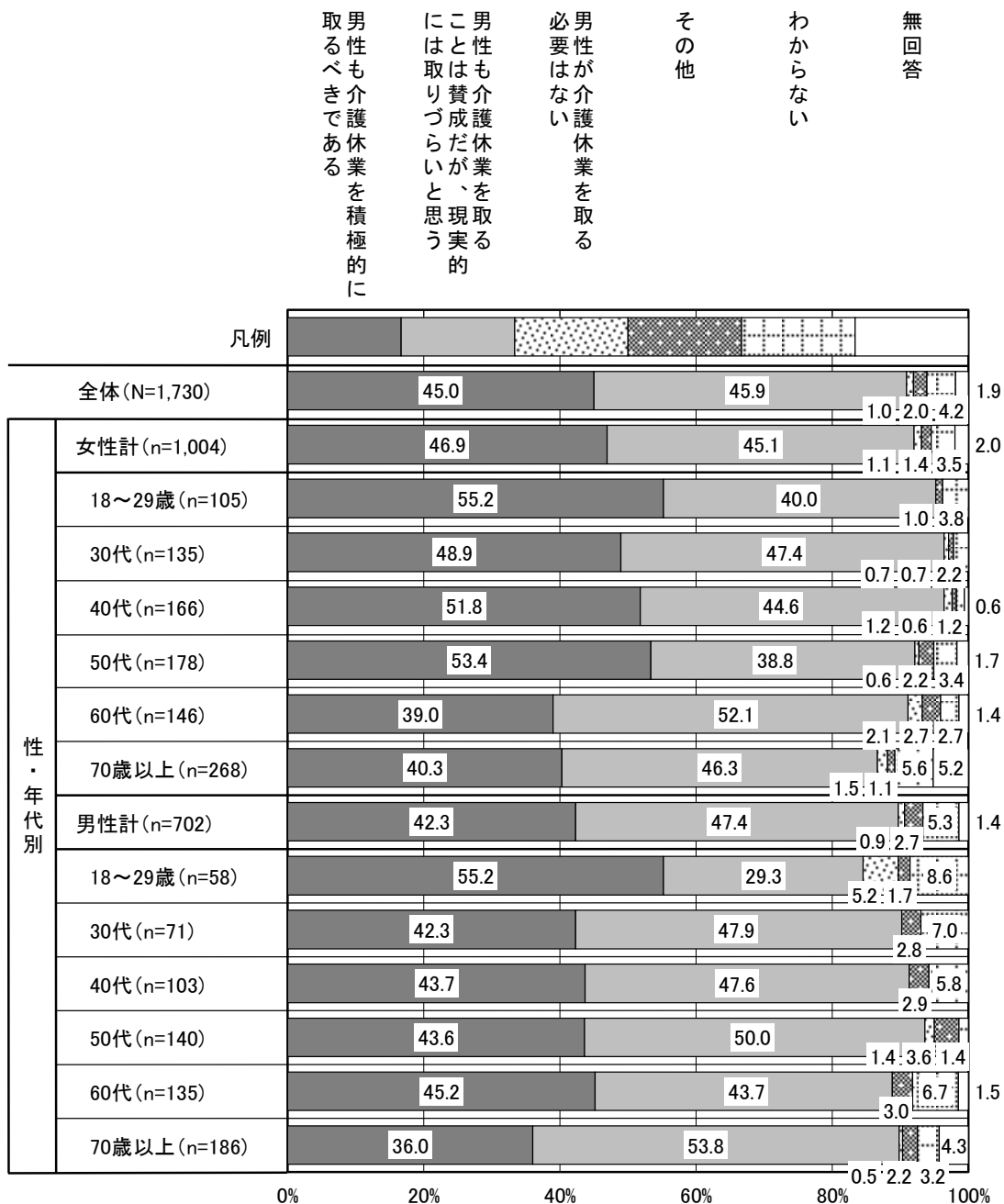
図表 男性が介護休業を取得することについて【性別】





性・年代別にみると、女性 18～29 歳・40 代・50 代、男性 18～29 歳では「男性も介護休業を積極的に取るべきである」の割合が半数を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

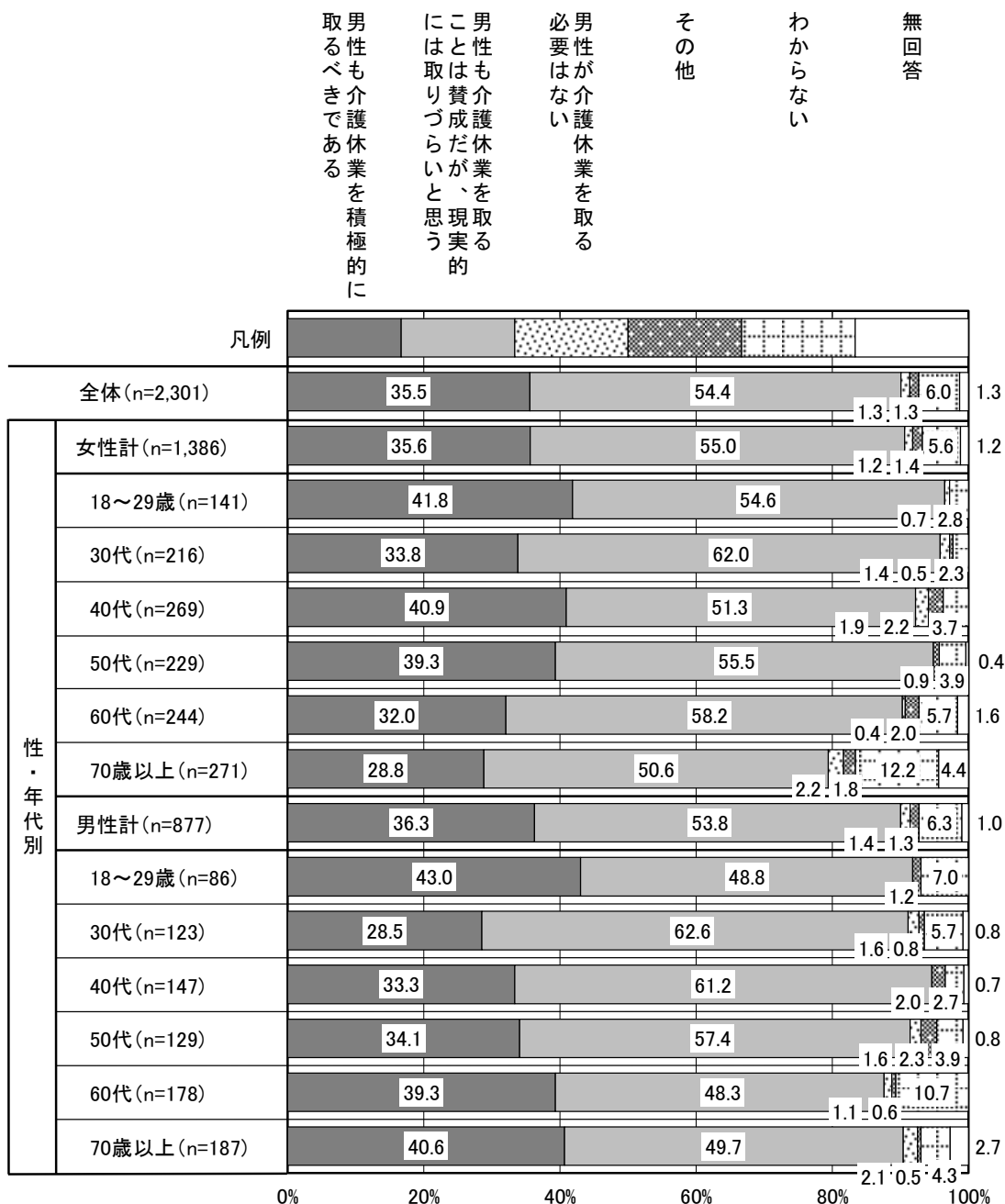
図表 男性が介護休業を取得することについて【性・年代別】



過去の調査結果と比較すると、70歳以上男性を除くすべての性・年代で「男性も介護休業を積極的に取るべきである」の割合が平成30年度調査よりも高くなっている。

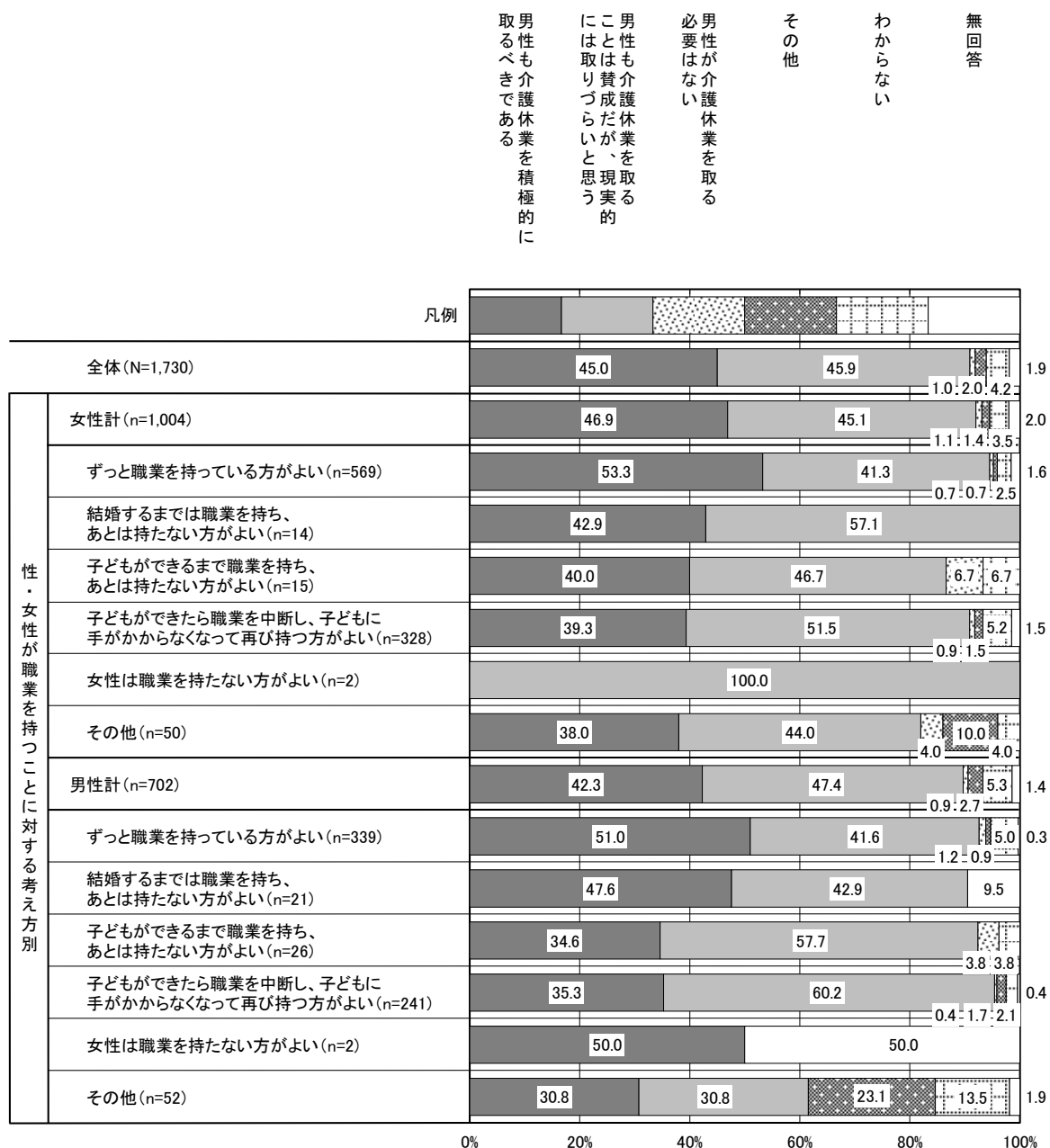
図表 男性が介護休業を取得することについて【過去の調査との比較】

【平成30年度調査】



性・女性が職業を持つことに対する考え方（問 21 98 頁参照）別にみると、男女ともに「ずっと職業を持っている方がよい」では「男性も介護休業を積極的に取るべきである」の割合が他に比べて高く、5割を超えている。

図表 男性が介護休業を取得することについて  
【性・女性が職業を持つことに対する考え方別】



(8) 男性が女性とともに家事や子育てなどを担っていくために必要なこと

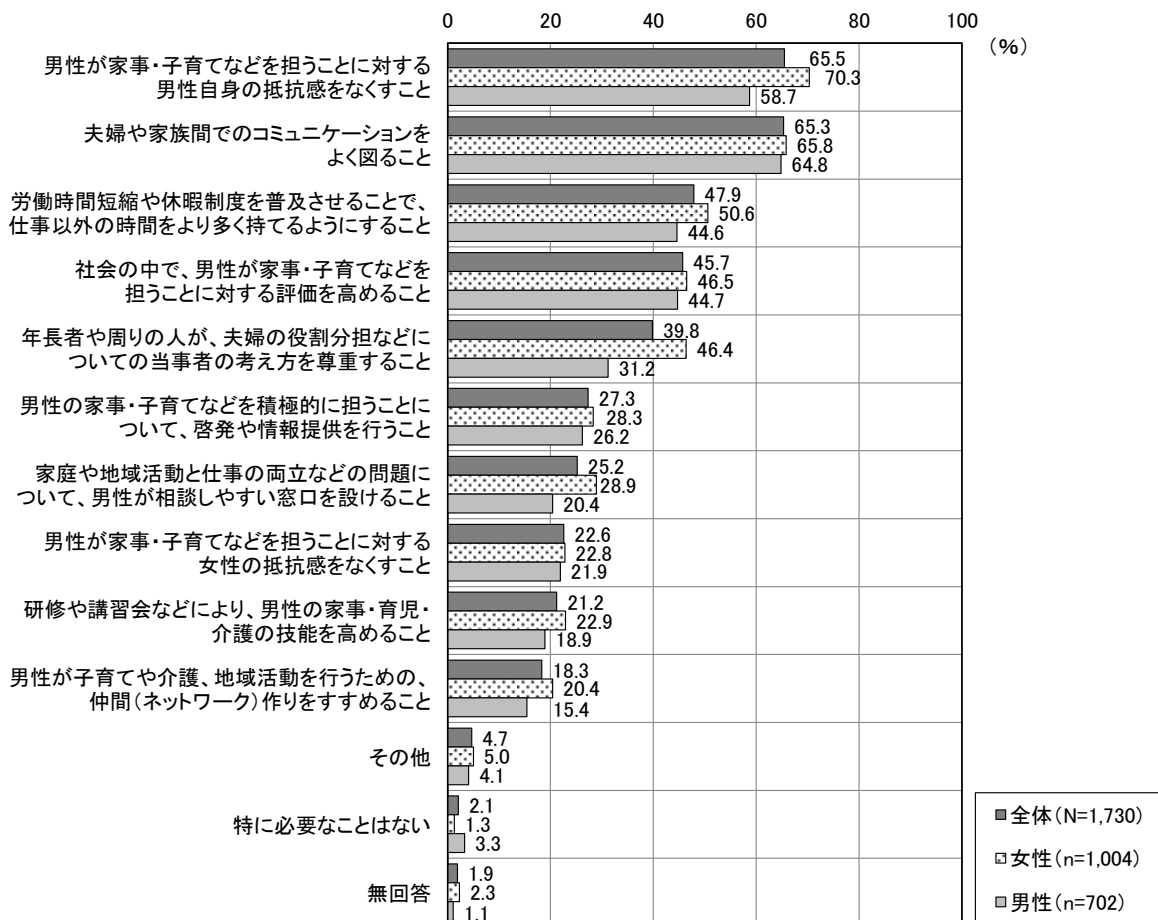
**問 27** 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などを担っていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを**すべて**選んでください。

男性が女性とともに家事や子育てなどを担っていくために必要なことについて聞いたところ、「男性が家事・子育てなどを担うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が65.5%と最も多く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」(65.3%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(47.9%)となっている。

性別にみると、女性では「年長者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」(46.4%)の割合が男性(31.2%)に比べて15.2ポイント高く、「男性が家事・子育てなどを担うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(70.3%)の割合が男性(58.7%)に比べて11.6ポイント高くなっている。

図表 男性が女性とともに家事や子育てなどを担っていくために必要なこと

【性別】 ※複数回答(すべて)



性・年代別にみると、女性30代・50代では「年長者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」の割合が半数を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、女性30代では「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が60.0%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。さらに、女性70歳以上では「家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること」の割合が38.4%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 男性が女性とともに家事や子育てなどを担っていくために必要なこと

【性・年代別】※複数回答（すべて）

単位：%

	調査数	男性が家事・子育てなどを行うことに抵抗をなくすこと	男性が家事・子育てなどを担うことに抵抗をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく取る	年長者や周りの人が、夫婦の役割分担の考え方を尊重すること	子育ての中で、男性が家事・子育てなどを担うことに対する評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	積極的な情報提供を行うこと	男性の家事・子育てなどを、積極的に担うこと	研修や講習会などにより、男性の家事・育児・介護の技能を高めること
全体	1,730	65.5	22.6	65.3	39.8	45.7	47.9	27.3	21.2	
性・年代別	女性計	1,004	70.3	22.8	65.8	46.4	46.5	50.6	28.3	22.9
	18～29歳	105	72.4	20.0	69.5	44.8	50.5	54.3	20.0	18.1
	30代	135	74.1	20.7	64.4	50.4	38.5	60.0	28.1	19.3
	40代	166	63.9	21.7	65.1	43.4	44.6	53.6	30.7	17.5
	50代	178	69.7	23.6	56.2	52.2	48.9	45.5	28.1	19.7
	60代	146	76.0	21.9	72.6	45.2	50.7	58.2	28.1	28.1
	70歳以上	268	68.7	25.0	68.3	44.4	47.0	41.8	30.2	29.9
	男性計	702	58.7	21.9	64.8	31.2	44.7	44.6	26.2	18.9
	18～29歳	58	62.1	31.0	65.5	27.6	29.3	44.8	20.7	15.5
	30代	71	54.9	25.4	66.2	35.2	47.9	43.7	23.9	15.5
	40代	103	53.4	21.4	62.1	32.0	43.7	42.7	21.4	14.6
	50代	140	57.9	19.3	60.7	31.4	47.9	47.9	24.3	15.0
	60代	135	63.0	19.3	60.0	29.6	48.9	41.5	28.1	19.3
70歳以上	186	60.8	22.6	73.1	32.8	43.5	46.8	32.3	27.4	

単位：%

	調査数	地域活動や子育てを行うためのネットワーキング（仲間づくり）をすすめること	男性が子育てや介護、仲間	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	その他	特に必要なことはない	無回答
全体	1,730	18.3	25.2	4.7	2.1	1.9	
性・年代別	女性計	1,004	20.4	28.9	5.0	1.3	2.3
	18～29歳	105	16.2	25.7	4.8	1.0	-
	30代	135	20.7	24.4	6.7	-	-
	40代	166	20.5	27.7	7.2	1.2	0.6
	50代	178	20.2	19.7	9.0	1.1	1.1
	60代	146	20.5	30.8	2.1	1.4	0.7
	70歳以上	268	22.0	38.4	1.9	1.9	7.1
	男性計	702	15.4	20.4	4.1	3.3	1.1
	18～29歳	58	13.8	10.3	3.4	3.4	-
	30代	71	11.3	14.1	8.5	4.2	-
	40代	103	17.5	19.4	3.9	1.0	-
	50代	140	19.3	25.7	5.7	1.4	-
	60代	135	13.3	21.5	4.4	5.2	2.2
70歳以上	186	15.6	22.6	1.1	3.2	2.7	

(9) 現在の配偶関係

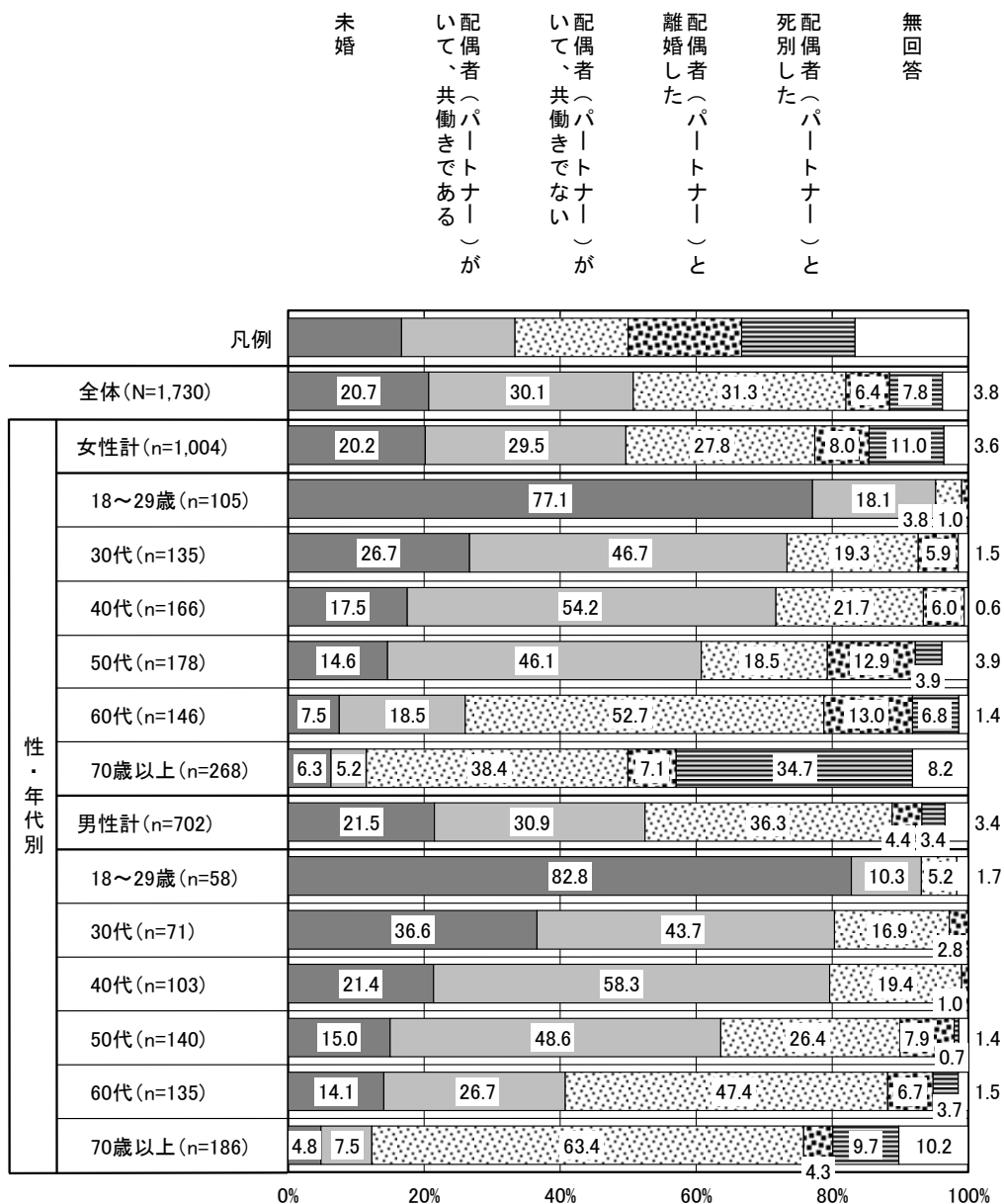
**問 28** あなたの現在の配偶関係（事実婚を含む）はどれに該当しますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

現在の配偶関係について聞いたところ、「配偶者（パートナー）がいて、共働きでない」が31.3%と最も多く、次いで「配偶者（パートナー）がいて、共働きである」（30.1%）、「未婚」（20.7%）となっている。

性別にみると、男性では「配偶者（パートナー）がいて、共働きでない」（36.3%）の割合が女性（27.8%）に比べて8.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性70歳以上では「配偶者（パートナー）と死別した」の割合が34.7%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男女ともに18～29歳では「未婚」の割合が高くなっている。

図表 現在の配偶関係【性・年代別】



(10) 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について

問 29 《 問 28 で「2」「3」と回答した方におたずねします。 》

あなたの家庭では次の事柄を、主にどなたが行っていますか。(1)～(8)のそれぞれの項目について、あてはまるものを1つつ選んでください。

① 炊事、掃除、洗濯などの家事

性・年代別、共働き状況（問 28 118 頁参照）別にみると、いずれの場合においても、女性では「主に自分」、男性では「主に配偶者（パートナー）」の割合が最も高くなっている。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について

(1) 炊事、掃除、洗濯などの家事【性・年代別、共働き状況別】

単位：%

		調査数	主に自分	自分と配偶者（パートナー）が同じくらい	主に配偶者（パートナー）	主に配偶者（パートナー）以外の家族	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答	
全体		1,061	46.4	18.7	32.4	0.6	-	1.4	0.6	
女性	女性計	575	81.2	14.1	2.6	0.5	-	1.0	0.5	
	年代別	18～29歳	23	60.9	34.8	-	-	-	4.3	-
		30代	89	79.8	15.7	2.2	1.1	-	1.1	-
		40代	126	84.1	15.1	0.8	-	-	-	-
		50代	115	82.6	12.2	2.6	0.9	-	1.7	-
		60代	104	88.5	8.7	1.9	-	-	-	1.0
		70歳以上	117	76.1	13.7	6.0	0.9	-	1.7	1.7
	状況別	共働きである	296	77.7	19.3	1.7	0.7	-	0.7	-
共働きでない		279	84.9	8.6	3.6	0.4	-	1.4	1.1	
男性	男性計	472	4.7	24.2	68.6	0.6	-	1.7	0.2	
	年代別	18～29歳	9	11.1	33.3	55.6	-	-	-	-
		30代	43	11.6	32.6	53.5	2.3	-	-	-
		40代	80	-	30.0	65.0	-	-	5.0	-
		50代	105	1.0	24.8	71.4	-	-	1.9	1.0
		60代	100	3.0	26.0	71.0	-	-	-	-
		70歳以上	132	9.1	15.2	72.7	1.5	-	1.5	-
	状況別	共働きである	217	3.2	32.7	60.8	0.5	-	2.8	-
共働きでない		255	5.9	16.9	75.3	0.8	-	0.8	0.4	

② 育児や子どものしつけ

性・年代、共働き状況（問 28 118 頁参照）別にみると、女性では「主に自分」、男性では「主に配偶者（パートナー）」の割合が高い傾向にある。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について  
 （２）育児や子どものしつけ【性・年代別、共働き状況別】

単位：%

		調査数	主に自分	自分と配偶者（パートナー）が同じくらい	主に配偶者（パートナー）	主に配偶者（パートナー）以外の家族	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答	
全体		1,061	27.8	19.4	17.1	0.2	-	32.0	3.5	
女性	女性計	575	50.6	18.3	0.7	0.2	-	27.8	2.4	
	年代別	18～29歳	23	43.5	4.3	8.7	-	-	43.5	-
		30代	89	62.9	14.6	1.1	-	-	20.2	1.1
		40代	126	65.9	20.6	-	-	-	13.5	-
		50代	115	47.0	25.2	-	-	-	27.8	-
		60代	104	45.2	15.4	-	-	-	37.5	1.9
		70歳以上	117	35.0	16.2	0.9	0.9	-	37.6	9.4
	共働き状況別	共働きである	296	53.0	21.6	0.7	-	-	24.0	0.7
共働きでない		279	48.0	14.7	0.7	0.4	-	31.9	4.3	
男性	男性計	472	0.6	21.0	36.7	0.2	-	37.5	4.0	
	年代別	18～29歳	9	-	-	33.3	-	-	66.7	-
		30代	43	2.3	14.0	46.5	-	-	37.2	-
		40代	80	-	28.8	48.8	-	-	22.5	-
		50代	105	1.0	24.8	40.0	-	-	32.4	1.9
		60代	100	-	20.0	35.0	-	-	44.0	1.0
		70歳以上	132	0.8	18.2	24.2	0.8	-	43.9	12.1
	共働き状況別	共働きである	217	0.9	26.7	37.8	-	-	33.2	1.4
共働きでない		255	0.4	16.1	35.7	0.4	-	41.2	6.3	



③ 子どもの教育方針や進学目標を決める

性・年代別にみると、男女ともに30代～50代では「自分と配偶者（パートナー）が同じくらい」の割合が最も高くなっている。

共働き状況（問28 118頁参照）別にみると、男女ともに「共働きである」では「自分と配偶者（パートナー）が同じくらい」の割合が最も高くなっている。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について

(3) 子どもの教育方針や進学目標を決める【性・年代別、共働き状況別】

単位：%

		調査数	主に自分	自分と配偶者（パートナー）が同じくらい	主に配偶者（パートナー）	主に配偶者（パートナー）以外の家族	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答	
全体		1,061	15.7	38.8	9.2	0.2	0.1	32.4	3.5	
女性	女性計	575	25.7	40.0	2.1	0.2	-	29.2	2.8	
	年代別	18～29歳	23	17.4	39.1	-	-	-	43.5	-
		30代	89	28.1	49.4	1.1	-	-	20.2	1.1
		40代	126	34.9	46.8	4.8	-	-	13.5	-
		50代	115	27.8	40.9	2.6	-	-	28.7	-
		60代	104	23.1	31.7	1.0	-	-	41.3	2.9
		70歳以上	117	16.2	31.6	0.9	0.9	-	40.2	10.3
	共働き状況別	共働きである	296	29.4	42.9	2.0	-	-	25.0	0.7
共働きでない		279	21.9	36.9	2.2	0.4	-	33.7	5.0	
男性	男性計	472	3.8	37.9	17.8	0.2	0.2	36.4	3.6	
	年代別	18～29歳	9	-	22.2	11.1	-	-	66.7	-
		30代	43	2.3	39.5	20.9	-	-	37.2	-
		40代	80	2.5	50.0	26.3	-	-	21.3	-
		50代	105	4.8	43.8	21.0	1.0	-	28.6	1.0
		60代	100	3.0	36.0	18.0	-	-	41.0	2.0
		70歳以上	132	5.3	28.8	9.1	-	0.8	45.5	10.6
	共働き状況別	共働きである	217	2.8	44.7	20.7	0.5	-	30.9	0.5
共働きでない		255	4.7	32.2	15.3	-	0.4	41.2	6.3	

#### ④ 家計支出の管理

性・年代別にみると、30代以上女性、18～29歳男性では「主に自分」の割合が最も高く、30代以上男性では「主に配偶者（パートナー）」の割合が最も高くなっている。

共働き状況（問28 118頁参照）別にみると、いずれの場合においても、女性では「主に自分」、男性では「主に配偶者（パートナー）」の割合が最も高くなっている。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について

#### （４）家計支出の管理【性・年代別、共働き状況別】

単位：％

		調査数	主に自分	自分と配偶者（パートナー）が同じくらい	主に配偶者（パートナー）	主に配偶者（パートナー）以外の家族	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答	
全体		1,061	42.2	23.4	31.8	0.1	-	1.5	1.0	
女性	女性計	575	57.2	24.5	16.0	-	-	1.7	0.5	
	年代別	18～29歳	23	30.4	39.1	30.4	-	-	-	-
		30代	89	53.9	25.8	16.9	-	-	3.4	-
		40代	126	58.7	23.8	17.5	-	-	-	-
		50代	115	58.3	24.3	16.5	-	-	0.9	-
		60代	104	56.7	24.0	16.3	-	-	1.9	1.0
		70歳以上	117	62.4	22.2	10.3	-	-	3.4	1.7
	共働き状況別	共働きである	296	58.4	24.0	16.2	-	-	1.0	0.3
共働きでない		279	55.9	25.1	15.8	-	-	2.5	0.7	
男性	男性計	472	24.2	22.7	50.4	0.2	-	1.3	1.3	
	年代別	18～29歳	9	55.6	22.2	11.1	-	-	11.1	-
		30代	43	32.6	18.6	48.8	-	-	-	-
		40代	80	30.0	26.3	43.8	-	-	-	-
		50代	105	30.5	21.9	44.8	-	-	2.9	-
		60代	100	17.0	23.0	58.0	-	-	1.0	1.0
		70歳以上	132	15.9	22.0	56.8	0.8	-	0.8	3.8
	共働き状況別	共働きである	217	24.9	24.4	48.4	-	-	1.8	0.5
共働きでない		255	23.5	21.2	52.2	0.4	-	0.8	2.0	

⑤ 高額な商品や土地、家屋の購入

性・年代別にみると、18～29歳・40代女性では、「主に配偶者（パートナー）」の割合が最も高く、18～29歳・40代男性では、「主に自分」の割合が最も高くなっている。また、男女ともに30代・50代以上では「自分と配偶者（パートナー）が同じくらい」の割合が最も高くなっている。

共働き状況（問28 118頁参照）別にみると、いずれの場合においても、「自分と配偶者（パートナー）が同じくらい」の割合が最も高くなっている。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について  
 (5) 高額な商品や土地、家屋の購入【性・年代別、共働き状況別】

単位：%

		調査数	主に自分	自分と配偶者（パートナー）が同じくらい	主に配偶者（パートナー）	主に配偶者（パートナー）以外の家族	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答	
全体		1,061	19.4	46.0	22.1	0.4	-	10.5	1.7	
女性	女性計	575	7.7	44.9	33.9	0.5	-	11.7	1.4	
	年代別	18～29歳	23	4.3	30.4	34.8	-	-	30.4	-
		30代	89	10.1	40.4	36.0	1.1	-	11.2	1.1
		40代	126	11.1	32.5	48.4	-	-	7.9	-
		50代	115	6.1	51.3	32.2	0.9	-	9.6	-
		60代	104	5.8	51.9	32.7	-	-	8.7	1.0
		70歳以上	117	6.0	52.1	18.8	0.9	-	17.1	5.1
	共働き状況別	共働きである	296	10.1	40.9	35.8	0.3	-	12.2	0.7
共働きでない		279	5.0	49.1	31.9	0.7	-	11.1	2.2	
男性	男性計	472	33.7	47.9	7.6	0.2	-	9.1	1.5	
	年代別	18～29歳	9	55.6	33.3	-	-	-	11.1	-
		30代	43	37.2	41.9	11.6	-	-	9.3	-
		40代	80	50.0	35.0	11.3	-	-	3.8	-
		50代	105	37.1	52.4	7.6	-	-	2.9	-
		60代	100	24.0	56.0	7.0	-	-	13.0	-
		70歳以上	132	25.0	49.2	5.3	0.8	-	14.4	5.3
	共働き状況別	共働きである	217	31.8	52.5	9.7	-	-	5.5	0.5
共働きでない		255	35.3	43.9	5.9	0.4	-	12.2	2.4	

⑥ 将来の生活設計を立てる

性・年代別、共働き状況（問 28 118 頁参照）別にみると、いずれの場合においても、男女ともに「自分と配偶者（パートナー）が同じくらい」の割合が最も高くなっている。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について  
 （6）将来の生活設計を立てる【性・年代別、共働き状況別】

単位：%

		調査数	主に自分	自分と配偶者（パートナー）が同じくらい	主に配偶者（パートナー）	主に配偶者（パートナー）以外の家族	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答	
全体		1,061	19.4	58.1	13.9	0.3	0.1	6.6	1.7	
女性	女性計	575	18.1	57.7	15.5	0.3	-	6.8	1.6	
	年代別	18～29歳	23	4.3	60.9	30.4	-	-	4.3	-
		30代	89	19.1	59.6	12.4	-	-	9.0	-
		40代	126	25.4	54.0	17.5	-	-	3.2	-
		50代	115	17.4	60.9	16.5	-	-	5.2	-
		60代	104	17.3	58.7	16.3	1.0	-	5.8	1.0
		70歳以上	117	12.8	56.4	11.1	0.9	-	12.0	6.8
	共働き状況別	共働きである	296	23.3	57.1	14.2	-	-	5.1	0.3
共働きでない		279	12.5	58.4	16.8	0.7	-	8.6	2.9	
男性	男性計	472	21.4	58.9	11.7	0.2	0.2	6.1	1.5	
	年代別	18～29歳	9	22.2	77.8	-	-	-	-	-
		30代	43	20.9	62.8	14.0	-	2.3	-	-
		40代	80	27.5	56.3	15.0	-	-	1.3	-
		50代	105	27.6	56.2	10.5	-	-	2.9	2.9
		60代	100	22.0	58.0	12.0	-	-	8.0	-
		70歳以上	132	12.9	59.8	10.6	0.8	-	12.9	3.0
	共働き状況別	共働きである	217	18.0	62.7	15.2	-	-	3.2	0.9
共働きでない		255	24.3	55.7	8.6	0.4	0.4	8.6	2.0	

⑦ 親や家族の介護

性・年代別にみると、女性50代、男性50代・60代では「自分と配偶者（パートナー）が同じくらい」の割合が最も高くなっている。また、女性60代では「主に自分」の割合が最も高くなっている。

共働き状況（問28 118頁参照）別にみると、共働きでない世帯は共働き世帯に比べて女性では「主に自分」の割合が7.1ポイント、男性では「主に配偶者（パートナー）」の割合が8.5ポイント高くなっている。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について

（7）親や家族の介護【性・年代別、共働き状況別】

単位：%

		調査数	主に自分	自分と配偶者（パートナー）が同じくらい	主に配偶者（パートナー）	主に配偶者（パートナー）以外の家族	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答	
全体		1,061	16.0	28.4	8.8	1.1	1.6	41.9	2.2	
女性	女性計	575	24.3	25.4	2.8	1.2	1.6	43.1	1.6	
	年代別	18～29歳	23	8.7	4.3	-	-	-	87.0	-
		30代	89	5.6	15.7	1.1	1.1	3.4	71.9	1.1
		40代	126	23.8	22.2	1.6	0.8	1.6	50.0	-
		50代	115	24.3	39.1	4.3	0.9	1.7	29.6	-
		60代	104	41.3	25.0	4.8	-	1.9	26.0	1.0
		70歳以上	117	27.4	26.5	2.6	3.4	-	34.2	6.0
	状況別	共働きである	296	20.9	27.0	2.4	1.4	1.7	45.9	0.7
共働きでない		279	28.0	23.7	3.2	1.1	1.4	40.1	2.5	
男性	男性計	472	5.7	32.6	16.1	1.1	1.7	40.0	2.8	
	年代別	18～29歳	9	11.1	22.2	-	-	-	66.7	-
		30代	43	2.3	27.9	4.7	-	2.3	62.8	-
		40代	80	3.8	31.3	8.8	1.3	1.3	53.8	-
		50代	105	5.7	41.0	15.2	-	1.9	34.3	1.9
		60代	100	10.0	31.0	28.0	2.0	1.0	27.0	1.0
		70歳以上	132	4.5	31.1	16.7	1.5	2.3	36.4	7.6
	状況別	共働きである	217	4.1	34.6	11.5	1.4	1.4	46.1	0.9
共働きでない		255	7.1	31.0	20.0	0.8	2.0	34.9	4.3	

⑧ 町内会、自治会、PTAなどの会合への参加

性・年代別にみると、女性では「主に自分」、男性では「主に配偶者（パートナー）」の割合が高い傾向にある。

共働き状況（問 28 118 頁参照）別にみると、いずれの場合においても、女性では「主に自分」、男性では「主に配偶者（パートナー）」の割合が最も高くなっている。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について

(8) 町内会、自治会、PTAなどの会合への参加【性・年代別、共働き状況別】

単位：%

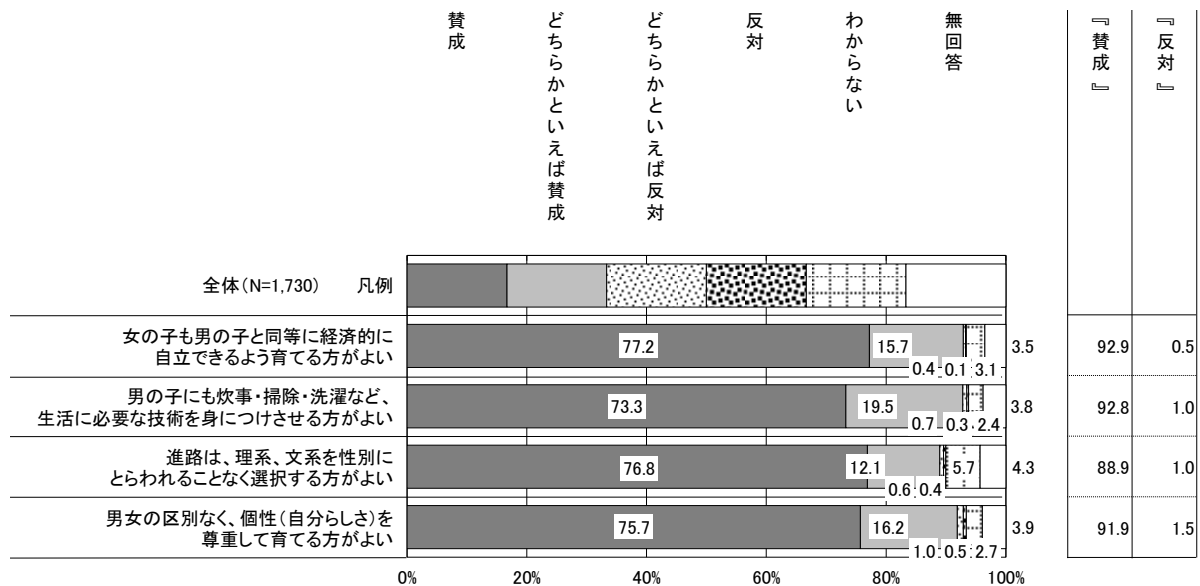
		調査数	主に自分	自分と配偶者（パートナー）が同じくらい	主に配偶者（パートナー）	主に配偶者（パートナー）以外の家族	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答	
全体		1,061	33.5	18.9	22.0	0.8	0.2	23.2	1.4	
女性	女性計	575	44.7	17.9	12.9	0.5	-	23.0	1.0	
	年代別	18～29歳	23	13.0	4.3	4.3	-	-	78.3	-
		30代	89	29.2	9.0	11.2	-	-	49.4	1.1
		40代	126	62.7	17.5	6.3	-	-	13.5	-
		50代	115	47.0	22.6	13.0	-	-	17.4	-
		60代	104	48.1	24.0	11.5	1.0	-	14.4	1.0
		70歳以上	117	38.5	17.9	23.1	1.7	-	15.4	3.4
	共働き状況別	共働きである	296	46.3	18.6	9.1	-	-	25.7	0.3
共働きでない		279	43.0	17.2	16.8	1.1	-	20.1	1.8	
男性	男性計	472	20.3	20.6	33.3	1.3	0.4	22.7	1.5	
	年代別	18～29歳	9	-	11.1	-	-	-	88.9	-
		30代	43	7.0	9.3	25.6	2.3	-	55.8	-
		40代	80	16.3	22.5	36.3	1.3	-	23.8	-
		50代	105	16.2	24.8	37.1	1.0	1.0	18.1	1.9
		60代	100	32.0	23.0	33.0	1.0	-	11.0	-
		70歳以上	132	23.5	18.2	32.6	1.5	0.8	19.7	3.8
	共働き状況別	共働きである	217	18.0	23.0	32.3	1.4	0.5	24.0	0.9
共働きでない		255	22.4	18.4	34.1	1.2	0.4	21.6	2.0	

(11) 子どものしつけや教育について

**問 30** あなたは、子どものしつけや教育について、どのように考えていますか。  
 次の(1)～(4)までのそれぞれの項目について、あなたの考えに最も近いものを**1つ**  
**だけ**選んでください。  
 ※子どものいない方は、一般的にどう思うかお答えください

子どものしつけや教育について聞いたところ、『賛成』(=「賛成」+「どちらかといえば賛成」)の割合は、「女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい」が92.9%と最も高く、次いで「男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」(92.8%)、「男女の区別なく、個性(自分らしさ)を尊重して育てる方がよい」(91.9%)となっている。

図表 子どものしつけや教育について【全体】



① 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい

性別にみると、女性では「賛成」(80.6%)の割合が男性(72.8%)に比べて7.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに70歳以上では『賛成』の割合が9割前後となっており、他の性・年代に比べて低くなっている。

図表 子どものしつけや教育について

(1) 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい【性・年代別】

単位: %

		調査数	賛成	い ど ち ら ば 賛 成 と	い ど ち ら ば 反 対 と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	『 賛 成 』	『 反 対 』
全体		1,730	77.2	15.7	0.4	0.1	3.1	3.5	92.9	0.5
性・年代別	女性計	1,004	80.6	14.0	0.2	0.1	1.9	3.2	94.6	0.3
	18~29歳	105	82.9	12.4	-	-	-	4.8	95.3	-
	30代	135	88.1	9.6	-	-	0.7	1.5	97.7	-
	40代	166	83.7	11.4	0.6	-	2.4	1.8	95.1	0.6
	50代	178	85.4	11.2	-	-	2.8	0.6	96.6	-
	60代	146	80.1	17.1	-	0.7	1.4	0.7	97.2	0.7
	70歳以上	268	70.9	18.7	0.4	-	2.6	7.5	89.6	0.4
	男性計	702	72.8	18.1	0.6	0.1	4.8	3.6	90.9	0.7
	18~29歳	58	75.9	12.1	-	-	3.4	8.6	88.0	-
	30代	71	77.5	16.9	-	1.4	1.4	2.8	94.4	1.4
	40代	103	78.6	15.5	-	-	4.9	1.0	94.1	-
	50代	140	75.7	17.1	-	-	4.3	2.9	92.8	-
	60代	135	69.6	19.3	1.5	-	6.7	3.0	88.9	1.5
	70歳以上	186	68.8	21.5	1.1	-	4.3	4.3	90.3	1.1

② 男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

性別にみると、女性では「賛成」(78.9%)の割合が男性(65.5%)に比べて13.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性70歳以上、男性60代以上では『賛成』の割合が8割台となっており、他の性・年代に比べて低くなっている。

図表 子どものしつけや教育について

(2) 男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

【性・年代別】

単位: %

		調査数	賛成	い ど ち ら ば 賛 成 と	い ど ち ら ば 反 対 と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	『 賛 成 』	『 反 対 』
全体		1,730	73.3	19.5	0.7	0.3	2.4	3.8	92.8	1.0
性・年代別	女性計	1,004	78.9	16.0	0.4	0.1	1.2	3.4	94.9	0.5
	18~29歳	105	83.8	11.4	-	-	-	4.8	95.2	-
	30代	135	89.6	8.9	-	-	-	1.5	98.5	-
	40代	166	88.0	9.6	0.6	-	0.6	1.2	97.6	0.6
	50代	178	84.3	11.2	-	0.6	2.2	1.7	95.5	0.6
	60代	146	76.7	21.2	-	-	1.4	0.7	97.9	-
	70歳以上	268	63.4	25.7	1.1	-	1.9	7.8	89.1	1.1
	男性計	702	65.5	24.8	1.0	0.7	4.0	4.0	90.3	1.7
	18~29歳	58	82.8	8.6	-	-	-	8.6	91.4	-
	30代	71	74.6	18.3	1.4	1.4	1.4	2.8	92.9	2.8
	40代	103	83.5	12.6	-	-	2.9	1.0	96.1	-
	50代	140	70.7	22.1	-	0.7	3.6	2.9	92.8	0.7
	60代	135	63.7	24.4	1.5	-	7.4	3.0	88.1	1.5
	70歳以上	186	44.6	41.9	2.2	1.6	3.8	5.9	86.5	3.8



③ 進路は、理系、文系を性別にとらわれることなく選択する方がよい

性別にみると、女性では「賛成」(79.9%)の割合が男性(72.9%)に比べて7.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性70歳以上、男性18~29歳では『賛成』の割合が81.0%となっており、他の性・年代に比べて低くなっている。

図表 子どものしつけや教育について

(3) 進路は、理系、文系を性別にとらわれることなく選択する方がよい【性・年代別】

単位: %

		調査数	賛成	いどちら えば賛成と	いどちら えば反対と	反対	わからない	無回答	『賛成』	『反対』
全体		1,730	76.8	12.1	0.6	0.4	5.7	4.3	88.9	1.0
性・年代別	女性計	1,004	79.9	11.1	0.3	0.2	4.5	4.1	91.0	0.5
	18~29歳	105	83.8	9.5	-	-	1.9	4.8	93.3	-
	30代	135	91.9	3.0	0.7	-	3.0	1.5	94.9	0.7
	40代	166	89.2	4.8	0.6	1.2	2.4	1.8	94.0	1.8
	50代	178	86.0	9.0	-	-	3.4	1.7	95.0	-
	60代	146	77.4	17.8	-	-	4.1	0.7	95.2	-
	70歳以上	268	63.8	17.2	0.4	-	8.6	10.1	81.0	0.4
	男性計	702	72.9	14.0	0.9	0.7	7.3	4.3	86.9	1.6
	18~29歳	58	81.0	-	1.7	-	8.6	8.6	81.0	1.7
	30代	71	81.7	12.7	1.4	-	1.4	2.8	94.4	1.4
	40代	103	81.6	7.8	-	1.9	7.8	1.0	89.4	1.9
	50代	140	76.4	12.9	0.7	1.4	5.0	3.6	89.3	2.1
	60代	135	71.1	17.8	0.7	-	7.4	3.0	88.9	0.7
	70歳以上	186	62.9	20.4	1.1	0.5	8.6	6.5	83.3	1.6

④ 男女の区別なく、個性(自分らしさ)を尊重して育てる方がよい

性別にみると、女性では「賛成」(78.4%)の割合が男性(72.6%)に比べて5.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性18~29歳では『賛成』の割合が84.5%となっており、他の性・年代に比べて低くなっている。

図表 子どものしつけや教育について

(4) 男女の区別なく、個性(自分らしさ)を尊重して育てる方がよい【性・年代別】

単位: %

		調査数	賛成	いどちら えば賛成と	いどちら えば反対と	反対	わからない	無回答	『賛成』	『反対』
全体		1,730	75.7	16.2	1.0	0.5	2.7	3.9	91.9	1.5
性・年代別	女性計	1,004	78.4	15.6	0.8	-	1.7	3.5	94.0	0.8
	18~29歳	105	82.9	12.4	-	-	-	4.8	95.3	-
	30代	135	87.4	10.4	-	-	0.7	1.5	97.8	-
	40代	166	85.5	10.8	1.2	-	1.2	1.2	96.3	1.2
	50代	178	77.5	15.2	2.2	-	3.4	1.7	92.7	2.2
	60代	146	76.7	19.9	0.7	-	2.1	0.7	96.6	0.7
	70歳以上	268	69.0	20.5	0.4	-	1.9	8.2	89.5	0.4
	男性計	702	72.6	17.0	1.1	1.1	4.1	4.0	89.6	2.2
	18~29歳	58	79.3	5.2	1.7	3.4	1.7	8.6	84.5	5.1
	30代	71	74.6	19.7	2.8	-	-	2.8	94.3	2.8
	40代	103	78.6	12.6	1.9	1.0	4.9	1.0	91.2	2.9
	50代	140	72.9	15.0	1.4	1.4	5.7	3.6	87.9	2.8
	60代	135	68.9	21.5	0.7	0.7	5.2	3.0	90.4	1.4
	70歳以上	186	71.0	19.9	-	1.1	2.7	5.4	90.9	1.1

(12) 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験

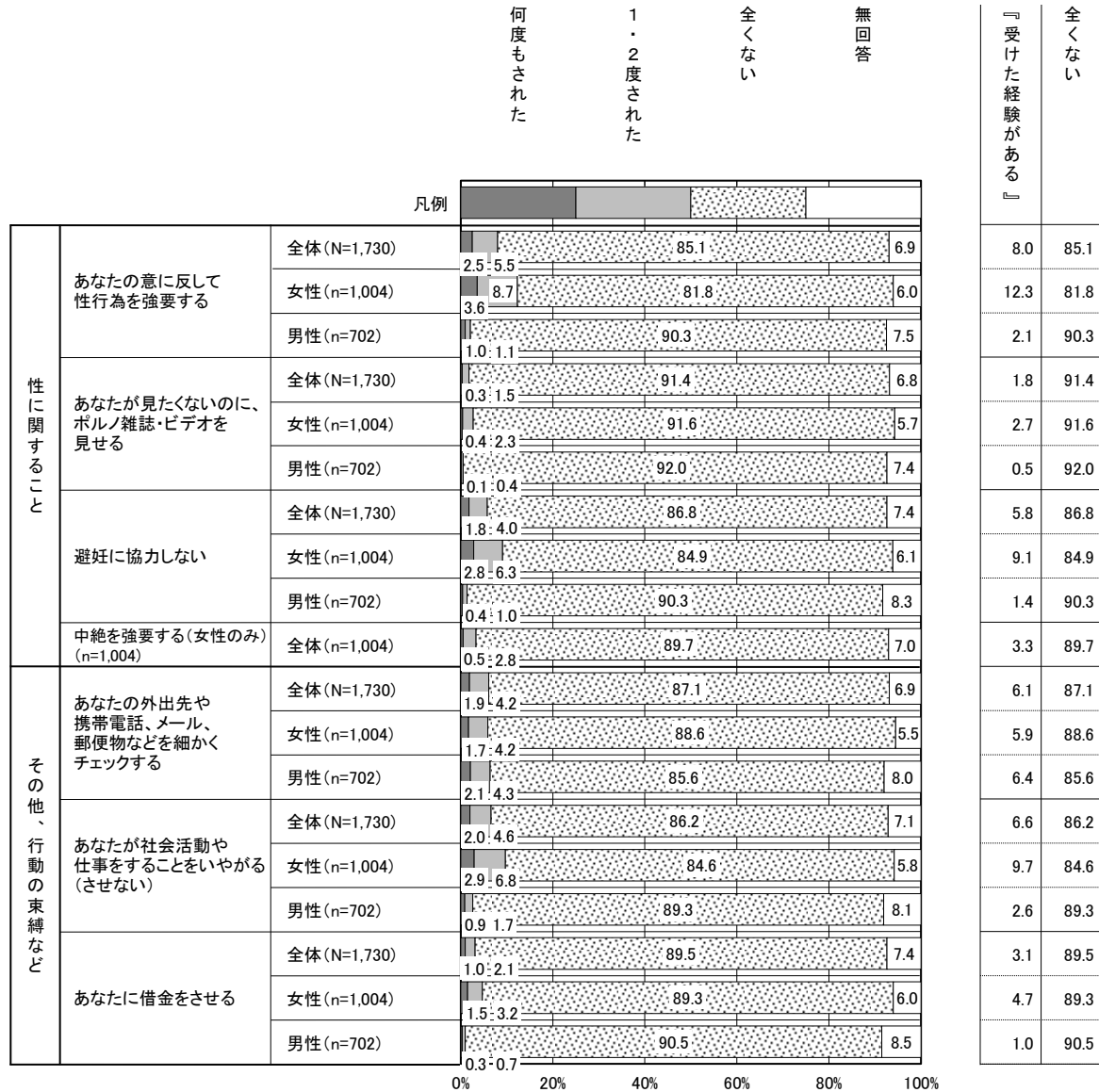
**問 31** あなたは恋人、配偶者、パートナーから次のような行為をされたことがありますか。次の(1)～(14)までのそれぞれの項目についてあてはまるものを1つだけ選んでください。

恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験について聞いたところ、『受けた経験がある』(=「何度もされた」+「1・2度された」)の割合は、「大声で怒鳴る」が28.6%と最も高く、次いで「話しかけても長い間無視する」(25.4%)、「誰のおかげで生活できるんだ、かい性なしなどと言う」(11.6%)となっている。

図表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験【性別】(1/2)



図表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験【性別】(2/2)



① 精神的に追い詰めること

「大声で怒鳴る」「誰のおかげで生活できるんだ、かい性なしなどと言う」「生活費を渡さない」では、いずれの年代でも『受けた経験がある』の割合は男性に比べて女性が高くなっている。

図表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験  
精神的に追い詰めること【性・年代別】(1/2)

単位:%

	調査数	あなたが話しかけても長い間無視する					あなたを大声で怒鳴る					
		何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	ある『受けた経験がある』	何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	ある『受けた経験がある』	
全体	1,730	8.1	17.3	68.2	6.5	25.4	9.7	18.9	65.3	6.1	28.6	
性・年代別	女性計	1,004	10.0	15.7	68.6	5.7	25.7	12.0	19.6	63.6	4.8	31.6
	18~29歳	105	4.8	11.4	81.9	1.9	16.2	2.9	9.5	86.7	1.0	12.4
	30代	135	9.6	10.4	78.5	1.5	20.0	6.7	16.3	75.6	1.5	23.0
	40代	166	11.4	10.2	77.7	0.6	21.6	12.7	19.3	67.5	0.6	32.0
	50代	178	9.6	20.2	68.0	2.2	29.8	18.5	21.3	58.4	1.7	39.8
	60代	146	12.3	23.3	59.6	4.8	35.6	15.1	24.7	56.2	4.1	39.8
	70歳以上	268	10.4	16.4	58.2	14.9	26.8	11.9	22.0	53.4	12.7	33.9
	男性計	702	5.3	20.1	67.7	7.0	25.4	6.4	17.9	68.5	7.1	24.3
	18~29歳	58	1.7	8.6	84.5	5.2	10.3	3.4	3.4	87.9	5.2	6.8
	30代	71	2.8	16.9	78.9	1.4	19.7	4.2	18.3	76.1	1.4	22.5
	40代	103	3.9	20.4	71.8	3.9	24.3	6.8	17.5	70.9	4.9	24.3
	50代	140	7.9	20.7	67.1	4.3	28.6	10.7	19.3	66.4	3.6	30.0
	60代	135	8.1	23.7	60.0	8.1	31.8	7.4	23.7	60.7	8.1	31.1
	70歳以上	186	4.3	22.6	60.8	12.4	26.9	4.3	18.3	64.5	12.9	22.6

単位:%

	調査数	あなたに「誰のおかげで生活できるんだ」、「かい性なし」などと言う					あなたが大切にしている物を捨てたり、壊したりする					
		何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	ある『受けた経験がある』	何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	ある『受けた経験がある』	
全体	1,730	4.2	7.4	82.3	6.1	11.6	2.0	6.5	85.3	6.1	8.5	
性・年代別	女性計	1,004	5.6	9.2	80.2	5.1	14.8	2.2	6.5	86.2	5.2	8.7
	18~29歳	105	2.9	4.8	90.5	1.9	7.7	2.9	2.9	92.4	1.9	5.8
	30代	135	3.0	5.9	89.6	1.5	8.9	0.7	4.4	93.3	1.5	5.1
	40代	166	6.0	8.4	84.9	0.6	14.4	1.2	6.0	92.2	0.6	7.2
	50代	178	9.6	9.0	80.3	1.1	18.6	4.5	9.0	84.8	1.7	13.5
	60代	146	7.5	15.8	73.3	3.4	23.3	3.4	8.9	83.6	4.1	12.3
	70歳以上	268	4.1	9.7	72.0	14.2	13.8	1.1	6.3	78.7	13.8	7.4
	男性計	702	2.1	5.1	85.9	6.8	7.2	1.9	6.7	84.8	6.7	8.6
	18~29歳	58	-	-	94.8	5.2	-	-	3.4	91.4	5.2	3.4
	30代	71	2.8	1.4	94.4	1.4	4.2	-	5.6	93.0	1.4	5.6
	40代	103	1.0	4.9	90.3	3.9	5.9	4.9	6.8	84.5	3.9	11.7
	50代	140	3.6	7.9	85.0	3.6	11.5	4.3	7.1	85.7	2.9	11.4
	60代	135	3.0	7.4	81.5	8.1	10.4	0.7	7.4	83.7	8.1	8.1
	70歳以上	186	1.6	4.8	81.2	12.4	6.4	0.5	7.5	79.6	12.4	8.0

図表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験

精神的に追い詰めること【性・年代別】(2/2)

単位: %

	調査数	生活費を渡さない					ある『 受けた 経験が』
		何 度も され た	1 ・ 2 度 され た	全 く な い	無 回 答		
全体	1,730	3.0	2.7	87.6	6.6	5.7	
性・ 年代 別	女性計	1,004	4.6	3.2	86.5	5.8	7.8
	18～29歳	105	2.9	1.9	93.3	1.9	4.8
	30代	135	1.5	4.4	92.6	1.5	5.9
	40代	166	4.8	2.4	91.6	1.2	7.2
	50代	178	9.0	1.7	87.6	1.7	10.7
	60代	146	6.8	7.5	81.5	4.1	14.3
	70歳以上	268	2.6	2.2	79.5	15.7	4.8
	男性計	702	0.7	2.1	90.0	7.1	2.8
	18～29歳	58	-	1.7	91.4	6.9	1.7
	30代	71	1.4	1.4	95.8	1.4	2.8
	40代	103	1.0	2.9	92.2	3.9	3.9
	50代	140	1.4	4.3	90.7	3.6	5.7
	60代	135	-	2.2	89.6	8.1	2.2
	70歳以上	186	0.5	0.5	86.0	12.9	1.0

② 身体への直接の攻撃など

「命の危険を感じるぐらいの暴力を振るう」「命の危険を感じる程ではないが何らかの暴力を振るう」では、いずれの年代でも『受けた経験がある』の割合は男性に比べて女性が高くなっている。また、「命の危険を感じる程ではないが何らかの暴力を振るう」では、『受けた経験がある』の割合は50代で男性(5.0%)に比べて女性(15.8%)が10.8ポイント高くなっている。

図表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験

身体への直接の攻撃など【性・年代別】

単位: %

	調査数	命の危険を感じるぐらいの暴力を振るう					命の危険を感じる程ではないが何らかの暴力を振るう					
		何 度も され た	1 ・ 2 度 され た	全 く な い	無 回 答	あ る『 受けた 経験が』	何 度も され た	1 ・ 2 度 され た	全 く な い	無 回 答	あ る『 受けた 経験が』	
全体	1,730	0.7	1.9	91.0	6.4	2.6	1.7	6.3	85.7	6.2	8.0	
性・ 年代 別	女性計	1,004	1.0	2.7	90.9	5.4	3.7	2.6	8.5	83.7	5.3	11.1
	18～29歳	105	1.0	1.9	95.2	1.9	2.9	1.0	4.8	92.4	1.9	5.8
	30代	135	-	1.5	97.0	1.5	1.5	0.7	6.7	91.1	1.5	7.4
	40代	166	-	2.4	96.4	1.2	2.4	0.6	9.6	89.2	0.6	10.2
	50代	178	1.1	5.6	91.6	1.7	6.7	5.1	10.7	82.6	1.7	15.8
	60代	146	2.1	1.4	91.8	4.8	3.5	4.1	8.2	83.6	4.1	12.3
	70歳以上	268	1.5	2.6	82.1	13.8	4.1	3.0	9.0	73.9	14.2	12.0
	男性計	702	0.1	0.9	92.0	7.0	1.0	0.4	3.1	89.5	7.0	3.5
	18～29歳	58	-	1.7	93.1	5.2	1.7	-	1.7	93.1	5.2	1.7
	30代	71	-	-	98.6	1.4	-	-	4.2	94.4	1.4	4.2
	40代	103	-	1.0	95.1	3.9	1.0	1.0	3.9	91.3	3.9	4.9
	50代	140	0.7	1.4	94.3	3.6	2.1	1.4	3.6	91.4	3.6	5.0
	60代	135	-	1.5	90.4	8.1	1.5	-	3.7	88.1	8.1	3.7
	70歳以上	186	-	-	87.1	12.9	-	-	2.2	84.9	12.9	2.2

③ 性に関すること

「あなたの意に反して性行為を強要する」「避妊に協力しない」では、いずれの年代でも『受けた経験がある』の割合は男性に比べて女性が高くなっている。また、「あなたの意に反して性行為を強要する」では、女性では概ね年代が高いほど『受けた経験がある』の割合が高くなっている。さらに、「避妊に協力しない」では、女性 30～50 代で『受けた経験がある』の割合が 1 割を超えている。

図表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験  
性に関すること【性・年代別】

単位: %

	調査数	あなたの意に反して性行為を強要する					あなたが見たくないのに、ポルノ雑誌・ビデオを見せる					
		何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	ある『受けた経験がある』	何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	ある『受けた経験がある』	
全体	1,730	2.5	5.5	85.1	6.9	8.0	0.3	1.5	91.4	6.8	1.8	
性・年代別	女性計	1,004	3.6	8.7	81.8	6.0	12.3	0.4	2.3	91.6	5.7	2.7
	18～29歳	105	1.0	3.8	93.3	1.9	4.8	-	1.0	97.1	1.9	1.0
	30代	135	1.5	7.4	89.6	1.5	8.9	-	1.5	97.0	1.5	1.5
	40代	166	4.2	8.4	86.7	0.6	12.6	-	1.2	98.2	0.6	1.2
	50代	178	7.3	8.4	82.6	1.7	15.7	1.7	2.8	93.8	1.7	4.5
	60代	146	4.1	12.3	78.8	4.8	16.4	0.7	3.4	91.1	4.8	4.1
	70歳以上	268	2.6	9.7	71.3	16.4	12.3	-	3.0	81.7	15.3	3.0
	男性計	702	1.0	1.1	90.3	7.5	2.1	0.1	0.4	92.0	7.4	0.5
	18～29歳	58	1.7	-	93.1	5.2	1.7	-	1.7	93.1	5.2	1.7
	30代	71	2.8	-	95.8	1.4	2.8	1.4	-	97.2	1.4	1.4
	40代	103	-	1.0	95.1	3.9	1.0	-	-	96.1	3.9	-
	50代	140	2.1	-	94.3	3.6	2.1	-	-	96.4	3.6	-
	60代	135	0.7	4.4	86.7	8.1	5.1	-	1.5	90.4	8.1	1.5
	70歳以上	186	-	0.5	84.4	15.1	0.5	-	-	85.5	14.5	-

単位: %

	調査数	避妊に協力しない					中絶を強要する					
		何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	ある『受けた経験がある』	何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	ある『受けた経験がある』	
全体	1,730	1.8	4.0	86.8	7.4	5.8	0.5	2.8	89.7	7.0	3.3	
性・年代別	女性計	1,004	2.8	6.3	84.9	6.1	9.1	0.5	2.8	89.7	7.0	3.3
	18～29歳	105	3.8	2.9	91.4	1.9	6.7	-	1.9	96.2	1.9	1.9
	30代	135	4.4	6.7	87.4	1.5	11.1	-	1.5	95.6	3.0	1.5
	40代	166	1.8	10.2	87.3	0.6	12.0	-	0.6	98.8	0.6	0.6
	50代	178	5.6	4.5	88.2	1.7	10.1	1.1	2.8	94.4	1.7	3.9
	60代	146	1.4	7.5	86.3	4.8	8.9	-	4.1	90.4	5.5	4.1
	70歳以上	268	1.1	5.6	76.5	16.8	6.7	1.1	4.5	75.4	19.0	5.6
	男性計	702	0.4	1.0	90.3	8.3	1.4	-	-	-	-	-
	18～29歳	58	1.7	1.7	91.4	5.2	3.4	-	-	-	-	-
	30代	71	-	-	98.6	1.4	-	-	-	-	-	-
	40代	103	-	1.9	94.2	3.9	1.9	-	-	-	-	-
	50代	140	-	-	95.7	4.3	-	-	-	-	-	-
	60代	135	1.5	0.7	89.6	8.1	2.2	-	-	-	-	-
	70歳以上	186	-	1.6	81.2	17.2	1.6	-	-	-	-	-

#### ④ その他、行動の束縛など

「あなたが社会活動や仕事をするをいやがる（させない）」では、いずれの年代でも『受けた経験がある』の割合は、男性に比べて女性が高くなっており、女性では概ね年代が高いほど『受けた経験がある』の割合が高くなっている。また、「あなたの外出先や携帯電話、メール、郵便物などを細かくチェックする」では、男性18～29歳・30代で『受けた経験がある』の割合が1割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験  
その他、行動の束縛など【性・年代別】

単位：%

	調査数	あなたの外出先や携帯電話、メール、郵便物などを細かくチェックする				あなたが社会活動や仕事をするをいやがる(させない)						
		何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	ある『受けた経験がある』	何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	ある『受けた経験がある』	
全体	1,730	1.9	4.2	87.1	6.9	6.1	2.0	4.6	86.2	7.1	6.6	
性・年代別	女性計	1,004	1.7	4.2	88.6	5.5	5.9	2.9	6.8	84.6	5.8	9.7
	18～29歳	105	1.0	3.8	93.3	1.9	4.8	-	3.8	94.3	1.9	3.8
	30代	135	3.0	5.2	90.4	1.5	8.2	1.5	3.7	91.9	3.0	5.2
	40代	166	0.6	4.2	94.6	0.6	4.8	3.0	6.6	89.8	0.6	9.6
	50代	178	1.7	5.1	91.6	1.7	6.8	3.4	7.9	87.1	1.7	11.3
	60代	146	2.7	4.8	88.4	4.1	7.5	4.8	8.2	82.9	4.1	13.0
	70歳以上	268	1.5	3.0	80.6	14.9	4.5	3.4	8.2	73.1	15.3	11.6
	男性計	702	2.1	4.3	85.6	8.0	6.4	0.9	1.7	89.3	8.1	2.6
	18～29歳	58	3.4	6.9	82.8	6.9	10.3	-	3.4	89.7	6.9	3.4
	30代	71	4.2	7.0	87.3	1.4	11.2	-	1.4	97.2	1.4	1.4
	40代	103	2.9	3.9	88.3	4.9	6.8	2.9	1.0	91.3	4.9	3.9
	50代	140	4.3	5.0	87.1	3.6	9.3	1.4	2.9	91.4	4.3	4.3
	60代	135	0.7	4.4	86.7	8.1	5.1	0.7	0.7	90.4	8.1	1.4
70歳以上	186	-	2.2	82.8	15.1	2.2	-	1.6	83.3	15.1	1.6	

単位：%

	調査数	あなたに借金をさせる					
		何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	ある『受けた経験がある』	
全体	1,730	1.0	2.1	89.5	7.4	3.1	
性・年代別	女性計	1,004	1.5	3.2	89.3	6.0	4.7
	18～29歳	105	-	2.9	95.2	1.9	2.9
	30代	135	-	-	97.0	3.0	-
	40代	166	2.4	1.8	95.2	0.6	4.2
	50代	178	2.8	5.1	89.9	2.2	7.9
	60代	146	0.7	5.5	89.7	4.1	6.2
	70歳以上	268	1.9	3.4	79.1	15.7	5.3
	男性計	702	0.3	0.7	90.5	8.5	1.0
	18～29歳	58	-	-	93.1	6.9	-
	30代	71	-	-	98.6	1.4	-
	40代	103	1.0	1.0	93.2	4.9	2.0
	50代	140	0.7	1.4	93.6	4.3	2.1
	60代	135	-	0.7	91.1	8.1	0.7
70歳以上	186	-	0.5	82.8	16.7	0.5	

(13) 暴力を受けて、どう行動したいと思ったか

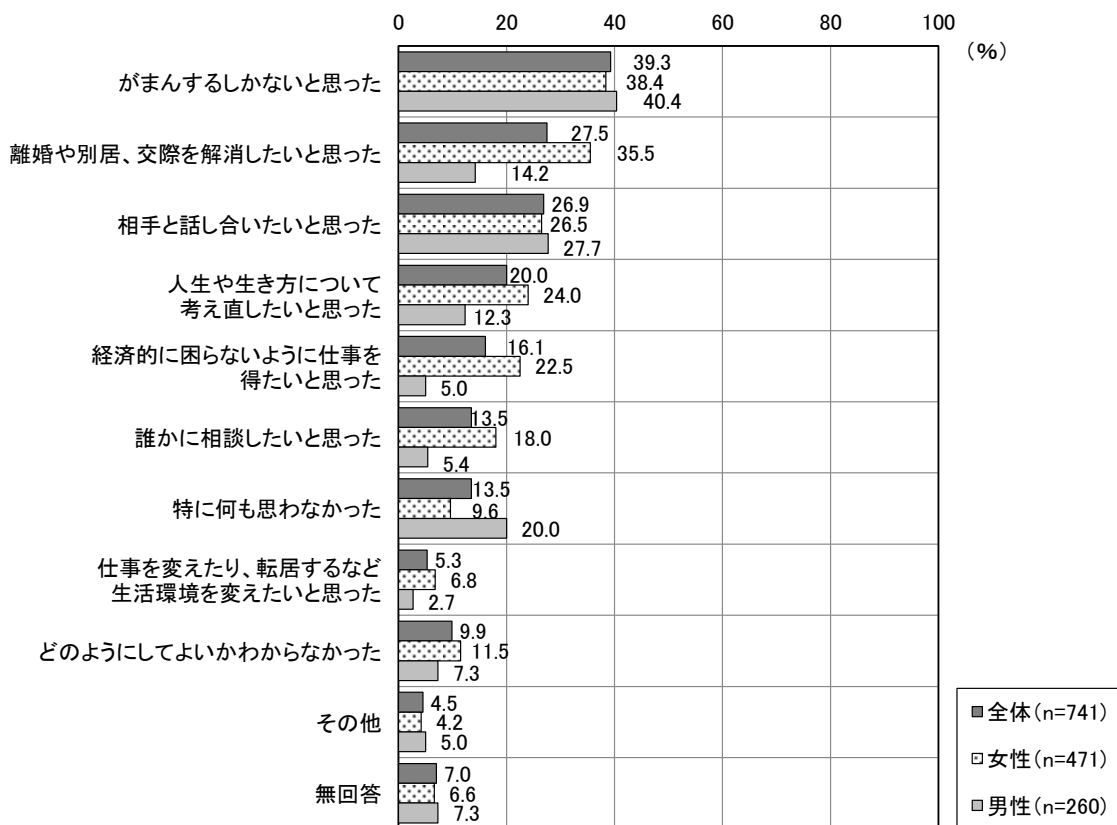
問 32 《 問 31 でひとつでも「1」「2」と回答した方におたずねします。》

問 31 の行為をされたとき、あなたはどのようにしたいと思いましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

暴力を受けて、どう行動したいと思ったかについて聞いたところ、「がまんするしかないと思った」が 39.3%と最も多く、次いで「離婚や別居、交際を解消したいと思った」(27.5%)、「相手と話し合いたいと思った」(26.9%) となっている。

性別にみると、女性では「離婚や別居、交際を解消したいと思った」(35.5%) の割合が男性(14.2%) に比べて 21.3 ポイント、「経済的に困らないように仕事をしたいと思った」(22.5%) が男性(5.0%) に比べて 17.5 ポイント高くなっている。また、男性では「特に何も思わなかった」(20.0%) の割合が女性(9.6%) に比べて 10.4 ポイント高くなっている。

図表 暴力を受けて、どう行動したいと思ったか【性別】※複数回答(すべて)





性・年代別にみると、女性では概ね年代が高いほど「がまんするしかないと思った」の割合が高くなっている。また、女性50代では「離婚や別居、交際を解消したいと思った」「人生や生き方について考え直したいと思った」の割合が他の性・年代に比べて高くなっている。さらに、男性30代・70歳以上では「特に何も思わなかった」の割合が2割半ばとなっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 暴力を受けて、どう行動したいと思ったか【性・年代別】※複数回答（すべて）

単位：%

	調査数	がまんするしかないと思	誰かに相談したいと思	相手と話したいと思	離婚や別居、交際を消	経済的に困らないよう	仕事を変えたいと思	人生や生き方につ	特に何も思わな	わどのよう	
		った	った	った	した	事を	え直	に何	か		
全体	741	39.3	13.5	26.9	27.5	16.1	5.3	20.0	13.5	9.9	
性・年代別	女性計	471	38.4	18.0	26.5	35.5	22.5	6.8	24.0	9.6	11.5
	18～29歳	27	25.9	18.5	33.3	37.0	25.9	14.8	25.9	3.7	22.2
	30代	53	34.0	22.6	35.8	30.2	17.0	5.7	13.2	17.0	15.1
	40代	80	35.0	26.3	33.8	36.3	23.8	8.8	23.8	8.8	11.3
	50代	89	40.4	20.2	23.6	53.9	29.2	11.2	37.1	5.6	10.1
	60代	86	33.7	15.1	18.6	41.9	23.3	3.5	27.9	7.0	7.0
	70歳以上	135	46.7	11.9	24.4	20.7	18.5	3.7	17.0	12.6	11.9
	男性計	260	40.4	5.4	27.7	14.2	5.0	2.7	12.3	20.0	7.3
	18～29歳	11	63.6	9.1	18.2	18.2	-	9.1	9.1	9.1	9.1
	30代	26	34.6	3.8	38.5	3.8	-	3.8	19.2	26.9	15.4
	40代	33	39.4	-	27.3	18.2	3.0	-	15.2	18.2	6.1
	50代	59	39.0	5.1	27.1	23.7	8.5	3.4	15.3	18.6	5.1
	60代	60	43.3	8.3	35.0	16.7	5.0	3.3	6.7	15.0	10.0
	70歳以上	71	38.0	5.6	19.7	5.6	5.6	1.4	11.3	25.4	4.2

単位：%

	調査数	その他	無回答
全体	741	4.5	7.0
性・年代別	女性計	4.2	6.6
	18～29歳	3.7	3.7
	30代	7.5	3.8
	40代	7.5	1.3
	50代	3.4	1.1
	60代	4.7	5.8
	70歳以上	1.5	14.8
	男性計	5.0	7.3
	18～29歳	9.1	9.1
	30代	-	-
	40代	12.1	3.0
	50代	3.4	6.8
	60代	3.3	3.3
	70歳以上	5.6	15.5

(14) 暴力を受けて、実際はどう行動したか

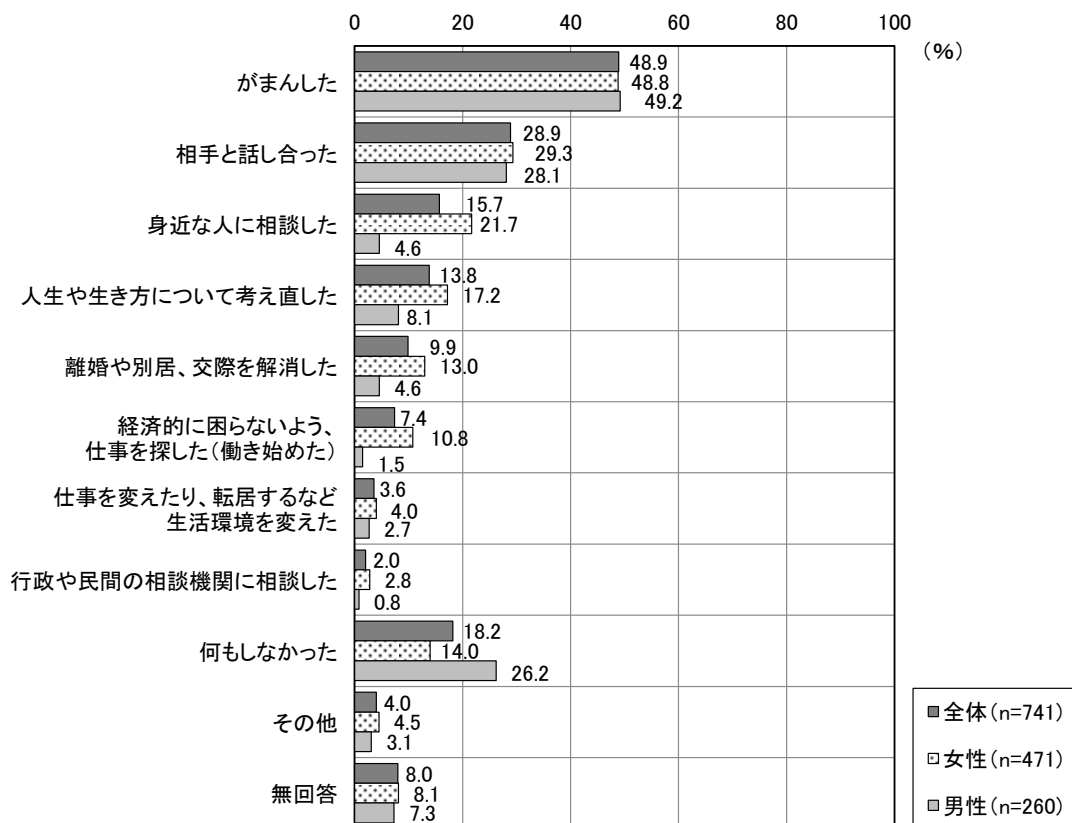
問 33 《 問 31 でひとつでも「1」「2」と回答した方におたずねします。 》

問 31 の行為をされたとき、実際には、どのように行動しましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

暴力を受けて、実際はどう行動したかについて聞いたところ、「がまんした」が 48.9%と最も多く、次いで「相手と話し合った」(28.9%)、「身近な人に相談した」(15.7%) となっている。

性別にみると、女性では「身近な人に相談した」(21.7%) の割合が男性 (4.6%) に比べて 17.1 ポイント高くなっている。また、男性では「何もしなかった」(26.2%) の割合が女性 (14.0%) に比べて 12.2 ポイント高くなっている。

図表 暴力を受けて、実際はどう行動したか【性別】※複数回答(すべて)



性・年代別にみると、女性 50 代では「離婚や別居、交際を解消した」の割合が 22.5%と他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性 30 代・70 歳以上では「何もしなかった」の割合が 3 割半ばとなっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 暴力を受けて、実際はどう行動したか【性・年代別】※複数回答（すべて）

単位：%

		調査数	がまんした	身近な人に相談した	行政や民間の相談機関に相談した	相手と話し合った	離婚や別居、交際を解消した	経済的に困らないよう、（働き始めた）	仕事を变えたり、転居するなど生活環境を変えた	直した 人生や生き方について考え	何もしなかった
全体		741	48.9	15.7	2.0	28.9	9.9	7.4	3.6	13.8	18.2
性・年代別	女性計	471	48.8	21.7	2.8	29.3	13.0	10.8	4.0	17.2	14.0
	18～29歳	27	33.3	29.6	-	44.4	7.4	11.1	-	11.1	11.1
	30代	53	45.3	34.0	-	41.5	13.2	5.7	3.8	1.9	9.4
	40代	80	50.0	30.0	2.5	38.8	16.3	10.0	6.3	17.5	13.8
	50代	89	52.8	24.7	4.5	30.3	22.5	16.9	7.9	27.0	9.0
	60代	86	51.2	16.3	7.0	24.4	11.6	9.3	1.2	20.9	12.8
	70歳以上	135	48.1	11.9	0.7	18.5	6.7	10.4	3.0	15.6	20.7
	男性計	260	49.2	4.6	0.8	28.1	4.6	1.5	2.7	8.1	26.2
	18～29歳	11	45.5	9.1	-	36.4	9.1	-	9.1	-	9.1
	30代	26	38.5	-	-	26.9	-	3.8	3.8	7.7	34.6
	40代	33	51.5	3.0	-	39.4	3.0	3.0	-	9.1	12.1
	50代	59	59.3	6.8	-	28.8	10.2	1.7	1.7	15.3	22.0
	60代	60	53.3	3.3	3.3	35.0	5.0	-	3.3	5.0	26.7
70歳以上	71	40.8	5.6	-	15.5	1.4	1.4	2.8	5.6	35.2	

単位：%

		調査数	その他	無回答
全体		741	4.0	8.0
性・年代別	女性計	471	4.5	8.1
	18～29歳	27	-	7.4
	30代	53	5.7	3.8
	40代	80	6.3	1.3
	50代	89	6.7	1.1
	60代	86	4.7	8.1
	70歳以上	135	2.2	18.5
	男性計	260	3.1	7.3
	18～29歳	11	9.1	9.1
	30代	26	-	3.8
	40代	33	3.0	3.0
	50代	59	3.4	3.4
	60代	60	3.3	1.7
70歳以上	71	2.8	18.3	

(15) 恋人、配偶者、パートナーからの暴力について知っている相談窓口

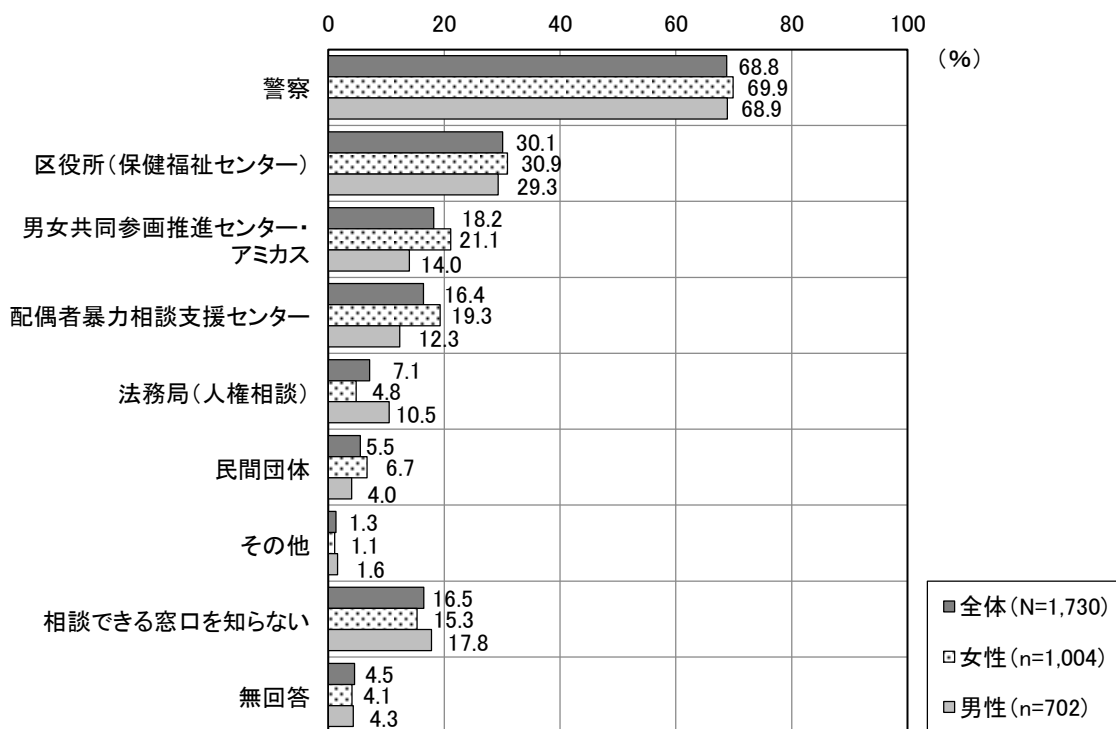
**問 34** あなたは恋人、配偶者、パートナーからの暴力について、相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。あてはまるものを**すべて**選んでください。

恋人、配偶者、パートナーからの暴力について知っている相談窓口について聞いたところ、「警察」が68.8%と最も多く、次いで「区役所（保健福祉センター）」(30.1%)、「男女共同参画推進センター・アミカス」(18.2%)となっている。

性別にみると、女性では「男女共同参画推進センター・アミカス」(21.1%)の割合が男性(14.0%)に比べて7.1ポイント、「配偶者暴力相談支援センター」(19.3%)の割合が男性(12.3%)に比べて7.0ポイント高くなっている。

図表 恋人、配偶者、パートナーからの暴力について知っている相談窓口

【性別】※複数回答（すべて）



性・年代別にみると、女性18～29歳・30代では「配偶者暴力相談支援センター」の割合が3割前後、女性40代～60代では「男女共同参画推進センター・アミカス」の割合が3割弱となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、女性70歳以上、男性18歳～40代では「相談できる窓口を知らない」の割合が2割を超えている。

図表 恋人、配偶者、パートナーからの暴力について知っている相談窓口

【性・年代別】※複数回答（すべて）

単位：%

		調査数	配偶者暴力相談支援センター	男女共同参画推進センター・アミカス	区役所（保健福祉センター）	警察	法務局（人権相談）	民間団体	その他	相談できる窓口を知らない	無回答
全体		1,730	16.4	18.2	30.1	68.8	7.1	5.5	1.3	16.5	4.5
性・年代別	女性計	1,004	19.3	21.1	30.9	69.9	4.8	6.7	1.1	15.3	4.1
	18～29歳	105	26.7	3.8	20.0	80.0	1.9	6.7	-	15.2	-
	30代	135	30.4	12.6	36.3	77.0	5.9	11.9	0.7	11.1	0.7
	40代	166	23.5	28.9	39.2	80.7	5.4	11.4	-	8.4	-
	50代	178	16.9	29.2	27.5	71.9	3.9	5.1	0.6	16.9	1.1
	60代	146	13.0	29.5	31.5	69.9	5.5	4.8	0.7	15.8	2.1
	70歳以上	268	13.4	17.2	29.5	54.9	4.9	3.0	3.0	20.1	12.7
	男性計	702	12.3	14.0	29.3	68.9	10.5	4.0	1.6	17.8	4.3
	18～29歳	58	15.5	8.6	31.0	67.2	8.6	8.6	-	22.4	-
	30代	71	7.0	8.5	25.4	70.4	4.2	-	2.8	25.4	-
	40代	103	13.6	11.7	35.9	68.9	6.8	5.8	1.0	21.4	1.0
	50代	140	13.6	15.0	28.6	78.6	8.6	5.7	0.7	16.4	-
	60代	135	10.4	17.0	27.4	71.9	17.0	3.7	0.7	14.1	4.4
	70歳以上	186	12.4	16.7	29.0	60.2	12.9	2.2	2.7	14.5	12.4

(16) 地域諸団体の活動への参加経験

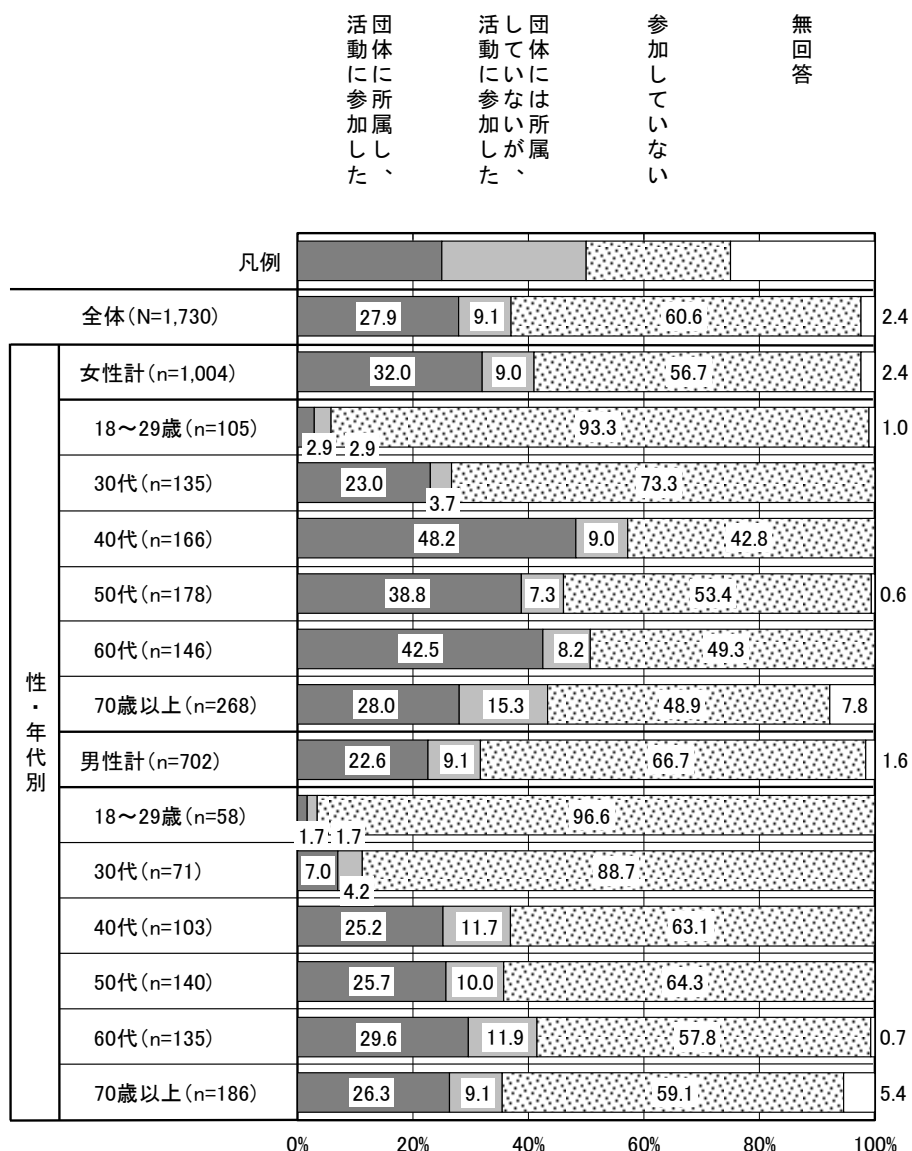
**問 35** あなたは、過去5年間に地域における諸団体（自治協議会、自治会・町内会、PTA、子ども育成連合会など）の活動に参加したことがありますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

過去5年間における地域諸団体の活動への参加経験について聞いたところ、「参加していない」が60.6%と最も多く、次いで「団体に所属し、活動に参加した」(27.9%)、「団体には所属していないが、活動に参加した」(9.1%)となっている。

性別にみると、女性では「団体に所属し、活動に参加した」(32.0%)の割合が男性(22.6%)に比べて9.4ポイント高くなっており、男性では「参加していない」(66.7%)の割合が女性(56.7%)に比べて10.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性40代では「団体に所属し、活動に参加した」の割合が48.2%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男女ともに18～29歳では「参加していない」の割合が9割を超えており、他の性・年代別に比べて高くなっている。

図表 地域諸団体の活動への参加経験【性・年代別】



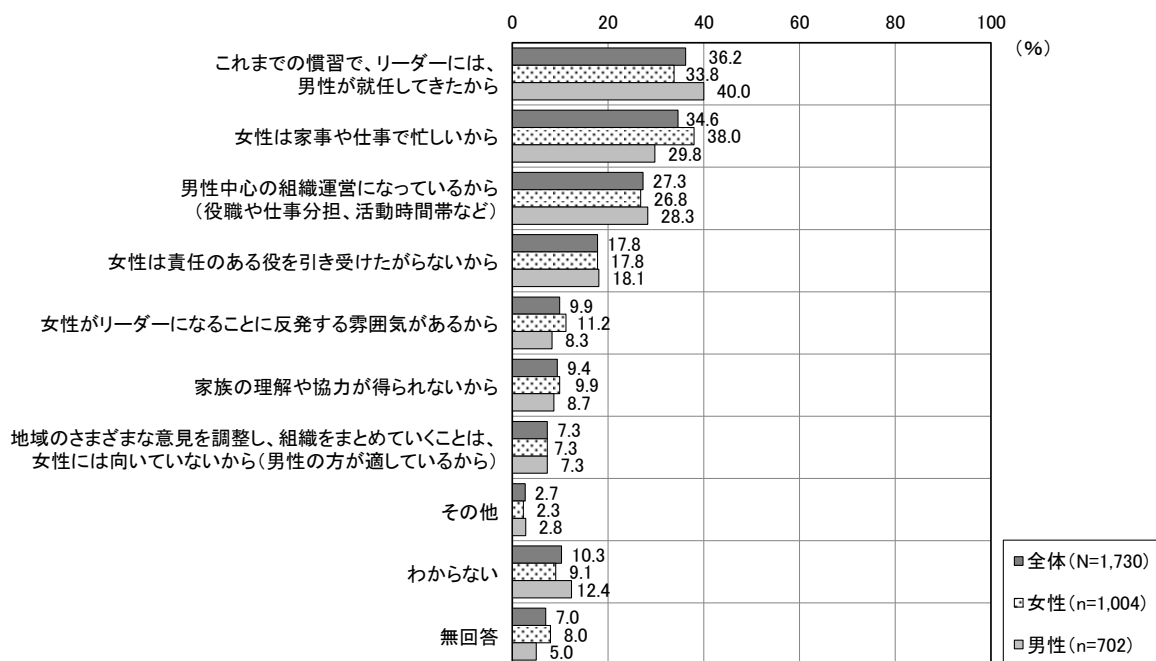
(17) 地域活動において女性のリーダーが少ない理由

**問 36** 現在福岡市では、地域における諸団体などの長（自治協議会会長、公民館長、PTA 会長など）への女性の就任状況は2割程度となっています。  
 あなたは、地域における活動に女性のリーダーが少ない理由は何だと思えますか。  
 あなたの考えに近いものを**2つまで**選んでください。

地域活動において女性のリーダーが少ない理由について聞いたところ、「これまでの慣習で、リーダーには、男性が就任してきたから」が36.2%と最も多く、次いで「女性は家事や仕事で忙しいから」(34.6%)、「男性中心の組織運営になっているから（役職や仕事分担、活動時間帯など）」(27.3%) となっている。

性別にみると、女性では「女性は家事や仕事で忙しいから」(38.0%)が男性(29.8%)に比べて8.2ポイント高くなっている。

図表 地域活動において女性のリーダーが少ない理由【性別】※複数回答（2つまで）



性・年代別にみると、女性 18 歳～40 代・70 歳以上では「女性は家事や仕事で忙しいから」の割合が最も高く、女性 18 歳～40 代では 4 割を超えている。また、女性 50 代・60 代、男性のすべての年代では「これまでの慣習で、リーダーには、男性が就任してきたから」の割合が最も高くなっている。さらに、男女ともに 70 歳以上では「地域のさまざまな意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性には向いていないから（男性の方が適しているから）」の割合が 1 割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 地域活動において女性のリーダーが少ない理由【性・年代別】※複数回答（2 つまで）

		単位:%							
調査数		女性は家事や仕事で忙しいから	（男性の方が適しているから） （調整し、組織をまとめていくことは、女性には向いていないから）	地域のさまざまな意見を調整し、組織をまとめていく	これまでの慣習で、男性が就任してきたから	女性がリーダーになることに 反発する雰囲気があるから	女性には責任のある役を引き受けたがらないから	男性中心の組織運営になって 活動時間帯など	家族の理解や協力が得られないから
全体	1,730	34.6	7.3	36.2	9.9	17.8	27.3	9.4	
性・年代別	女性計	1,004	38.0	7.3	33.8	11.2	17.8	26.8	9.9
	18～29歳	105	43.8	3.8	36.2	18.1	5.7	37.1	10.5
	30代	135	46.7	3.0	34.1	16.3	8.1	31.1	8.9
	40代	166	47.6	3.0	34.3	6.0	20.5	25.9	10.8
	50代	178	34.3	7.9	37.1	11.2	19.1	28.7	10.7
	60代	146	30.8	6.8	40.4	11.0	19.9	24.7	10.3
	70歳以上	268	32.1	13.4	27.2	9.0	24.3	21.6	9.0
	男性計	702	29.8	7.3	40.0	8.3	18.1	28.3	8.7
	18～29歳	58	22.4	8.6	41.4	13.8	10.3	25.9	6.9
	30代	71	28.2	4.2	40.8	9.9	5.6	33.8	15.5
	40代	103	29.1	3.9	39.8	6.8	16.5	30.1	9.7
	50代	140	33.6	5.7	35.7	12.1	20.7	28.6	9.3
	60代	135	29.6	8.9	43.0	5.9	20.0	31.1	5.9
70歳以上	186	30.6	10.2	41.4	5.9	21.5	24.7	7.5	

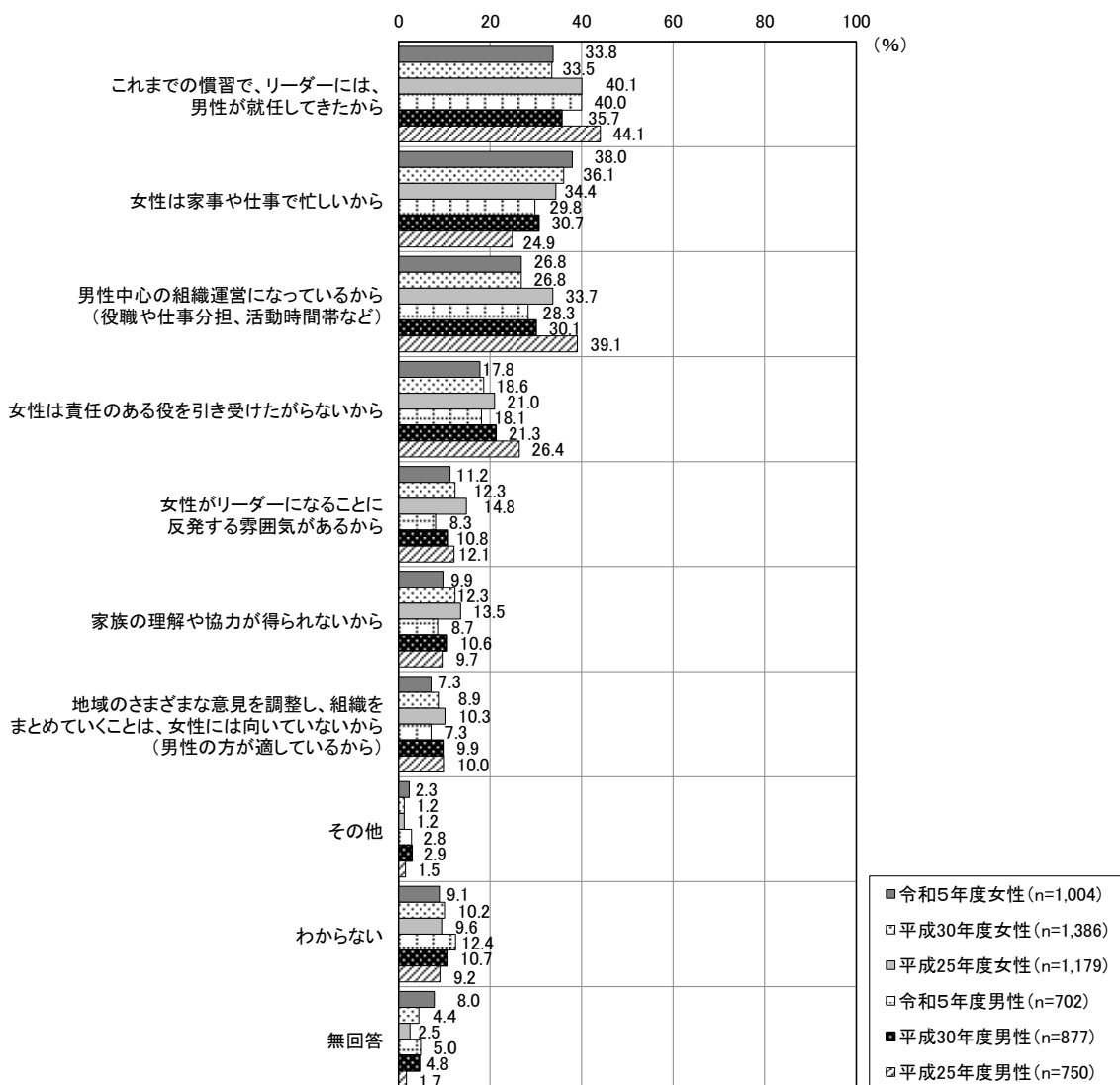
		単位:%			
調査数		その他	わからない	無回答	
全体	1,730	2.7	10.3	7.0	
性・年代別	女性計	1,004	2.3	9.1	8.0
	18～29歳	105	1.9	7.6	1.9
	30代	135	3.7	9.6	5.2
	40代	166	3.6	6.6	7.2
	50代	178	1.7	10.1	5.6
	60代	146	2.1	8.9	9.6
	70歳以上	268	1.5	9.7	12.7
	男性計	702	2.8	12.4	5.0
	18～29歳	58	5.2	20.7	-
	30代	71	5.6	14.1	4.2
	40代	103	3.9	14.6	1.0
	50代	140	2.1	12.1	2.9
	60代	135	1.5	10.4	4.4
70歳以上	186	2.2	8.1	11.3	



過去の調査結果と比較すると、女性では「女性は家事や仕事で忙しいから」の割合が増加している。また、男女ともに「女性は責任のある役を引き受けたがらないから」「女性がリーダーになることに反発する雰囲気があるから」「地域のさまざまな意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性には向いていないから（男性の方が適しているから）」の割合が減少している。

図表 地域活動において女性のリーダーが少ない理由

【過去の調査との比較】※複数回答（2つまで）



(18) 大規模災害時における女性や子育て家庭ならではの問題や困難に備えるために必要なこと

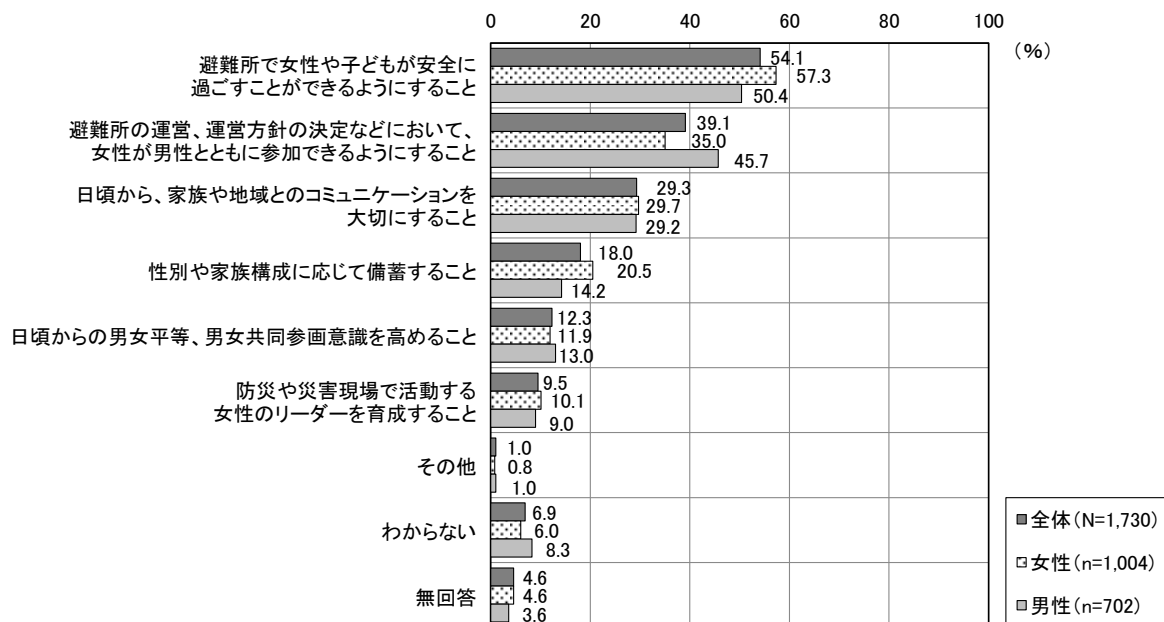
**問 37** 東日本大震災や熊本地震など、これまでの大規模災害時には女性や子育て家庭ならではの問題や困難が多く生じています。あなたは、これらの問題や困難に備えるために、どのようなことが必要だと思いますか。特にあてはまるものを**2つまで**選んでください。

大規模災害時における女性や子育て家庭ならではの問題や困難に備えるために必要なことについて聞いたところ、「避難所で女性や子どもが安全に過ごすことができるようにすること」が54.1%と最も多く、次いで「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性が男性とともに参加できるようにすること」(39.1%)、「日頃から、家族や地域とのコミュニケーションを大切にすること」(29.3%)となっている。

性別にみると、男性では「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性が男性とともに参加できるようにすること」(45.7%)の割合が女性(35.0%)に比べて10.7ポイント高くなっている。

図表 大規模災害時における女性や子育て家庭ならではの問題や困難に備えるために必要なこと

【性別】※複数回答(2つまで)



性・年代別にみると、男性70歳以上を除くすべての年代で「避難所で女性や子どもが安全に過ごすことができるようにすること」の割合が最も高くなっており、女性18歳～50代女性では6割を超えている。また、男性70歳以上では「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性が男性とともに参加できるようにすること」の割合が最も高くなっており、52.7%となっている。

図表 大規模災害時における女性や子育て家庭ならではの問題や困難に備えるために必要なこと  
【性・年代別】※複数回答（2つまで）

		単位:%									
調査数		避難所の運営、運営方針の決定などに参加できること	性別や家族構成に応じて備蓄すること	避難所で女性や子どもが安全に過ごすこと	防災や災害現場で活動する女性や子どもを育成すること	日頃から、家族や地域とのコミュニケーションを大切にする	日頃からの男女平等、男女共同参画意識を高めること	その他	わからない	無回答	
全体	1,730	39.1	18.0	54.1	9.5	29.3	12.3	1.0	6.9	4.6	
性・年代別	女性計	1,004	35.0	20.5	57.3	10.1	29.7	11.9	0.8	4.6	
	18～29歳	105	31.4	18.1	62.9	6.7	28.6	18.1	1.0	1.0	
	30代	135	35.6	28.1	61.5	6.7	22.2	11.9	1.5	4.4	
	40代	166	31.9	26.5	62.7	9.6	31.3	13.3	0.6	3.6	
	50代	178	34.3	25.3	64.6	7.9	22.5	9.0	0.6	2.2	
	60代	146	37.7	14.4	56.2	13.7	30.8	10.3	0.7	5.5	
	70歳以上	268	37.3	14.2	45.9	13.1	37.3	11.6	0.7	7.5	
	男性計	702	45.7	14.2	50.4	9.0	29.2	13.0	1.0	8.3	3.6
	18～29歳	58	36.2	20.7	37.9	3.4	29.3	8.6	-	17.2	3.4
	30代	71	47.9	22.5	50.7	7.0	23.9	11.3	1.4	11.3	1.4
	40代	103	39.8	23.3	54.4	4.9	32.0	12.6	-	7.8	1.0
	50代	140	40.7	13.6	56.4	7.9	26.4	16.4	2.9	7.1	2.1
60代	135	51.9	8.9	58.5	9.6	24.4	12.6	0.7	6.7	3.0	
70歳以上	186	52.7	8.6	42.5	14.5	34.9	13.4	0.5	4.3	7.5	

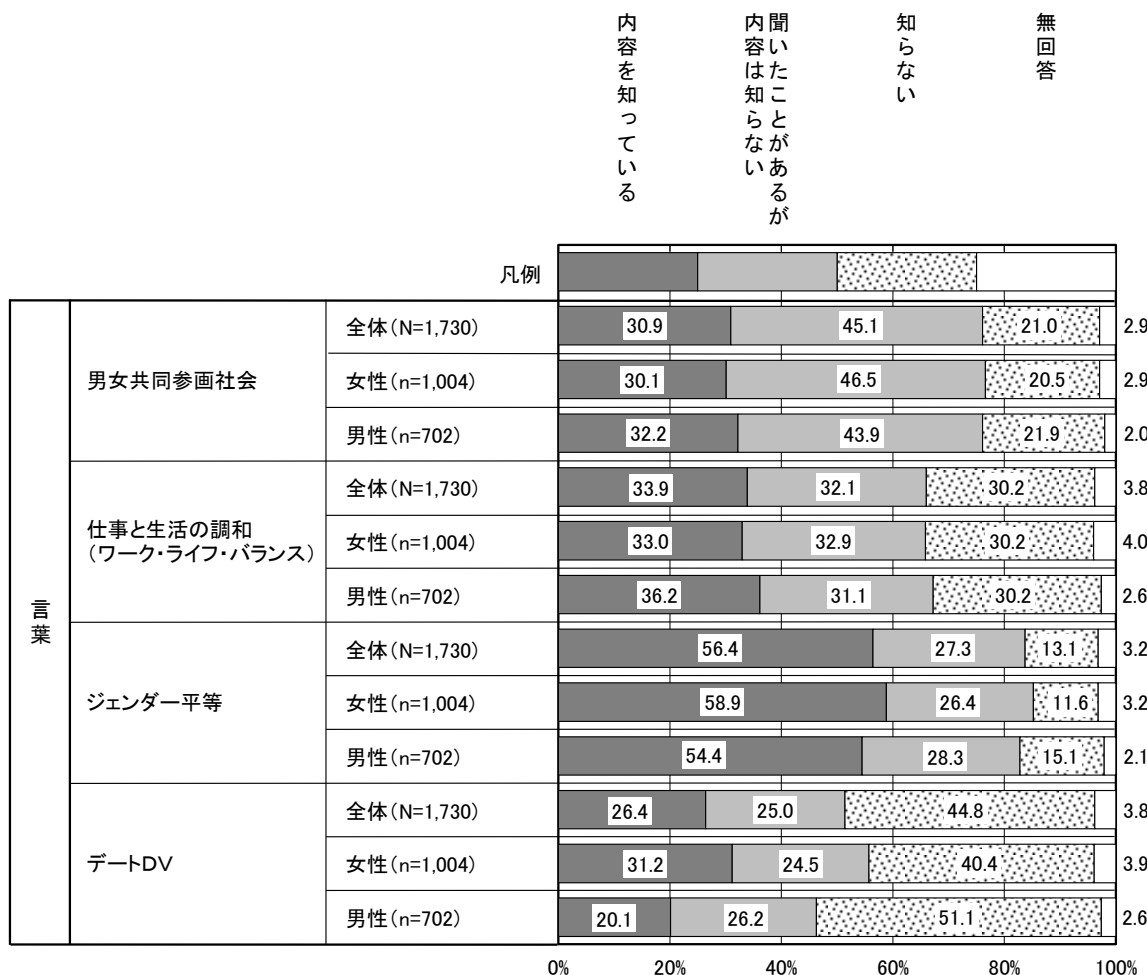
(19) 男女共同参画に関する言葉や施策の認知度

**問 38** 下記の(1)~(10)の言葉や施策について、あなたはどの程度知っていますか。(1)~(10)のそれぞれの項目についてあてはまるものを**1つずつ**選んでください。

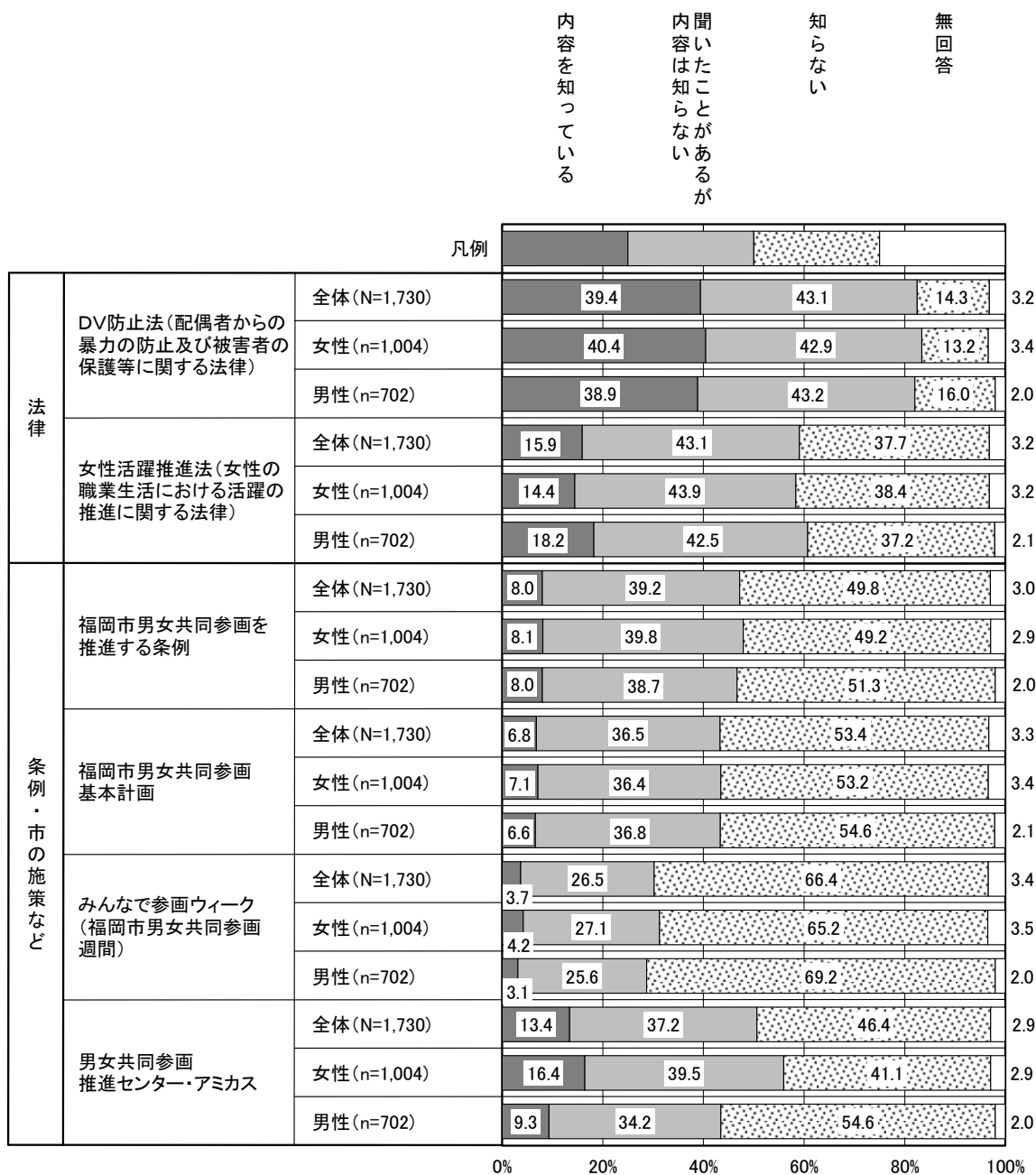
男女共同参画に関する言葉や施策の認知度について聞いたところ、「内容を知っている」の割合は、「ジェンダー平等」が56.4%と最も高く、次いで「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護などに関する法律）」(39.4%)、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」(33.9%)となっている。

性別にみると「デートDV」では「内容を知っている」の割合は、女性(31.2%)が男性(20.1%)に比べて11.1ポイント高くなっている。

図表 男女共同参画に関する言葉や施策の認知度【性別】(1/2)



図表 男女共同参画に関する言葉や施策の認知度【性別】(2/2)



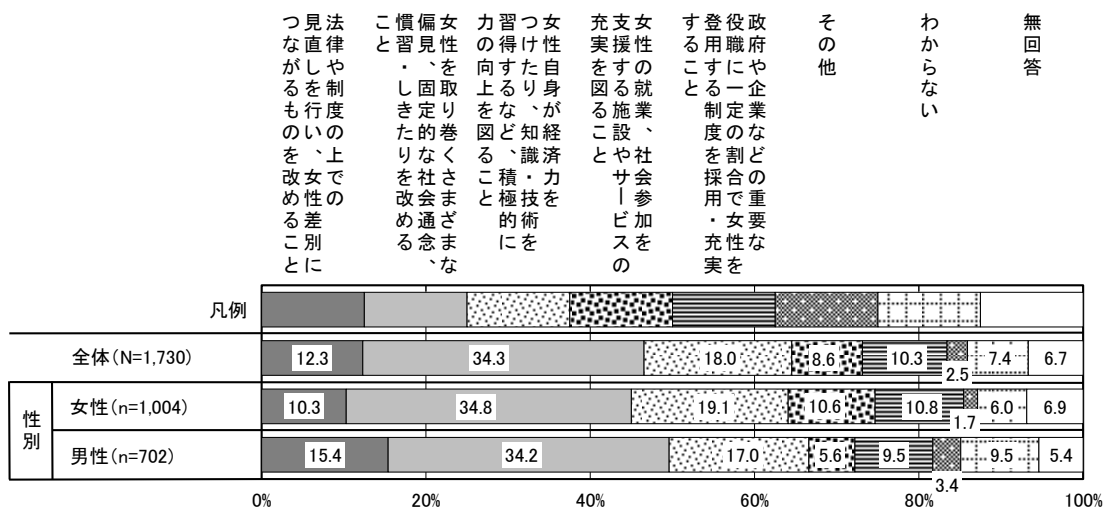
(20) 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと

**問 39** あなたが、今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために最も重要と思うことは何ですか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。

男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なことについて聞いたところ、「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が 34.3%と最も多く、次いで「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(18.0%)、「法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」(12.3%)となっている。

性別にみると、男性では「法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」(15.4%)の割合が女性(10.3%)に比べて5.1ポイント高くなっている。

図表 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと【性別】



性・年代別にみると、女性70歳以上を除くすべての年代では「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合が最も高くなっており、女性70歳以上では「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」の割合が最も高くなっている。

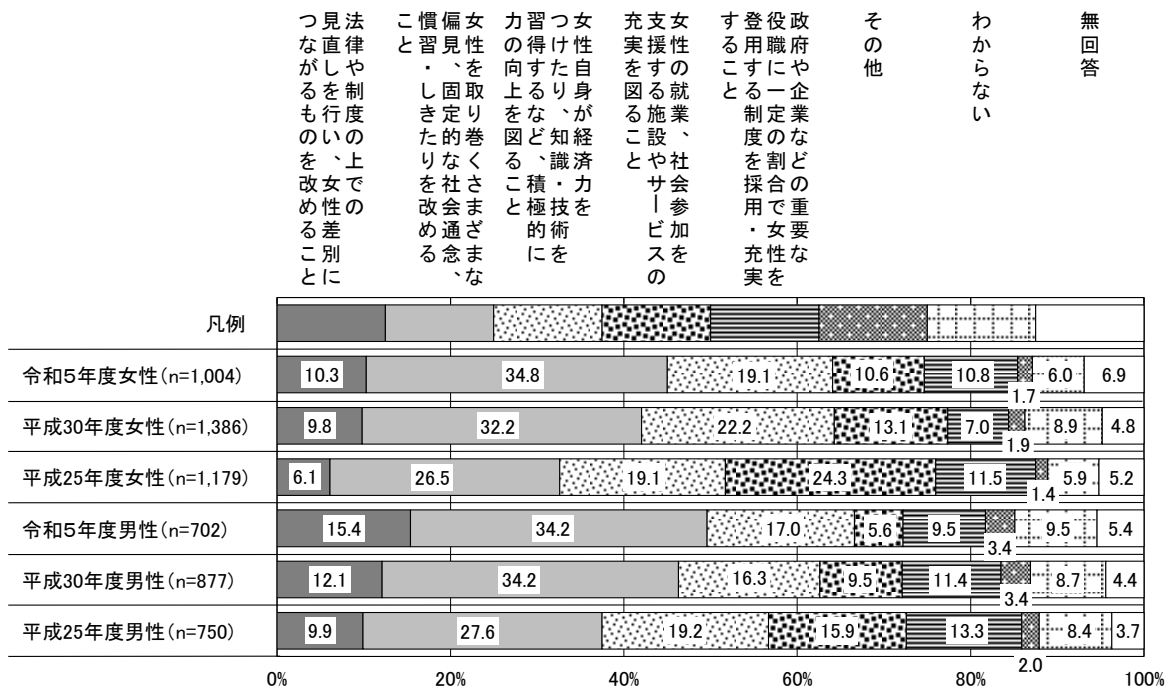
図表 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと【性・年代別】

単位:%

	調査数	つ見 な直 がし るを 行制 の度 の上 で女 性の 差 別に	こ慣偏女 と習見性 ・し固 きた定 たり的 をな 改を め社 め会 る通 念 、	力習つ女 の得け性 向すたり 上する をな等 をを 改積 め極 るに	充支女 実援性 をの 図就 る業 こと や施 サ設 ー社 ビ参 ス加 を	す登役政 用職や する一 こと制 度定 を割 採合 用度 ・重 女要 性な 充実	その他	わ か ら な い	無 回 答	
全体	1,730	12.3	34.3	18.0	8.6	10.3	2.5	7.4	6.7	
性・年代別	女性計	1,004	10.3	34.8	19.1	10.6	10.8	1.7	6.0	6.9
	18～29歳	105	11.4	49.5	14.3	13.3	1.9	3.8	5.7	-
	30代	135	5.9	40.0	22.2	11.9	6.7	1.5	6.7	5.2
	40代	166	12.0	36.1	15.7	10.2	13.9	4.2	1.8	6.0
	50代	178	11.2	39.3	16.3	10.1	9.6	1.7	7.3	4.5
	60代	146	8.9	35.6	19.9	12.3	13.7	-	3.4	6.2
	70歳以上	268	11.2	21.6	23.1	8.6	13.8	0.4	8.6	12.7
	男性計	702	15.4	34.2	17.0	5.6	9.5	3.4	9.5	5.4
	18～29歳	58	12.1	36.2	19.0	5.2	6.9	5.2	12.1	3.4
	30代	71	12.7	40.8	15.5	7.0	5.6	7.0	8.5	2.8
	40代	103	19.4	33.0	17.5	5.8	5.8	4.9	10.7	2.9
	50代	140	15.7	35.0	17.1	8.6	10.0	2.9	8.6	2.1
60代	135	17.8	31.1	20.0	3.7	8.1	3.0	8.9	7.4	
70歳以上	186	13.4	34.4	15.1	3.8	15.1	1.6	7.5	9.1	

過去の調査結果と比較すると、女性では「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合が増加している。また、男女ともに「法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」の割合が増加している。さらに、男女ともに「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」の割合が減少している。

図表 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと【過去の調査との比較】





(21) 「男女共同参画社会」実現のために、市が力を入れていくべきこと

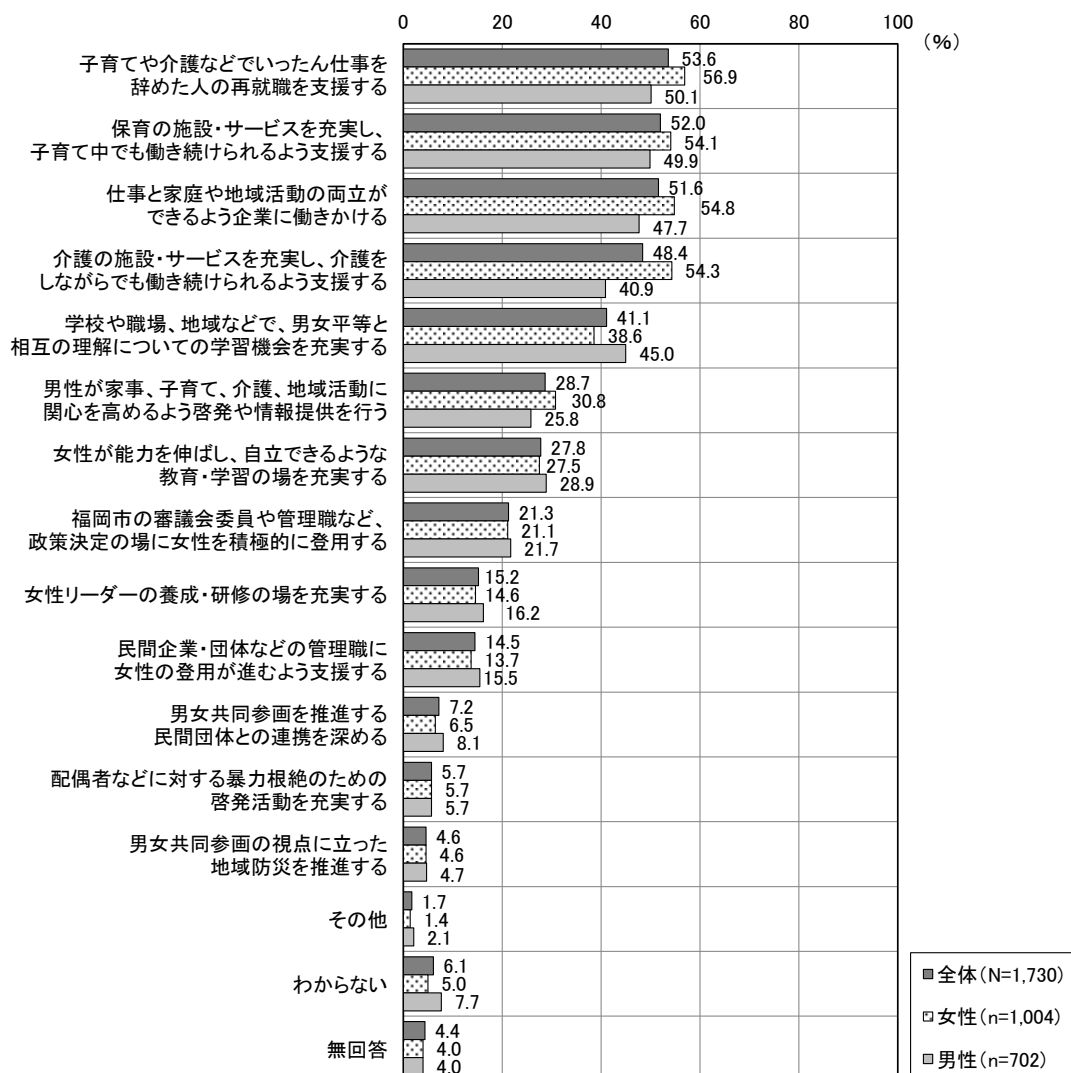
**問 40** 「男女共同参画社会」とは、男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会です。あなたは、「男女共同参画社会」を実現するために、今後、福岡市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものを**5つまで**選んでください。

「男女共同参画社会」実現のために、市が力を入れていくべきことについて聞いたところ、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が53.6%と最も多く、次いで「保育の施設・サービスを充実し、子育て中でも働き続けられるよう支援する」(52.0%)、「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」(51.6%)となっている。

性別にみると、女性では「介護の施設・サービスを充実し、介護をしながらでも働き続けられるよう支援する」(54.3%)の割合が男性(40.9%)に比べて13.4ポイント高くなっている。

図表 「男女共同参画社会」実現のために、市が力を入れていくべきこと

【性別】 ※複数回答(5つまで)



性・年代別にみると、女性30代では「保育の施設・サービスを充実し、子育て中でも働き続けられるよう支援する」の割合が64.4%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、女性50代以上では「介護の施設・サービスを充実し、介護をしながらでも働き続けられるよう支援する」の割合が6割前後となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 「男女共同参画社会」実現のために、市が力を入れていくべきこと  
【性・年代別】※複数回答（5つまで）

単位:%

性・年代別	調査数	すつ男学校	場でき女性	働両仕事	再いつ子	提高介男	続充保	支でも充介	する管福	
		すつ男学校 る女校や て平や職 の等と場 学習相、地 機互の域 会をの理 充解な 実にで、	場でき女性 を充る能 実する力 すなを伸 教育ばし ・学習自 立	働両仕事 立がと家 きか庭や けるる域 よう活 業に	再いつ子 就つたん 職をん仕 支援事 するを辞 めた人 の	提高介男 供めるが るよう地 啓活家 発動事 やに子 情育育 報をて、	続充保 けられの る子育 よう・サ 支援中 するでも 働き働 き	支でも充介 援す働しの るし続設 けをサ らし介 るをス ら	する管福 るに職な を積の審 極政 的策 に会 登員 用のや	
全体	1,730	41.1	27.8	51.6	53.6	28.7	52.0	48.4	21.3	
性・年代別	女性計	1,004	38.6	27.5	54.8	56.9	30.8	54.1	54.3	21.1
	18～29歳	105	44.8	24.8	64.8	52.4	37.1	57.1	36.2	17.1
	30代	135	34.8	31.1	62.2	62.2	36.3	64.4	40.7	20.7
	40代	166	47.0	30.7	62.7	60.8	34.9	53.0	51.8	22.9
	50代	178	37.1	19.1	57.3	59.0	28.1	53.4	62.9	20.8
	60代	146	44.5	31.5	56.8	52.7	26.0	54.8	62.3	21.9
	70歳以上	268	31.3	28.4	39.9	54.9	27.6	48.5	59.7	21.6
	男性計	702	45.0	28.9	47.7	50.1	25.8	49.9	40.9	21.7
	18～29歳	58	48.3	32.8	60.3	43.1	29.3	34.5	27.6	12.1
	30代	71	43.7	23.9	62.0	47.9	32.4	57.7	38.0	19.7
	40代	103	44.7	24.3	48.5	49.5	25.2	54.4	40.8	18.4
	50代	140	49.3	32.9	50.0	55.7	24.3	47.1	40.7	19.3
	60代	135	41.5	31.1	46.7	55.6	25.2	51.1	42.2	23.0
	70歳以上	186	46.2	28.0	37.6	46.2	24.7	51.1	46.2	29.0

単位:%

性・年代別	調査数	よう管民間	充根配偶	研女性リ	民男女共	立男女共	その他	わから	無回	
		よう管民間 支職に業 援する女性 の登用が 進む	充根配偶 実絶者 するた ための 啓対 発活暴 動を力	研女性リ 修の場 を充実 する の養成	民男女共 同参画 との連 携を推 進する を深 める	立男女共 同参画 の視点 を推 進する	その他	わから ない	無回 答	
全体	1,730	14.5	5.7	15.2	7.2	4.6	1.7	6.1	4.4	
性・年代別	女性計	1,004	13.7	5.7	14.6	6.5	4.6	1.4	5.0	4.0
	18～29歳	105	8.6	7.6	17.1	9.5	1.9	1.9	6.7	-
	30代	135	14.1	4.4	9.6	4.4	0.7	3.0	6.7	1.5
	40代	166	14.5	3.6	15.7	6.0	4.8	1.8	1.8	1.8
	50代	178	12.9	5.1	8.4	4.5	2.8	1.1	7.9	2.8
	60代	146	16.4	7.5	17.1	5.5	2.7	1.4	0.7	2.7
	70歳以上	268	14.2	6.3	18.7	8.2	9.7	0.4	5.6	9.7
	男性計	702	15.5	5.7	16.2	8.1	4.7	2.1	7.7	4.0
	18～29歳	58	8.6	1.7	20.7	12.1	1.7	-	8.6	5.2
	30代	71	12.7	8.5	12.7	5.6	7.0	5.6	2.8	1.4
	40代	103	10.7	8.7	9.7	3.9	4.9	2.9	8.7	1.0
	50代	140	15.7	5.0	17.9	7.1	5.0	2.9	7.1	1.4
	60代	135	14.8	4.4	11.9	8.1	4.4	2.2	9.6	4.4
	70歳以上	186	22.6	5.9	22.6	11.3	4.8	0.5	5.4	7.5

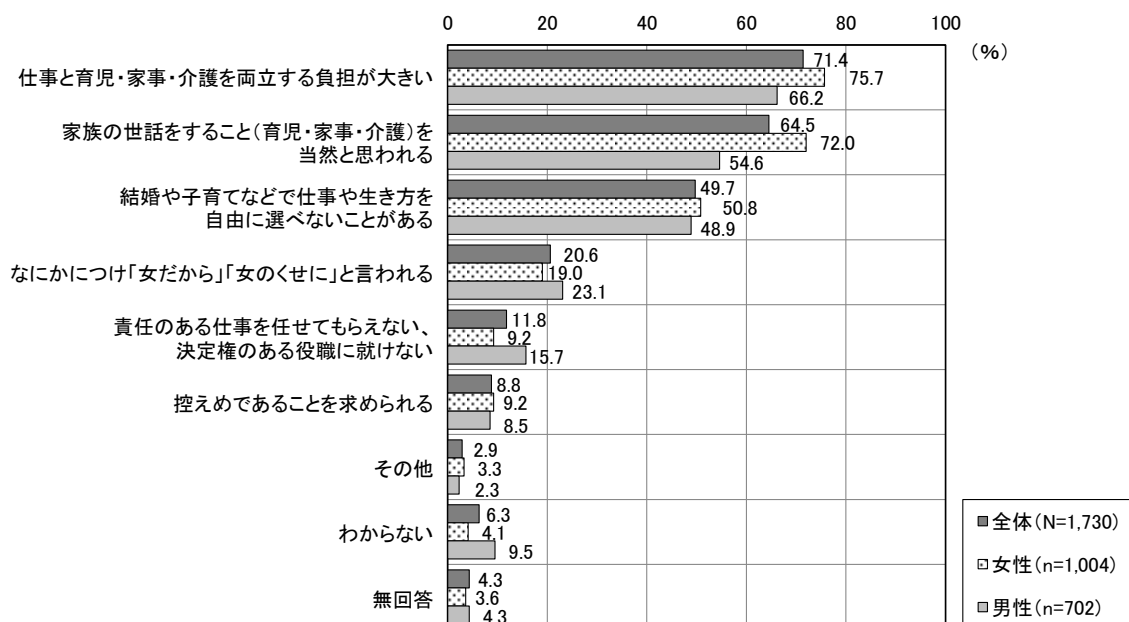
(22) 女性が生きづらさを感じる理由

**問 41** 女性が生きづらさを感じる理由は何だと思いますか。あなたの考えに近いものを**3つ**まで選んでください。

女性が生きづらさを感じる理由について聞いたところ、「仕事と育児・家事・介護を両立する負担が大きい」が71.4%と最も多く、次いで「家族の世話をすること（育児・家事・介護）を当然と思われる」(64.5%)、「結婚や子育てなどで仕事や生き方を自由に選べないことがある」(49.7%)となっている。

性別にみると、女性では「家族の世話をすること（育児・家事・介護）を当然と思われる」(72.0%)の割合が男性（54.6%）に比べて17.4ポイント高くなっている。

図表 女性が生きづらさを感じる理由【性別】※複数回答（3つまで）



性・年代別にみると、女性30代では「結婚や子育てなどで仕事や生き方を自由に選べないことがある」の割合が74.1%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男女ともに18～29歳では「なにかにつけ「女だから」「女のくせに」と言われる」の割合が3割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 女性が生きづらさを感じる理由【性・年代別】※複数回答（3つまで）

単位：%

	調査数	「なにかにつけ「女だから」と言われる」	「結婚や子育てなどで仕事や生き方を自由に選べないことがある」	「両立する負担が大きい」	「仕事と育児・家事・介護を」	「当然と思われる（育児・家事・介護）を」	「家族の世話をすること」	「役職に就けない、決定権のある仕事を任せてもらえない、決定権のある」	「責任のある仕事を任せて」	「求められ、控えられ、求められ」	「その他」	「わからない」	「無回答」
全体	1,730	20.6	49.7	71.4	64.5	11.8	8.8	2.9	6.3	4.3			
性・年代別	女性計	1,004	19.0	50.8	75.7	72.0	9.2	9.2	3.3	4.1	3.6		
	18～29歳	105	30.5	62.9	72.4	65.7	4.8	5.7	5.7	4.8	-		
	30代	135	11.1	74.1	79.3	76.3	5.2	8.1	3.0	2.2	1.5		
	40代	166	18.7	50.0	77.7	72.9	7.2	3.6	5.4	3.6	2.4		
	50代	178	12.9	50.0	82.0	74.2	7.3	12.4	2.8	3.4	2.8		
	60代	146	16.4	48.6	80.8	78.8	11.0	13.0	2.7	-	2.7		
	70歳以上	268	24.6	37.3	67.2	67.5	14.2	10.4	1.9	7.5	7.8		
	男性計	702	23.1	48.9	66.2	54.6	15.7	8.5	2.3	9.5	4.3		
	18～29歳	58	36.2	50.0	46.6	36.2	10.3	8.6	-	15.5	5.2		
	30代	71	22.5	59.2	66.2	59.2	19.7	7.0	1.4	4.2	2.8		
	40代	103	20.4	50.5	64.1	53.4	9.7	8.7	3.9	9.7	-		
	50代	140	21.4	43.6	69.3	54.3	14.3	9.3	5.7	8.6	1.4		
60代	135	25.9	46.7	68.1	57.0	10.4	8.1	1.5	11.1	5.2			
70歳以上	186	21.0	49.5	71.0	58.6	24.7	8.6	0.5	7.5	8.1			

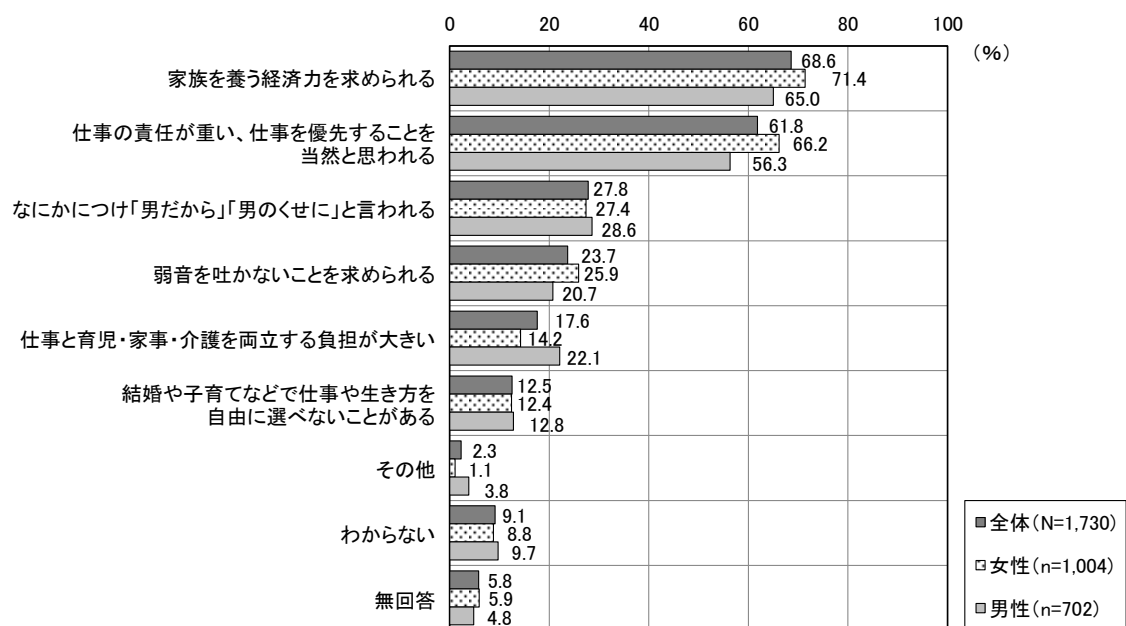
### (23) 男性が生きづらさを感じる理由

**問 42** 男性が生きづらさを感じる理由は何だと思いますか。あなたの考えに近いものを**3つ**まで選んでください。

男性が生きづらさを感じる理由について聞いたところ、「家族を養う経済力を求められる」が68.6%と最も多く、次いで「仕事の責任が重い、仕事を優先することを当然と思われる」(61.8%)、「なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」(27.8%)となっている。

性別にみると、女性では「仕事の責任が重い、仕事を優先することを当然と思われる」(66.2%)の割合が男性(56.3%)に比べて9.9ポイント高くなっている。また、男性では「仕事と育児・家事・介護を両立する負担が大きい」(22.1%)の割合が女性(14.2%)に比べて7.9ポイント高くなっている。

図表 男性が生きづらさを感じる理由【性別】※複数回答(3つまで)



性・年代別にみると、女性 18～29 歳、男性 18～29 歳・30 代では「なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」の割合が 4 割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、女性 60 代では「仕事の責任が重い、仕事を優先することを当然と思われる」の割合が 76.7% となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。さらに、男性 30 代では「弱音を吐かないことを求められる」の割合が 35.2% となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 男性が生きづらさを感じる理由【性・年代別】※複数回答（3 つまで）

		単位: %									
	調査数	「なにかにつけ「男だから」と言われる」	結婚や子育てなどで仕事や生活が自由を選べないことがある	仕事と育児・家事・介護を両立する負担が大きい	家族を養う経済力を求められる	仕事の責任が重い、仕事を優先することを当然と思われる	弱音を吐かないことを求められる	その他	わからない	無回答	
全体	1,730	27.8	12.5	17.6	68.6	61.8	23.7	2.3	9.1	5.8	
性・年代別	女性計	1,004	27.4	12.4	14.2	71.4	66.2	25.9	1.1	8.8	5.9
	18～29歳	105	46.7	18.1	13.3	75.2	59.0	22.9	-	8.6	2.9
	30代	135	38.5	9.6	6.7	83.0	76.3	30.4	1.5	5.2	0.7
	40代	166	26.5	13.9	14.5	77.1	68.1	25.9	3.0	5.4	3.6
	50代	178	21.9	12.4	6.2	69.7	69.1	29.2	1.7	10.1	2.8
	60代	146	18.5	10.3	17.8	71.2	76.7	25.3	-	6.8	4.1
	70歳以上	268	22.8	11.9	22.0	62.3	55.6	23.5	0.4	12.7	13.4
	男性計	702	28.6	12.8	22.1	65.0	56.3	20.7	3.8	9.7	4.8
	18～29歳	58	50.0	15.5	24.1	58.6	44.8	17.2	1.7	10.3	5.2
	30代	71	46.5	8.5	19.7	76.1	56.3	35.2	2.8	4.2	4.2
	40代	103	32.0	9.7	14.6	63.1	59.2	19.4	4.9	11.7	-
	50代	140	26.4	13.6	19.3	64.3	60.7	20.0	5.0	10.7	2.1
	60代	135	22.2	12.6	20.7	63.0	54.8	20.7	5.2	10.4	5.2
70歳以上	186	20.4	15.6	30.6	67.7	57.5	17.2	2.7	7.0	9.1	

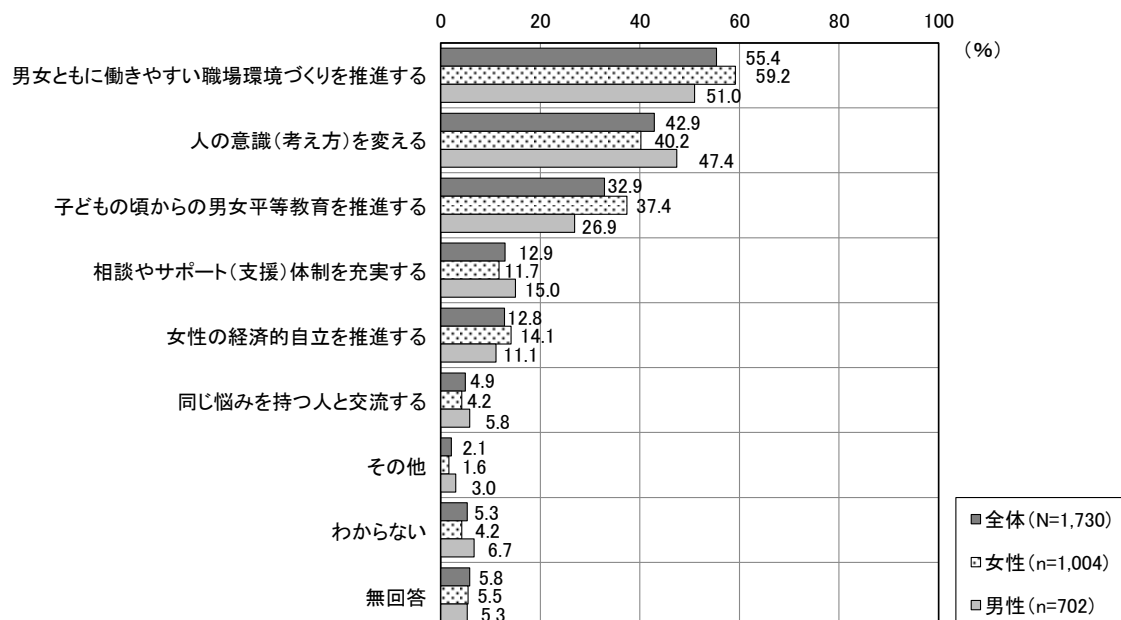
(24) 男女の生きづらさを解消するための有効な取組み

**問 43** 男女の生きづらさを解消するために有効な取組みは何だと思えますか。あなたの考えに近いものを**2つまで**選んでください。

男女の生きづらさを解消するための有効な取組みについて聞いたところ、「男女ともに働きやすい職場環境づくりを推進する」が55.4%と最も多く、次いで「人の意識(考え方)を変える」(42.9%)、「子どもの頃からの男女平等教育を推進する」(32.9%)となっている。

性別にみると、女性では「子どもの頃からの男女平等教育を推進する」(37.4%)の割合が男性(26.9%)に比べて10.5ポイント高くなっている。また、男性では「人の意識(考え方)を変える」(47.4%)の割合が女性(40.2%)に比べて7.2ポイント高くなっている。

図表 男女の生きづらさを解消するための有効な取組み【性別】※複数回答(2つまで)



性・年代別にみると、女性 50 代、男性 18 歳～50 代では「人の意識（考え方）を変える」の割合が 5 割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、女性 40 代・60 代では「子どもの頃からの男女平等教育を推進する」の割合が 4 割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 男女の生きづらさを解消するための有効な取組み【性・年代別】※複数回答（2 つまで）

単位：%

	調査数	人の意識（考え方）を変える	子どもの頃からの男女平等教育を推進する	相談やサポート（支援）体制を充実する	同じ悩みを持つ人と交流する	女性の経済的自立を推進する	男女ともに働きやすい職場環境づくりを推進する	その他	わからない	無回答	
全体	1,730	42.9	32.9	12.9	4.9	12.8	55.4	2.1	5.3	5.8	
性・年代別	女性計	1,004	40.2	37.4	11.7	4.2	14.1	59.2	1.6	4.2	5.5
	18～29歳	105	41.0	35.2	11.4	4.8	12.4	63.8	1.9	2.9	2.9
	30代	135	43.7	34.8	11.1	3.7	16.3	63.7	2.2	3.0	2.2
	40代	166	42.8	44.0	10.8	3.0	10.8	61.4	2.4	3.0	3.6
	50代	178	52.2	34.8	7.3	3.4	13.5	55.6	2.8	3.9	3.4
	60代	146	38.4	41.8	12.3	4.1	13.7	59.6	-	3.4	6.8
	70歳以上	268	29.9	35.1	14.9	5.6	16.8	56.0	0.7	6.3	10.1
	男性計	702	47.4	26.9	15.0	5.8	11.1	51.0	3.0	6.7	5.3
	18～29歳	58	53.4	22.4	10.3	8.6	17.2	44.8	1.7	6.9	6.9
	30代	71	56.3	28.2	9.9	5.6	11.3	59.2	2.8	2.8	2.8
	40代	103	55.3	25.2	11.7	3.9	5.8	51.5	6.8	4.9	-
	50代	140	54.3	19.3	12.9	7.1	12.9	52.9	5.0	7.1	1.4
	60代	135	48.9	26.7	15.6	6.7	13.3	43.7	2.2	8.1	5.9
70歳以上	186	33.3	34.9	22.0	4.8	9.7	54.3	0.5	5.4	10.8	